

塩部遺跡 I

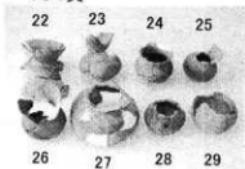
— 山梨県都市計画道路「塩部町開国橋線」道路改良工事に伴う発掘調査報告書 —

2004

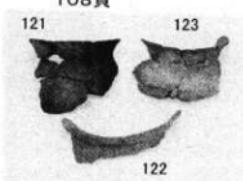
山梨県峡中地域振興局
甲府市教育委員会

写真図版誤植

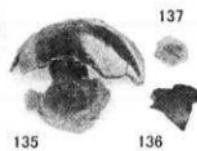
104頁



108頁



108頁



序

本書は、甲府市の南北を結ぶ新たな架橋として期待されている、山梨県都市計画道路「塩部町開国橋線」の道路改良工事に先立ち、平成13年度に緊急発掘調査を実施した塩部遺跡の調査報告書であります。

遺跡が所在する塩部地区周辺には、その昔「塩部田んぼ」と呼ばれる水田地帯が広がっていましたが、戦後になりますと宅地化が進み、周辺の地形も大きく様変わりする中で、のどかな水田風景は人々が暮らす街並みへと移り変わってまいりました。数十年間の変遷でさえも、長い年月の中から見ればほんの一コマであり、その長い年月による遺跡という土地に刻まれた履歴を紐解きますと、文献には記録されることのなかった先人達の生活の様子を知ることができます。

このたび発掘調査の運びとなりました地点では、弥生時代末期から古墳時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡などが多数発掘され、掘立柱建物跡の規則的な配置から、一定の計画に基づいて形成された大規模な集落の存在が伺われます。

本書は、こうした貴重な調査成果を記録し、後世に引き継いでいく目的で編集しており、資料や研究の蓄積によりまして、古代の甲府の生活や文化がより具体的に解明されることを願わずにはいられません。

最後になりましたが、このたびの発掘調査にあたり、御協力を賜りました山梨県峡中地域振興局をはじめといたします関係各位に心より御礼を申し上げますとともに、本市文化財保護行政の更なる推進に引き続き御助力をいただけますよう、お願い申し上げます。

平成16年1月

甲府市教育委員会
教育長 角田智重

例 言

1. 本書は山梨県甲府市塩部二丁目地内に所在する塩部遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本調査は、山梨県都市計画道路「塩部町開国橋線」道路改良工事に伴うものであり、山梨県峡中地域振興局との協定に基づき、甲府市教育委員会が主体となり実施した。
3. 調査経費は、試掘調査を甲府市教育委員会、本調査を山梨県峡中地域振興局が負担した。
4. 試掘調査は、佐々木満（文化財主事）が担当し、本調査は佐々木満・山崎雅恵（富山大学大学院人文科学系研究科修了）・望月秀和（元文化芸術課嘱託）が担当した。
5. 発掘調査の期間及び面積は以下の通りである。

試掘調査	平成13年7月4日～7月25日	調査面積 約180m ²
本調査	平成13年11月8日～3月29日	調査面積 約1300m ²
6. 本書の執筆は、佐々木満が行い、図化作業は栗田かず子・林久美子・鈴木由香が行った。
7. 国土座標測量及び航空写真測量は、㈱シン技術コンサルに委託した。
8. 出土した木製品の保存処理は、跡帝京大学山梨文化財研究所に委託した。
9. 本書の編集は、中込 功（文化芸術課長）を責任者とし、佐々木満が行った。
10. 本書に係る出土遺物及び記録図面、写真などは甲府市教育委員会で保管している。
11. 発掘調査及び報告書の作成にあたっては、次の機関及び諸氏から御指導・御協力を賜った。記して厚く感謝申し上げる。

山梨県峡中地域振興局都市整備課・山梨県教育委員会学術文化財課・㈱間組・㈱坂本建運
石神孝子・岡野秀典・小林健二・畠 大介・保坂和博・宮澤公雄

12. 調査・整理作業参加者及び協力者

荒木昭彦	雨宮英郎	池谷富士子	岡 悅子	小沢四郎	影山博子
金井いく代	川口格一	岸本美苗	倉田勝子	窪田信一	栗田宏一
工藤忠誠	小池孝男	小池幹子	小宮通子	坂本しのぶ	佐田金子
佐田 昇	佐藤美喜男	清水秀樹	鈴木正文	末木義光	高橋主税
武井美知子	塙原澄子	雀田 勝	長澤晴雄	中村孝一	波木井祥和
花曲敬子	平沢則子	樋口 進	福井光幸	古屋袈裟男	本道政清
本道歌子	望月宏美	望月貴美子	渡辺百合子	渡辺 茂	

凡 例

1. 調査においては、X-36850.00・Y-5360.00を基軸として5mグリッドを設定している。
2. 本書に掲載した地図は、平成3年度甲府市都市計画図2500分の1・10000分の1を用いた。
3. 造構断面土層の色調及び遺物観察表中の色調は、「標準土色帖」（農林水産省農林水産技術会議事務局監修 1997後期）に基づいている。
4. 造構・遺物の実測図縮尺は、図中に示した通りである。
5. セクション図に表記されている水平線の数値は、海拔高度を表し、単位はmである。

また、セクションポイント表記のE・W・S・Nは、東西南北を表し、同じ造構で複数の断面観察を行っているところは、アルファベットで表記している。
6. 本書作成に際して引用・参考にした文献は、一括して本書の最後に記載した。
7. 本書に使用した記号及びスクリーントーンで、各図中で指示のないものは、以下のとおりである。



目 次

序
例 言・凡 例
目 次
挿図・挿表目次

第 1 章 調査の概要	1
第 1 節 調査に至る経緯	1
第 2 節 試掘調査と基本層位	1
第 3 節 調査の方法	4
第 4 節 調査の経過	4
第 2 章 塩部遺跡の概要	6
第 1 節 遺跡の立地	6
第 2 節 歴史的環境	6
第 3 節 周辺の遺跡	7
第 3 章 造構と遺物	8
第 1 節 溝 跡	8
第 2 節 建物跡及び柱穴列	12
(1) 周溝付平地建物跡	12
(2) 竪穴建物跡	15
(3) 掘立柱建物跡	42
(4) 柱穴列	48
第 3 節 方形周溝墓	56
第 4 節 土 壤	56
第 5 節 造構外出土遺物ほか	59
第 4 章 考 察	84
第 1 節 塩部遺跡の集落変遷	84
第 2 節 塩部遺跡と周辺の景観	86
第 5 章 結 語	92
参考文献	92
写真図版	93
付図：全体図	

挿図・挿表目次

図 1 調査区位置図	2
図 2 試掘調査トレンチ位置図(S = 1 / 1000)	3
図 3 グリッド配置図	5
図 4 塩部遺跡及び周辺遺跡分布図	7
図 5 1号溝跡	9
図 6 1～2号周溝付平地建物跡	13
図 7 3号周溝付平地建物跡	14
図 8 1～2号竪穴建物跡	16
図 9 3号竪穴建物跡	18
図10 4号竪穴建物跡	19
図11 5号竪穴建物跡	20
図12 5～6号竪穴建物跡	21
図13 6号竪穴建物跡	23
図14 7号竪穴建物跡(1)	24
図15 7号竪穴建物跡(2)	25
図16 8号竪穴建物跡(1)	27
図17 8号竪穴建物跡(2)	28
図18 9号竪穴建物跡	29
図19 9～10号竪穴建物跡	30
図20 10号竪穴建物跡	31
図21 11～12号竪穴建物跡	32
図22 13号竪穴建物跡(1)	33
図23 13号竪穴建物跡(2)	35
図24 14号竪穴建物跡(1)	36
図25 14号竪穴建物跡(2)	37
図26 15号竪穴建物跡	38
図27 16号竪穴建物跡(1)	39
図28 16号竪穴建物跡(2)	40
図29 17号竪穴建物跡	41
図30 18～20号竪穴建物跡	43
図31 1～4号掘立柱建物跡	50
図32 5～9号掘立柱建物跡	51
図33 10～13号掘立柱建物跡	52
図34 14～17号掘立柱建物跡	53
図35 18～21号掘立柱建物跡	54
図36 22号掘立柱建物跡、1～7号柱穴列	55

図37	1～2号方形周溝墓	57
図38	1～3号・5～8号土壙	58
図39	1号溝跡出土遺物(1)	70
図40	1号溝跡出土遺物(2)	71
図41	1号溝跡出土遺物(3)	72
図42	1号溝跡出土遺物(4)	73
図43	4・6・12・14号溝跡・3・5～6号竪穴建物跡出土遺物	74
図44	6～7号竪穴建物跡出土遺物	75
図45	7号竪穴建物跡出土遺物(2)	76
図46	7号竪穴建物跡出土遺物(3)	77
図47	7～9号竪穴建物跡出土遺物	78
図48	9～10・12号竪穴建物跡出土遺物	79
図49	13号竪穴建物跡出土遺物	80
図50	13～16号竪穴建物跡出土遺物	81
図51	17・20号竪穴建物跡、1～2号方形周溝墓、3・5・8号土壙、柱穴出土遺物	82
図52	Grid・試掘調査出土遺物	83
図53	造構変遷図①	88
図54	造構変遷図②	89
図55	富士見一丁目造跡第3面水田跡	89
図56	塩部地域の景観模式図	89
図57	調査区及び周辺の調査状況	90
図58	塩部造跡主要建物跡配置図	91
	 ピット観察表	60
	出土遺物観察表	65

第1章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯

山梨県都市計画道路「塙部町開国橋線」道路改良工事に先立ち、平成13年5月17日付け峠中建15第5-2号により、山梨県峠中地域振興局建設部長名で、周知の埋蔵文化財包蔵地である塙部遺跡の発掘調査が通知された。平成13年5月24日付け教学文3第5-126号により周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について通知を受け、平成13年7月4日から25日まで試掘調査を実施した。

その結果、開発面積延べ8360m²のうち、弥生時代末から古墳時代の遺構・遺物が多数包蔵されていることが確認された、JR中央線北側の旧湯村自動車学校教習所敷地を中心とする約1400m²を調査対象区に絞り込んだ。

次いで、山梨県峠中地域振興局建設部と本調査に向けた協議を重ね、平成13年度の発掘調査及びその後の整理作業を含めた費用を原因者側の負担とすることで合意に達した。平成13年10月23日には塙部遺跡発掘調査に関する協定を締結し、平成13年11月8日から発掘調査に着手した。

第2節 試掘調査と基本層序

試掘調査は、開発面積8360m²に対し、8か所のトレンチで180m²と僅かに2%強の面積比に止まっているが、中央線南側は基本的に遺跡範囲外となっているため、実際の対象面積はより限定された範囲内であった。さらに周辺の発掘調査状況を考慮すると、遺跡密度は北側が高いと予測されたため、主に中央線以北に重点をおいてトレンチ確認を実施した。

重機による表土掘削後、人力による掘削作業を行い、各地点において遺構及び層位確認を行っている。そのうちトレンチ5・6から多数の遺物とともに、溝跡やピット、竪穴建物跡が確認され、弥生時代末期から古墳時代の遺構群であることが判明した。

しかし、他のトレンチでは遺物量も極端に少なく、遺構もトレンチ3において近世の水路が1条検出されたのみであった。中央線南側でもトレンチ7・8を掘削したが、トレンチ7では沼地状の土壤が観察され、遺構・遺物は確認されなかった。遺構・遺物の分布状況からトレンチ5・6付近に遺跡の主体があると判断し、調査対象区を限定した。

基本層序は、中央線を挟んだ南北で大きく異なり、北側が粘土質の安定した地盤であるのに対し、南側は腐植土や流れ込みの砂層が顕著に見られ、沼地化した状況が確認された。沼地は、トレンチ6内から落ち込みが確認されているため、ある時期比較的広範囲が沼地であったと考えられる。

最も安定した土層が観察されたトレンチ5内では、湯村自動車学校旧教習コースのアスファルト・碎石層が40cm程度の厚さで敷かれた状態であったが、以下は良好な土層が包蔵されていた。自動車学校造成層直下は、全面で近世以降の水田層が検出され、水田層下に非常に粘質の強い黒色土層が20cmほど堆積していた。弥生時代から古墳時代の遺物が多数出土したのは、この黒色土層であり、生活面も黒色土中に存在すると考えられた。本調査段階の確認では、調査区の地形が北東から南西方向に緩斜面を形成しているため、黒色土層は、北側ほど薄い状況であったが、基本層位は上記のとおりであった。

本調査では、黒色土上で遺構確認を行っているが、場所によっては遺構確認が極めて困難であったため、最終的に黄褐色の地山層付近まで掘削したところで調査している。



図1 調査区位置図

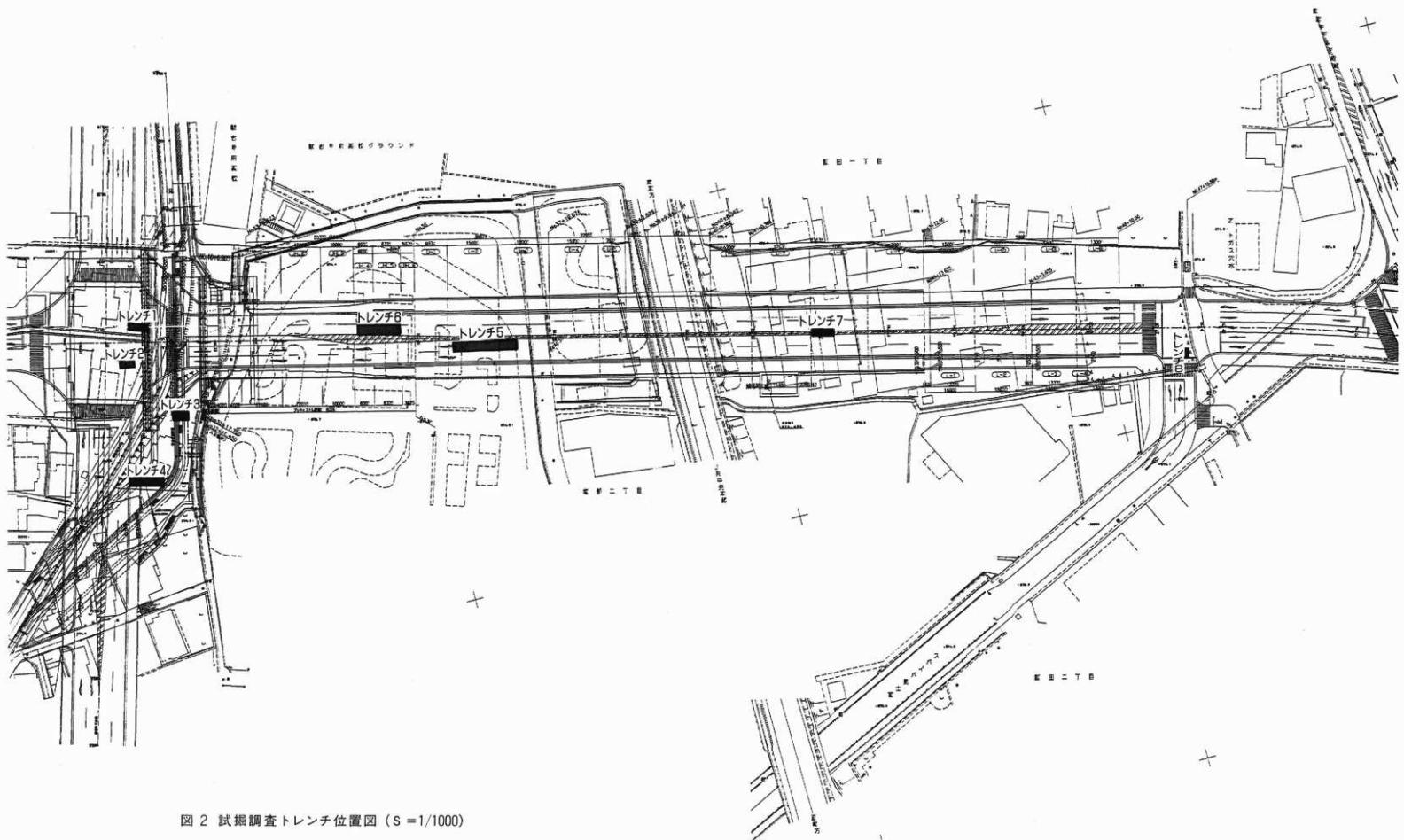


図2 試掘調査トレンチ位置図 ($S=1/1000$)

第3節 調査の方法

本調査区は、調査対象面積約1400m²のうち、隣地境界部分の控えや調査用車両及び中央線下跨道橋工事車両の通行を考慮し、最終的に約1300m²を調査した。重機による掘削は、基本的に水田層及び南側の沼地層までとし、遺跡全体を覆っていた黒色土（包含層）は、すべて人力により掘削した。

本来約1300m²全体を1度で調査することが効率的であったが、表土掘削及び調査中に排出される上砂置き場を確保するため、南北に長い調査区を中心で分割調査した。したがって、調査段階では便宜的に北側をI区、南側をII区としたが、最終的には航空写真測量を基に南北の調査区を接合している。

調査は、国上座標に合わせた5m×5mグリッドを基本単位として設定し、東西列をアルファベット、南北列を算用数字で表記したものと組み合わせてグリッド番号として用いた。各グリッド番号は北西隅にあたる杭を基準とし、遺構実測、遺物取り上げ等に際しては、すべてグリッドに合わせて記録した。

第4節 調査の経過

発掘調査は、平成13年11月8日から着手し、平成14年3月29日まで実施している。調査に係る主な進捗状況は以下のとおりである。

- 11月8日 アスファルト・コンクリート除去。
- 11月9日 重機によるI区表土掘削開始。
- 11月13日 重機による表土掘削終了。調査区全体を覆っていた遺物包含層（黒色粘質土）を人力により掘削・精査。
- 11月16日 1回目の国上座標杭打作業を実施。
- 12月20日 1号溝跡掘削開始。
- 1月10日 1号溝跡完掘。順次溝跡掘削。
- 1月11日 柱穴掘削開始。順次柱穴掘削。
- 1月19日 1号豎穴建物跡掘削開始。順次豎穴建物跡掘削。
- 2月3日 1・2号方形周溝墓掘削開始。
- 2月5日 1・2号方形周溝墓完掘。航空写真測量1回目実施。
- 2月6日 I区補足調査及び図化作業。
- 2月7日 I区埋め戻し作業。
- 2月11日 重機によるII区表土掘削開始。
- 2月13日 人力による掘削・精査開始。合わせてI区との重複部の補足調査。
- 2月15日 2回目の国上座標杭打作業を実施。
- 2月18日 II区遺構掘削に着手。7号豎穴建物跡掘削開始。順次II区豎穴建物跡掘削。
- 3月25日 航空写真測量2回目実施。
- 3月26日 II区補足調査及び図化作業。
- 3月28日 重機によるII区埋め戻し作業。
- 3月29日 全調査作業終了。現場機材等撤収。

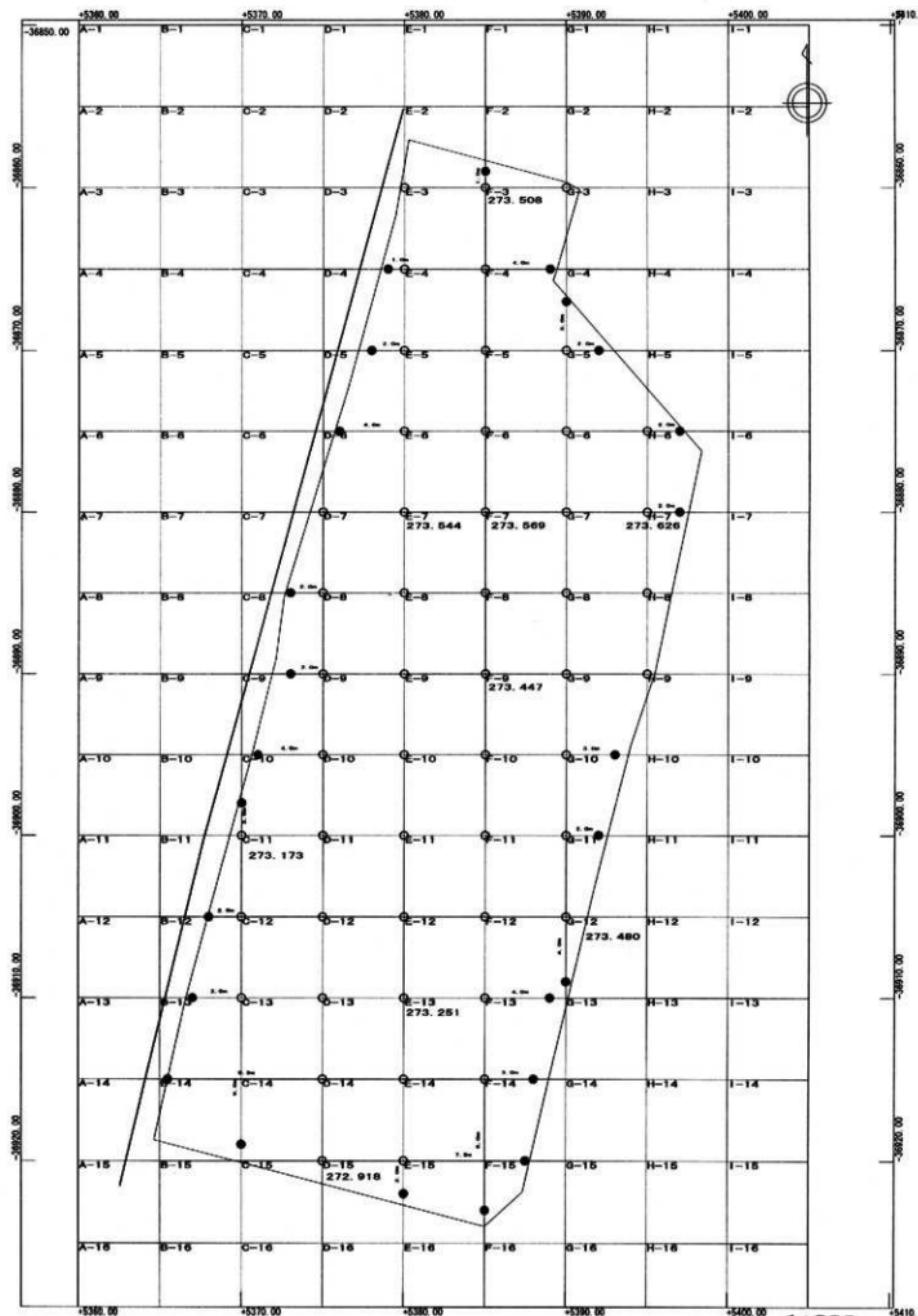


図3 グリッド配置図

第2章 塩部遺跡の概要

第1節 遺跡の立地

塩部遺跡は、甲府市中央部を南流する相川によって形成された扇状地の扇端部に所在する。秩父山系に源流を発する荒川と相川に挟まれ、調査区北側には荒川から取水して甲府城下町に上水を運んだ湯川が横断している。村石真澄氏が作成した塩部遺跡周辺地形分類図（山梨県教育委員会1996）によると、現在ではほとんど確認することのできない自然堤防、後背湿地、旧河道などの微地形が復元されている。

実際に調査対象地区全体を試掘調査した際に土層観察をしたところ、中央線付近以南で広範囲に渡り湿地化した状況が確認された。同時に調査対象地区最南端では再び安定した土壤が検出されたため、本地区における村石氏の微地形復元は信憑性が高いと評価できる。

また、本調査区に隣接する中央線跨道橋工事現場では、10m前後の砂礫層が確認されており、古墳時代の土器片も採取されている。土器の年代観だけで河川跡の年代を決めるることはできないが、少なくとも古墳時代には河川が存在したと考えられ、本調査で確認された集落と密接に関わる河川であったと考えられる。県立甲府工業高等学校校舎改築工事に先立つ発掘調査で確認された河川跡の延長である可能性があるが、今後の周辺部調査に期待したい。

第2節 歴史的環境

塩部の地名の由来について、「甲斐国志」は溝水に塩氣があったことに由来すると述べるが、実際のところは判然としない。県立甲府工業高等学校地点の調査では、弥生時代末期から平安時代の遺跡が調査され、方形周溝墓及び竪穴建物跡が検出されていることから、弥生時代末期には集落が営まれ始めたと考えられる。特に3号方形周溝墓からは、日本でも最古級の馬の歯も出土している。

奈良・平安時代については、竪穴建物跡や河川付近の小規模な水田が確認されている。河川跡からは、斎車や2体の人形木製品などが出土しているため、周辺にこれらを用いた集落が存在する可能性が高い。文献上では文治2年（1186）の醍醐寺文書目録（醍醐雜事記）に「塩部庄」の記載が見られ、平安末期に醍醐寺領が存在していたと推定されている。庄域は不明であるが、甲府市中西部一帯に及んでいたと考えられる。

醍醐寺領が形成された契機は定かではないが、中世には塩部郷とも呼ばれ、甲斐源氏武田有義を始祖とする塩部氏が領有していたと考えられる。有義開基と伝える法輪寺は、横沢から文禄年間に西青沼の現在地へ移転しているため、有義の拠点が一条郷に隣接する塩部東部付近に存在していたとも考えられる。

永正16年（1519）武田信虎の躑躅が崎館移転によって誕生した戦国城下町甲府と一体的に塩部には三日市場が存在していた。甲府の東に設置された八日市場と並んで、戦国期城下町甲府における商業活動の拠点であるとともに、信州方面への玄関口として重要な位置を占めていたことが想像される。三日市場は、相川右岸の横沢（現甲府市朝日）周辺に存在したと考えられ、中世塩部の中心は、古墳時代の集落域から大きく東に移動していたと考えられる。「甲斐国志」によると、近世初頭には甲府城と甲府城下町の建設に伴い塩部集落の移転と村境の変更が行われた。最近の発掘調査成果でも、近世初頭に大規模な農地の変更が行われた痕跡が確認されている。

第3節 周辺の遺跡

塩部遺跡は、甲府市教育委員会により本調査段階までに15次の調査が実施されているが、古くは1985年に山梨県教育委員会によって調査された飯田一丁目遺跡（現在は塩部遺跡内）から古墳時代の遺物が出土している。隣接地において民間開発に伴う試掘調査を行った際は、古墳時代中期の堅穴住居跡が遺跡の南側で検出されていることから、塩部遺跡南側には本調査地区の集落とは異なる集団が居住していた可能性も考えられる。

また、東側では甲府城下町遺跡と重複している。近年開発に伴う試掘調査等によって中世から近世の城下町に係る遺構・遺物が出土しつつあり、文献等に散見される中世の三日市場との関連で注目される。発掘調査例はまだまだ少ないが、今後の調査が期待される。

北側では本調査区と接続する都市計画道路「愛宕町下条線」道路改良工事に伴う調査において、弥生時代末期～古墳時代初頭の集落跡や方形周溝墓を確認していることから、本調査区の前身集落である可能性が想定され、今後の調査に期待が持たれる。やや離れた場所には縁が丘一丁目遺跡・同二丁目遺跡が存在し、同じく古墳時代～平安時代の遺跡として知られている。これまで大規模調査は実施されていないものの、住宅の建替えに伴う小規模な試掘調査などから、同時代の遺構・遺物が検出されている。

西側では富士見遺跡が存在し、山梨県埋蔵文化財センターにより富士見一丁目遺跡として調査が実施されている。下層からは小規模な区画で仕切られた水田跡が検出され、時代的に弥生～古墳時代と考えられている。本調査区域から直線距離で約500mであるため、今後集落復元をする上で貴重な成果であった。



図4 塩部遺跡及び周辺遺跡分布図

第3章 遺構と遺物

本調査区で検出された遺構は、溝跡17、周溝を有する平地建物跡3（以後、仮に周溝付平地建物跡と呼称し、本書内では以降その名称を用いることとする。）、竪穴建物跡20、掘立柱建物跡22、柱穴列7（うち3列は掘立柱建物の可能性が高い。）、方形周溝墓2、土壙8、ピット702である。主体は弥生時代末期から古墳時代後期までの遺構群と考えられるが、縄文時代と江戸時代の遺構・遺物も若干確認されている。

第1節 溝跡

調査区全体で大小17条の溝跡が検出されている。うち6・13・14号溝跡については、周溝付平地建物を構成する遺構であるため、第2節建物跡で報告することとする。

1号溝跡（遺構：図5 遺物：図39~42）

位 置：D-4～F-4グリッド及びD-5～F-5グリッド

検出状況：検出されたのは、溝全体のごく一部分と考えられるが、F-5グリッド付近で湾曲し、調査区外へ延びている。規模は検出された範囲で全長約18.0m、幅約6.0m、確認面から深さ約1.1mで、北東から西方向に傾斜している。土層堆積状況からみると、最下層に粗粒砂が堆積していたが、地山壁面も砂礫層であったため、風化によって堆積したものか、水の流れによって堆積したものであるかは微妙であった。しかし、流木と思われる木片等が検出され、砂層と黒色粘質土が交互に堆積した状況も確認されていることから、掘削された当初は水の流れがあったと考えられる。その後、水路としての機能が停止したために水の流れがなくなり、結果として黒色土が徐々に堆積し、土器捨場化するに至ったと推測される。最終的に小礫を含む粗粒砂層である6層に全面覆われていたことから洪水によって埋没したと考えられる。

なお、溝跡北側では、試掘調査結果から判断しても新旧関係にある方形周溝墓を除き、集落に関わる遺構・遺物が希薄となるため、溝跡南側で検出された集落の境界として認識されていた可能性もある。

重複関係：1号方形周溝墓より新しい。

出土遺物：掲載遺物は1～70である。出土遺物は層位で取り上げており、4層に大別している。黒色土で覆われた1・2層を上層、洪水による粗粒砂層を中層、中層直下の土器溜りを含む黒色土層を下層とした。さらに底部付近の砂礫層である17層を最下層として取り扱っている。また、調査着手時に掘削したサブトレーナーから出土したものは層位が不明であったために一括出土として扱ったが、下層遺物と接合したものもあり、多くは下層扱いの土器と考えられる。

出土状況としては、中層直下の黒色土中から多数の遺物が全面にわたり出土したが、2箇所ほど集落側からまとめて投棄された土器溜りが形成されていた。土器溜りは時期的にS字甕段階以降の古墳時代中期の遺物が主体で、丸底小罐や高壺、壺、甕等生活に関連する様々な土器類や木製品等が出土し、本地區の遺構群の中で最も出土量があった。特筆するものとしては、21の高壺有段脚部や49の須恵器蓋、60の木製刀形が出土している。21は二之宮遺跡西46号竪穴建物跡等に類似品があり、古墳時代中期に位置付けられている。木製品の他には下層から桃の種が少量出土している。

最下層からは51・52のS字甕D類が出土していることから、1号溝跡の開削時期は概ねこの前後と考えられ、廃絶は古墳時代後期以降の洪水によると考えられる。

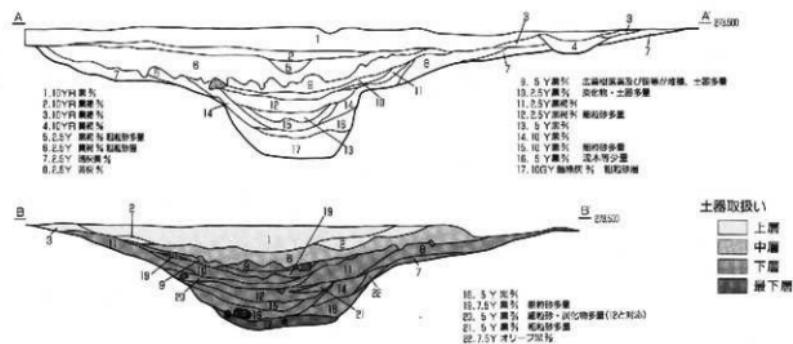
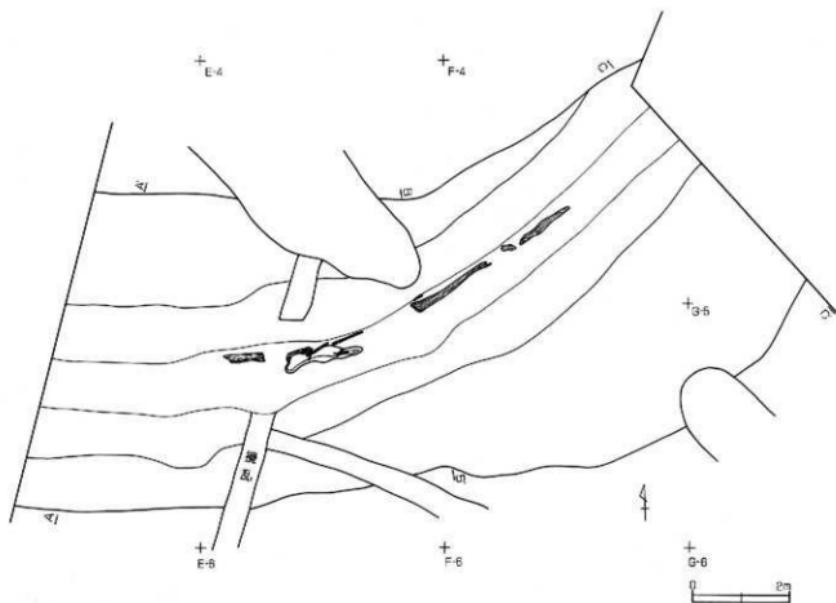


図5 1号溝跡

2号溝跡（遺構：全体図中 遺物：掲載なし）

位置：G-5グリッド及びD-6～G-6グリッド

検出状況：1号溝跡とほぼ併行して走る溝で、北東から南西方向に傾斜している。検出範囲内
で全長約21.0m、幅約0.9m、確認面から深さ0.3mである。1号溝跡との関係から集
落に関わる区画溝か排水溝と考えられる。

重複関係：2号方形周溝墓及び3・8号溝跡より新しい。

出土遺物：土器小片が少量出土したが、周囲からの流れ込みと考えられる。

3号溝跡（遺構：全体図中 遺物：掲載なし）

位置：E-6～F-6グリッド付近

検出状況：やや湾曲した溝跡で、検出範囲内で完結している。検出範囲内で全長約6.5m、幅約
1.4m、確認面からの深さ約0.1mで、平面形はやや不整形である。付近には方形周溝
墓も展開しているため、方形周溝墓あるいは建物周溝である可能性もある。

重複関係：2号溝跡より古く、2号竪穴建物跡より新しい。

出土遺物：土器が少量出土している。

4号溝跡（遺構：全体図中 遺物：図43）

位置：G-8～G12グリッド及びF-12～F-15グリッド

検出状況：調査区を南北に走り、北から南へ傾斜する。検出範囲内で全長約35.0m、幅0.5～0.
8m、確認面からの深さ0.1～0.3mで10号溝跡と併行関係にある。近世の陶磁器片が出
土しているため、水田用の水路と考えられる。

重複関係：重複するすべての遺構を切る。

出土遺物：掲載遺物は71・72である。掲載遺物については、6号竪穴建物跡付近で出土したも
のであり、本来竪穴建物に帰属すべき遺物の可能性もある。他に近世陶磁器及び土器
が少量出土している。

5号溝跡（遺構：全体図中 遺物：掲載なし）

位置：F-8・9グリッド付近

検出状況：検出範囲内で全長約7.0m、幅約0.3m、確認面からの深さ約0.3mで断面は逆台形で
ある。北東から南西方向に伸びているが、検出された範囲内で完結している。何らか
の区画溝あるいは排水用の溝であるかは不明である。

重複関係：75・76・187号ピットより古い。6号溝跡、189号ピットと重複するが、黒褐色の類
似した覆土であったため、明確な新旧関係を識別することはできなかった。

出土遺物：土器が少量出土している。

7号溝跡（遺構：全体図中 遺物：掲載なし）

位置：G-7～H-7グリッド

検出状況：不整形な溝跡であり、検出範囲内で完結する。全長約3.3m、幅約0.5m、確認面か
らの深さ約0.1mである。他遺構と異なる灰黄褐色の覆土であり、出土遺物から縄文時
代に帰属する溝と考えられる。

重複関係：9号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。

出土遺物：縄文土器小片が微量出土している。

8号溝跡（遺構：全体図中 遺物：掲載なし）

位 置：E-5グリッド及びE-6～G-6グリッド、H-7グリッド

検出状況：調査区を東西方向に延び、G-6グリッド付近で緩やかに湾曲する。検出範囲内で全長約18.0m、幅約0.5m、確認面からの深さ約0.4mで断面は逆台形である。ある時期の集落の区画溝あるいは排水溝と考えられる。

重複関係：1・2号溝跡、1号竪穴建物跡、1号掘立柱建物跡、1号柱穴列より古く、9号溝跡より新しい。2号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：土器小片が少量出土している。

9号溝跡（遺構：全体図中 遺物：掲載なし）

位 置：G-6・7グリッド

検出状況：緩やかに湾曲しながら南北方向に延びる不整形な溝跡で、検出範囲内で完結している。全長約8.5m、幅約0.8m、確認面からの深さ0.1mで、7号溝跡と結合する。7号溝跡同様の覆土で縄文土器片が出上しており、同時期の遺構と考えられる。

重複関係：7号溝跡と重複するが、新旧関係不明。

出土遺物：縄文土器小片が微量出土している。

10号溝跡（遺構：全体図中 遺物：掲載なし）

位 置：C-11～C-14グリッド

検出状況：調査区を南北に走り、北から南へ傾斜する。検出範囲内で全長約20.0m、幅0.3～0.5m、確認面からの深さ0.1～0.3mで、4号溝跡と併行関係にある。近世水田に伴う水路と考えられる。

重複関係：重複するすべての遺構を切る。

出土遺物：土器小片が微量出土している。

11号溝跡（遺構：全体図中 遺物：なし）

位 置：C-12～D-12グリッド付近

検出状況：D-12グリッド内で屈曲する小規模な溝跡で、検出範囲内で完結する。全長は東西軸約5.8m、南北軸約2.8mで、幅約0.2m、確認面からの深さ約0.15mである。何らかの区画溝である可能性もある。

重複関係：13号竪穴建物跡、18号掘立柱建物跡より古い。

出土遺物：なし。

12号溝跡（遺構：全体図中 遺物：図43）

位 置：B-13グリッド及びC-14～D-14グリッド、E-15～F-15グリッド付近

検出状況：調査区を東西方向に横断し、西から東へ緩やかに傾斜している。検出範囲内で全長約22.5m、幅0.5～0.7m、確認面からの深さ0.2～0.3mで断面はU字形である。集落域中心の南端付近に位置しており、8号溝跡と同様ある時期の区画溝か排水用の溝と考えられる。

重複関係：11号竪穴建物跡より古く、10・18・20号竪穴建物跡より新しい。22号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：掲載遺物は74のみである。出土量は多いが土器小片がほとんどで、周囲からの流れ込みの可能性が高い。

15号溝跡（造構：全体図中 遺物：なし）

位 置：C-9グリッド

検出状況：東西方向に延び、検出範囲内で全長約3.8m、幅約0.4m、確認面からの深さ約0.2mである。検出されたのは一部分であり、性格等は不明である。

重複関係：2・3号周溝付平地建物跡及び334・400・401号ピットとの新旧関係は不明。

出土遺物：なし。

16号溝跡（造構：全体図中 遺物：なし）

位 置：G-9・10グリッド

検出状況：6号竪穴建物跡床面下から検出された溝跡で、2度大きく屈曲する。南北の長軸で長さ約4.0m、幅0.1~0.2m、確認面からの深さ約0.1mであった。南西側については、6号竪穴建物跡壁面で止まっているが、土層観察で明確に溝跡の続きを追うことができなかった。形状も屈曲の状況は11号溝跡と類似するが、やや規則性に欠ける。よって、造構の性格は不明である。

重複関係：6号竪穴建物跡範囲内で重複するすべての造構より古い。

出土遺物：なし。

17号溝跡（造構：全体図中 遺物：なし）

位 置：C-10~D-10グリッド及びB-11グリッド

検出状況：北東から南西方向に延びる溝で、当初は5号溝跡の延長と考えられたが、規模が異なったことから、独立した造構番号を付した。検出範囲内で全長約10.0m、幅0.2~0.4m、確認面からの深さ0.15mである。

重複関係：14号竪穴建物跡より古い。6号溝跡と重複するが、新旧関係は不明。

出土遺物：なし。

第2節 建物跡及び柱穴列

建物跡を大別すると、(1)周溝付平地建物跡、(2)竪穴建物跡、(3)掘立柱建物跡に分類される。柱穴列については、検出状況や柱規模から掘立柱建物跡になる可能性が高いものも含まれているが、現段階では柱穴列として扱うものとする。

（1）周溝付平地建物跡

本造構は、北陸から関東、東海まで幅広く確認されつつある建物形態であるが、管見の範囲で確実な事例としては、本県では未報告の建物跡である。調査段階では担当の認識不足から十分な情報を得ることができなかつたが、調査区中央付近において3棟を検出している。

1号周溝付平地建物跡（造構：図6 遺物：図43）

位 置：E-9~E-11グリッド及びF-9~F-11グリッド付近

主軸方位：N-43°-E

検出状況：4本柱の掘立柱建物跡とそれを半円形に外周する6号溝跡によって形成された建物跡であり、基本的に溝跡で囲まれた範囲内を居住空間として利用したものと考えられる。6号溝跡内の東西軸は約10.0m、南北軸は約7.0mで、溝跡の深さは確認面から約0.2~0.3mである。上屋になる掘立柱建物跡平面形は正方形で、柱間は1辺約4.0mを測り、北東側で炉跡を検出している。重複によって南側は失われているが、溝跡西端は確認されているため、おそらく南西側が出入り口であったと考えられる。

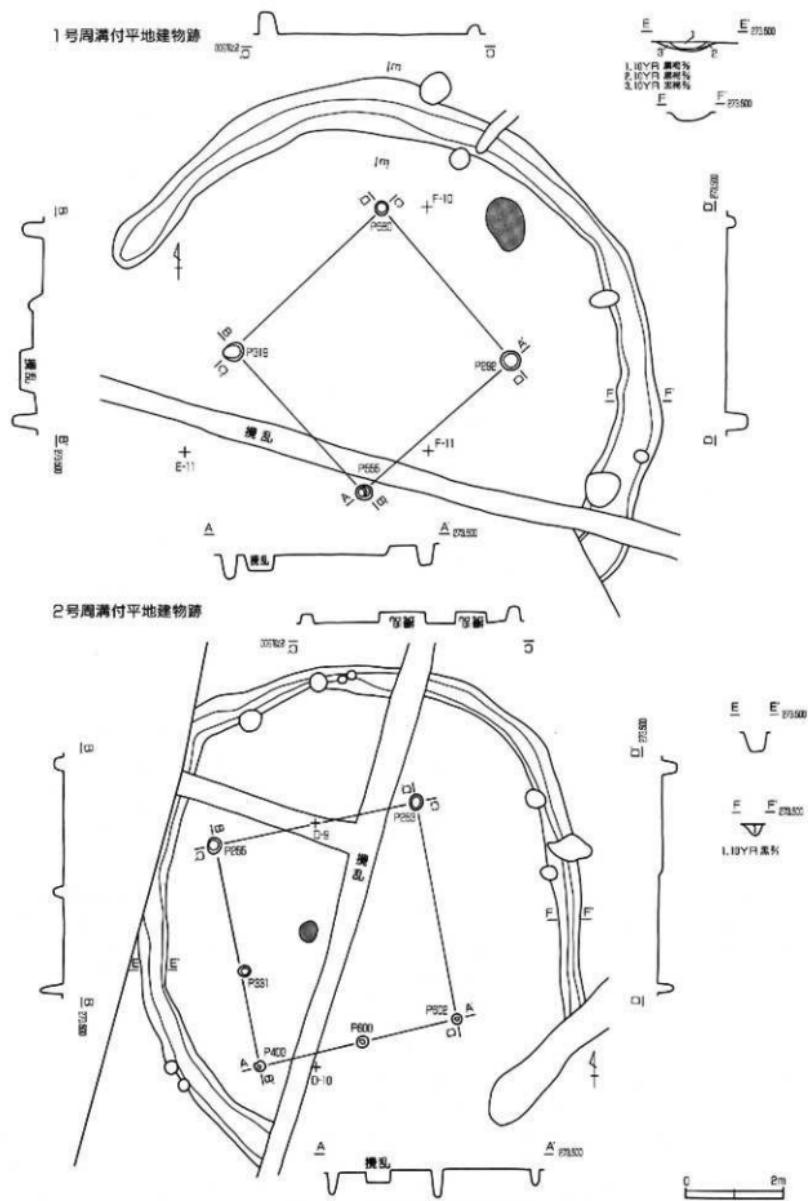


図6 1～2号周溝付平地建物跡

3号周溝付平地建物跡

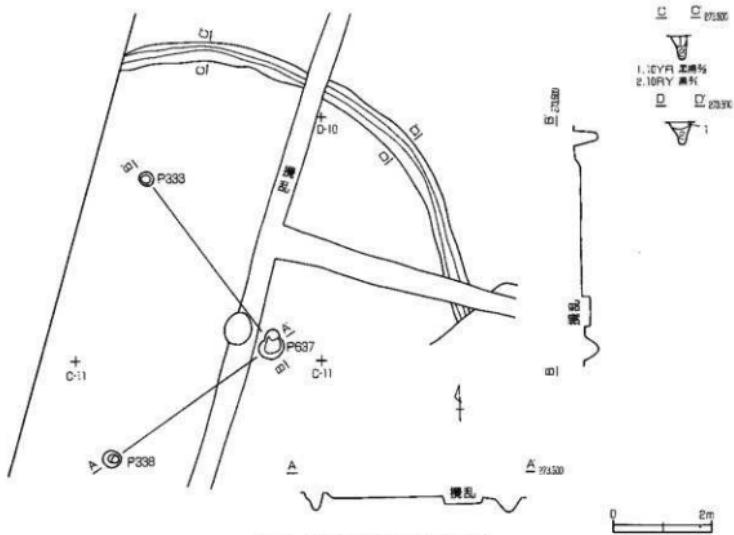


図7 3号周溝付平地建物跡

重複関係：7・17号竪穴建物跡より古く、2号周溝付平地建物跡、5号溝跡より新しい。

出土遺物：掲載遺物は73のみである。6号溝跡内から土器が少量出土している。

2号周溝付平地建物跡 (造構:図6 遺物:図43)

位 置: C-8~C-10グリッド及びD-8~D-10グリッド付近

主軸方位: N-14°-W

検出状況: 6本柱の掘立柱建物跡とそれを外周する形で展開する楕円形の14号溝跡で形成される建物である。14号溝跡内の東西軸は約7.8m、南北軸約9.0m、溝跡の深さは確認面から0.4~0.5mを測る。上屋となる掘立柱建物跡は、東西軸約4.2m、南北軸約4.6mで平面形は正方形に近い。炉跡は建物中央付近で確認したが、掘削時に上面を削平してしまったため、検出状態は不良となってしまった。1号周溝付平地建物跡同様攪乱や重複により、部分的に不明瞭になっているが概ね全体の把握が可能で、南側に出入り口を設けている。

重複関係:D-8付近一帯は黒色粘質土層の堆積する低地部あたり、造構覆上もほぼ同様の黒色土が堆積していた。4号竪穴建物跡と2号周溝付平地建物跡を構成する14号溝跡との重複部分は造構確認面及び攪乱部断面で明確な重複を捉えることは困難であったが、炭化物等の混入状況から4号竪穴建物跡を先行して調査した。しかし、4号竪穴建物跡掘削段階で残した土層観察用のベルト上で253号ビットが竪穴建物を切っていると判断したため、4号竪穴建物跡より新しいと想定した。1号周溝付平地建物跡と

3号周溝付平地建物跡との併行関係から本遺構との重複関係があるものと考えられるが、新旧は明らかにできなかった。また、15号溝跡との新旧関係は不明である。
出土遺物：掲載遺物は75～79である。216・236号ピットと4号竪穴建物跡との重複部付近からまとまって出土したもので、位置的に13号溝跡直上に位置していたため、同遺構に帰属するものと判断した。75は北陸系と考えられる器台、78は畿内系と考えられる二重口縁壺であり、外来系の上器がまとまっている。

3号周溝付平地建物跡（遺構：図7 遺物：掲載なし）

位 置：C-9～C-11グリッド及びD-9・10グリッド付近
主軸方位：N-36°-E

検出状況：本遺構は、西側が調査区によって切られている。検出状況から推測して4本柱の掘立柱建物跡と半円形に外周する13号溝跡で形成されていると考えられるが、調査区内では、柱は3本分のみ検出されている。13号溝跡内の推定規模は、東西軸は7～8m、南北軸は9～10mと考えられ、溝幅は約0.5m、深さは確認面から約0.5mで断面は逆台形である。上屋となる掘立柱建物跡の平面形は正方形で一辺約4.0mを測り、地床炉は確認できなかった。南東側が大きく開いていることから、出入り口は南から南東と考えられる。

重複関係：2号周溝付平地建物跡との重複関係については、前述のとおりである。8・14・16号竪穴建物跡より古く、17号溝跡より新しい。15号溝跡については、新旧関係は不明である。

出土遺物：13号溝跡から少量土器片が出土している。

（2）竪穴建物跡

從来竪穴住居跡と呼んできたが、近年その遺構の機能を住居に限定することを疑問視し、再評価されつつある。本遺跡においても掘立柱建物跡や周溝付平地建物跡等様々な建物形態の存在と多様な居住性から、竪穴住居跡と限定した用語ではなく一つの建物形態として扱い、竪穴建物跡と呼称する。

1号竪穴建物跡（遺構：図8 遺物：掲載なし）

位 置：G-6・7グリッド
主軸方位：N-26°-E

検出状況：平面形は長方形を呈し、建物規模は南北約3.5m、東西約3.0mを測る。柱穴は確認されなかったが、遺構中央に新旧関係が不明であった1号柱穴列が存在することから、特殊ではあるが本遺構の上屋建物の柱となる可能性もある。炉跡は建物中央よりやや南西に位置する。床面全体には炭化物や焼土塊が多く、火災により廃絶した建物跡と考えられる。

重複関係：1号掘立柱建物跡・1号柱穴列より古く、1号土壙、8・9号溝跡より新しい。2号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

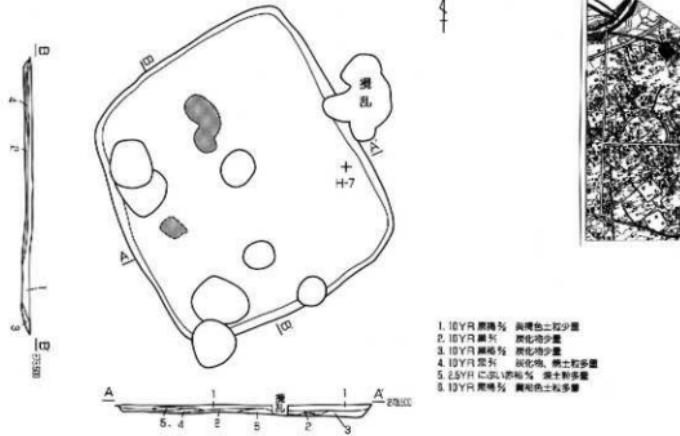
出土遺物：上器小片が微量出土したのみで、掲載遺物はない。

2号竪穴建物跡（遺構：図8 遺物：掲載なし）

位 置：F-6・7グリッド
主軸方位：N-2°-E

検出状況：平面形は長方形を呈し、建物規模は南北約4.1m、東西約3.2mで、主柱は4本の建

1号竖穴



2号竖穴

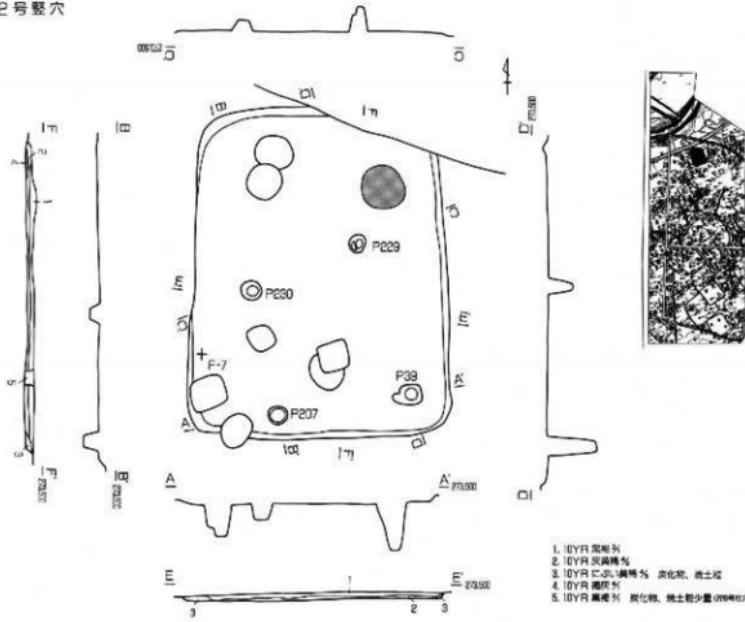


図8 1～2号竖穴建物跡

物構造である。炉跡は中心からやや北側に位置する。西側については、検出段階で壁面を明確に捉えることはできず、推定線で掘削を止めた。

重複関係：3・4号掘立柱建物跡、3号溝跡より古い。5号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：1号竪穴建物同様土器小片が少量出土。

3号竪穴建物跡（遺構：図9 遺物：図43）

位置：E-7・8グリッド

主軸方位：N-35°-W

検出状況：平面形は隅丸方形を呈し、建物規模は南北約4.0m、東西約4.4mで、主柱は4本の建物構造である。炉跡は建物中央やや東寄りに位置する。貼床や硬化面等は確認できなかった。

重複関係：5号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：掲載遺物は80～82である。全体に出土量は少なかったが、3点を掲載している。82の焼成は良好で器高も低く、やや特殊な器台と考えられる。

4号竪穴建物跡（遺構：図10 遺物：掲載なし）

位置：D-8・9グリッド

主軸方位：N-64°-E

検出状況：本建物跡付近は、全体的に粘性の強い黒色粘質土層で覆われていた場所で、遺構の重複も含め黒色粘質土層面での遺構平面形の確認が非常に困難であった。14号溝跡との重複は、確認面と擾乱部分の断面で観察したが、どちらでも明確にすることはできず、本遺構の掘削を先に着手した。しかし、掘削途中のベルト断面の観察で、2号周溝付建物跡を構成する253号ピットが新しいと判断したため、調査手順としては逆転してしまった。

遺構全体は幸い床面に炭化物が面的に拡散していたため、それを目印として掘削を行い、全体を検出した。したがって、平面形はやや不整形な隅丸方形である。建物規模は南北約4.7m、東西約4.7mで、主柱は4本と考えられるが、北東側は14号溝跡との重複もあり、確認することはできなかった。337号ピットには枕木状の礎板、214号ピットには柱材が残存していた。炉跡は建物中央やや東寄りに位置する。床は低い部分に土を入れて簡易な整地をしていたが、硬化面等は確認できなかった。

重複関係：2号周溝付平地建物跡より古い。5号柱穴列との新旧関係は不明である。

出土遺物：土器小片が少量出土している。

5号竪穴建物跡（遺構：図11 遺物：図43）

位置：G-9グリッド

主軸方位：N-60°-E

検出状況：平面形は隅丸方形を呈し、建物規模は南北約3.9m、東西約4.0mで、主柱は4本と考えられるが、南東側は調査区外で確認できなかった。炉跡は一部擾乱を受けているが、建物中央やや北側に位置する。部分的に整地しているが、意図的な貼床ではなく、使用時に堆積していたものと推測される。

重複関係：6号竪穴建物跡より古い。

出土遺物：掲載遺物は83・84である。出土量は土器小片が少量であり、83は流れ込みによる繩文土器である。二重口縁壺の破片がまとまっていたが、図化までには至らなかった。

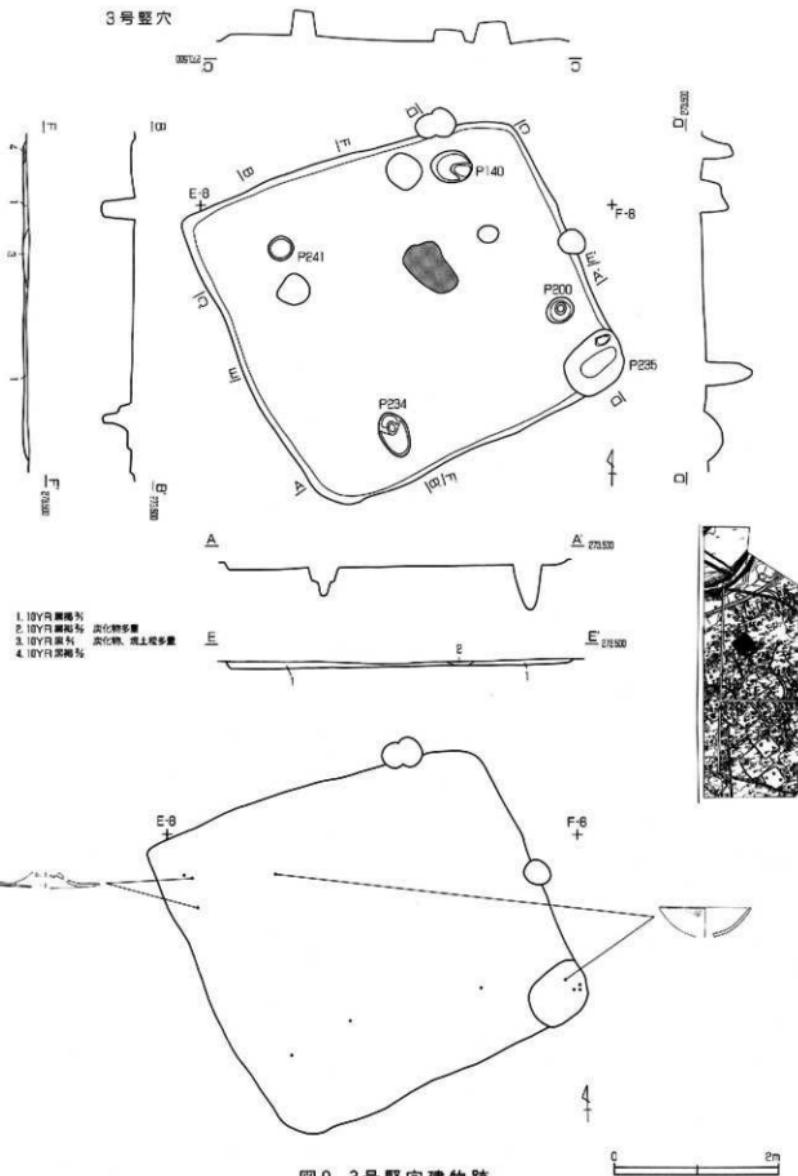
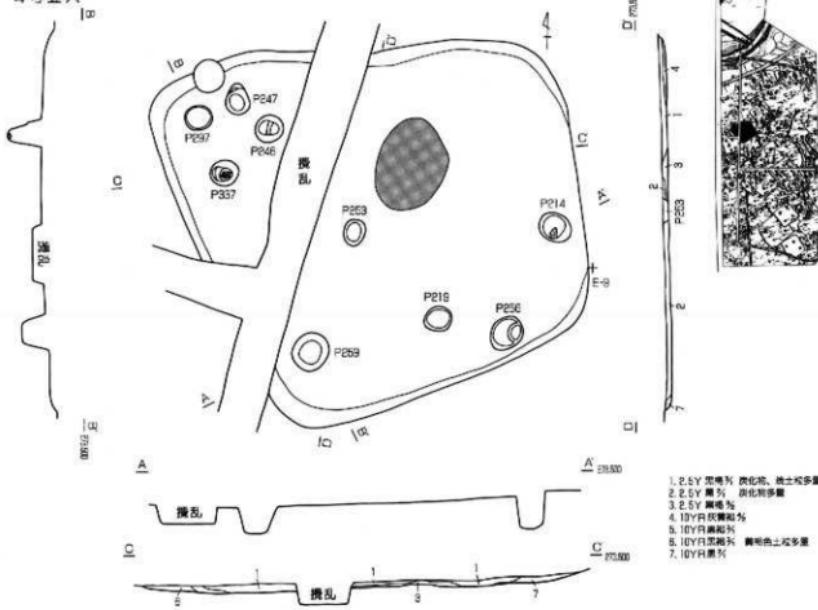


図9 3号竖穴建物跡

4号豎穴



4号豎穴掘り方

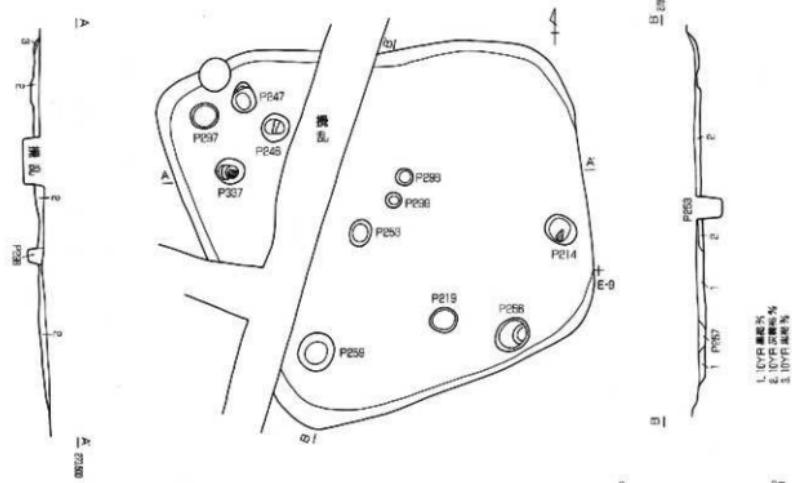
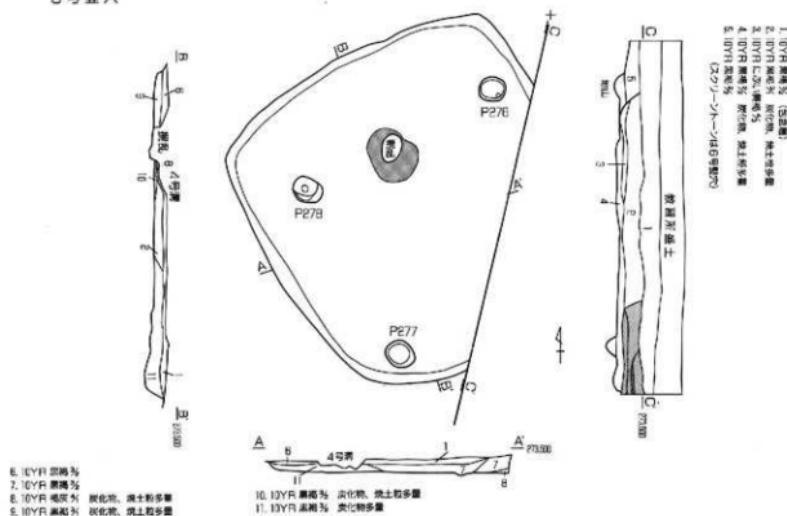


図10 4号豎穴建物跡

5号竪穴



5号竪穴掘り方

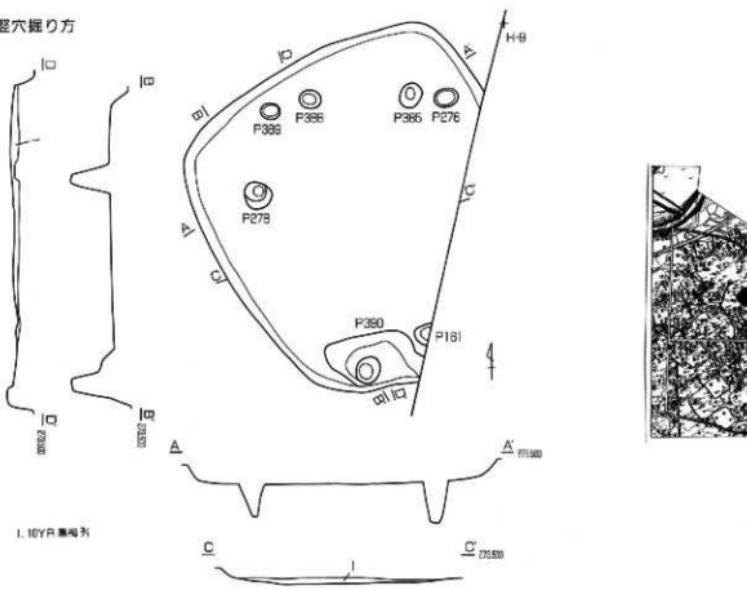
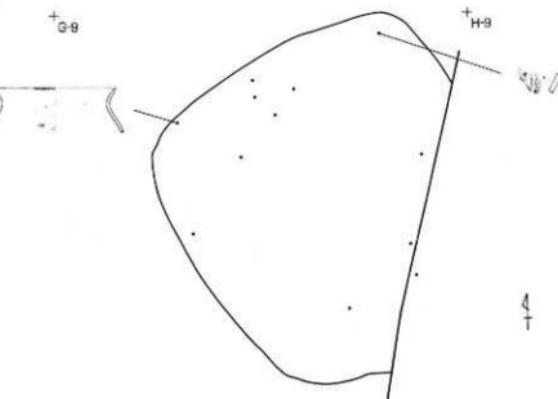


図11 5号竪穴建物跡

5号竪穴



6号竪穴

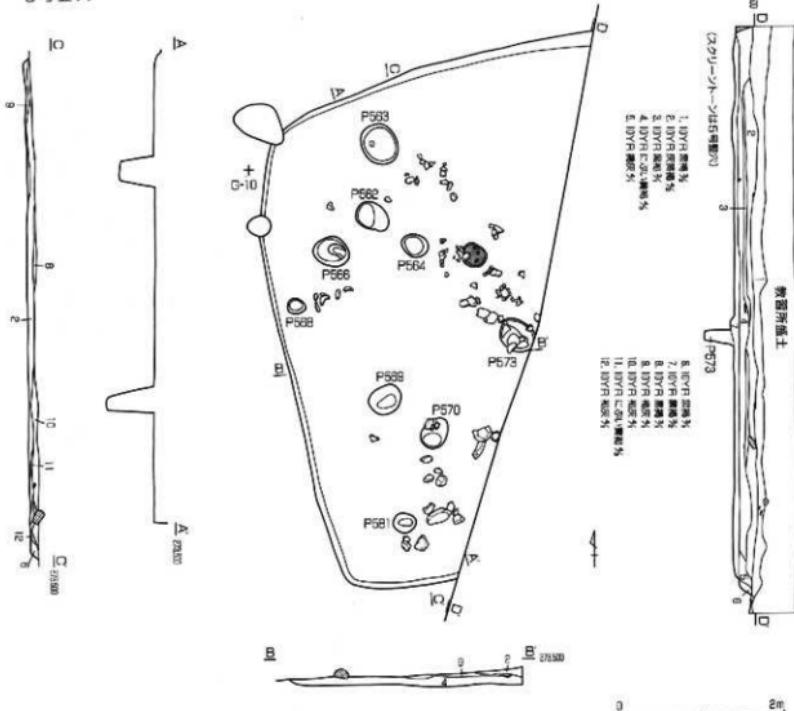


図12 5~6号竪穴建物跡

6号竪穴建物跡（造構：図12・13 遺物：図43・44）

位 置：G-9・10グリッド

主軸方位：N-72°-E

検出状況：建物跡は半分以上が調査区外に展開しているが、平面形は隅丸方形もしくは隅丸長方形と考えられる。建物規模は南北約6.0mであり、建物上屋に伴うと考えられる主柱は2本のみ検出された。炉・竈は確認できなかったため、調査区外に存在するものと考えられる。覆土及び床面には全体に炭化物や焼土が散在し、焼失した痕跡が確認でき、やや硬化した状態であった。しかし、貼床も特殊な土を用いたものではなく、意図的な貼床とは断定できなかった。

重複関係：16号溝跡、5号竪穴建物跡、6・7号柱穴列、12・13号掘立柱建物跡より新しい。

出土遺物：掲載遺物は85～98である。土器の多くは二次被熱を受けた痕跡があり、器種としては碗・甕類が多く出土した。

7号竪穴建物跡（造構：図14・15 遺物：図44～47）

位 置：E-10・11グリッド及びF-10・11グリッド

主軸方位：N-73°-E

検出状況：平面形は、隅丸方形を呈し、建物規模は南北約6.0m、東西約5.9mを測る。上屋の主柱は4本であるが、552・558号ピット間と552・553号ピット間、553号ピット南側に脇柱のような柱穴が存在する。うち629号ピットには柱材が残存しており、分析の結果、コナラ材が使用されていた。柱配置からみても南西部には脇柱がなく、広い空間が確保されているが、この付近の出土遺物から考えると、建物の中でこの一角が作業場として利用されていた可能性が高い。東側には竈が導入され、煙道部分が建物外に張り出す構造となっている点で、9・17号竪穴建物跡段階から一段階脱却した建物構造となっている。

建物覆土及び床面全体に炭化物と焼土が広がり、一見したところで焼失建物であることがわかった。特に建物北西付近は、壁面全体が焼土塊で覆われていたことから、壁材として粘土を貼っていた状況が観察された。北壁から西壁際周辺には浅い側溝も掘削されていたが、南東壁付近では明確な掘り込みは確認できなかった。床面はやや硬化した面もあり、貼床された状態に近かったが、意図的な貼床とは断定できなかった。

また、南東部に4号土壙が位置するが、土壙底部に近い覆土からは一部が炭化した材や遺物が出土したため、建物機能時には開口していたと判断し、本建物跡に伴う造構とした。用途は定かではないが、貯蔵を目的としたものであろうか。

重複関係：1号周溝付平地建物跡、17号掘立柱建物跡、16・17号竪穴建物跡より新しい。

出土遺物：掲載遺物は99～146である。竪穴建物跡の中で最も出土量が多く、器種も多岐に及んでいる。焼失建物であったため、多くの遺物は二次被熱を受けた状態で散乱し、甕などは火災時の熱により大きく変形していた。よって著しく被熱した状態で出土した116、122、126、132～135の中には同一個体が存在する可能性もあるが特定できないほど変形していた。138・139は須恵器製品であるが、土器製品と比べ若干古い段階に位置付けられると考えられる。

また、553号ピットからは高坏（109）の坏部、559号ピットからは甕（75）、558号柱穴からは小壺（115）がそれぞれ出土している。115は人為的に底部を欠損させた状態で出土していることからも、火災による建物廃絶後に柱材を抜き取り、意図的に柱穴へ埋納したものと考えられる。

建物南西隅では、叩き台として使用されたと考えられる河原石と、長さ10cm前後の

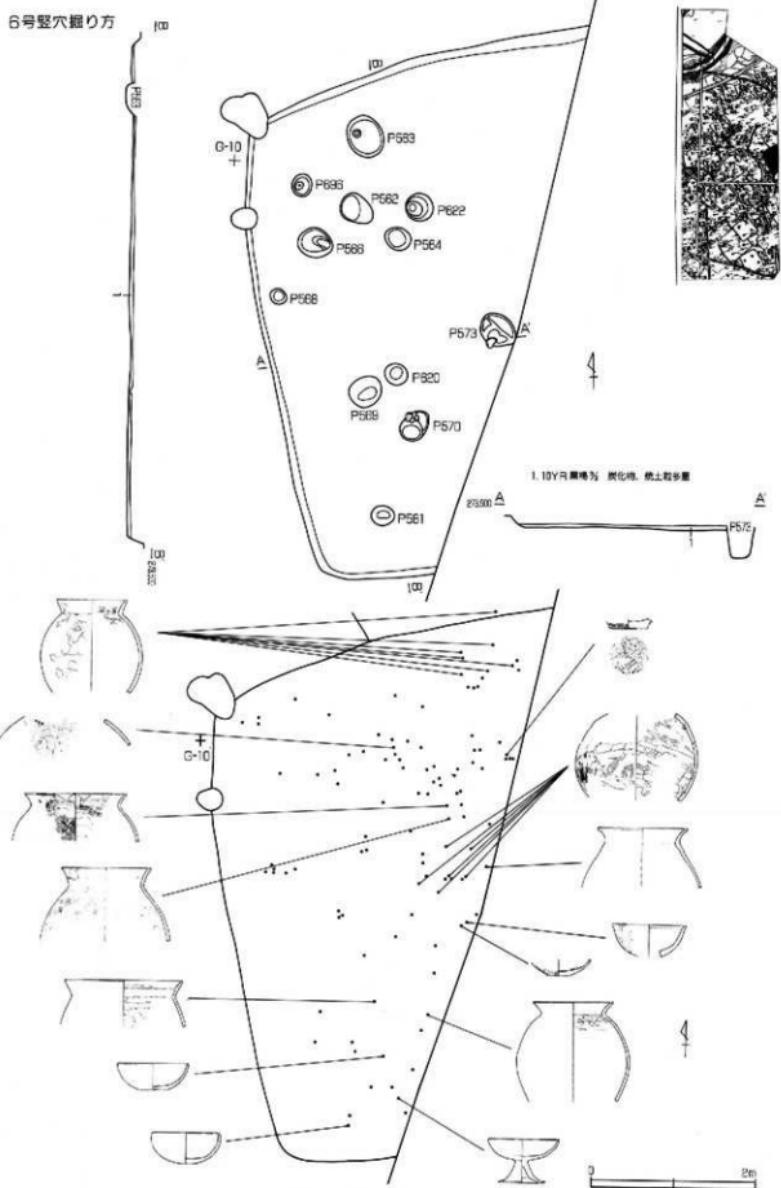


図13 6号竖穴建物跡

7号竖穴

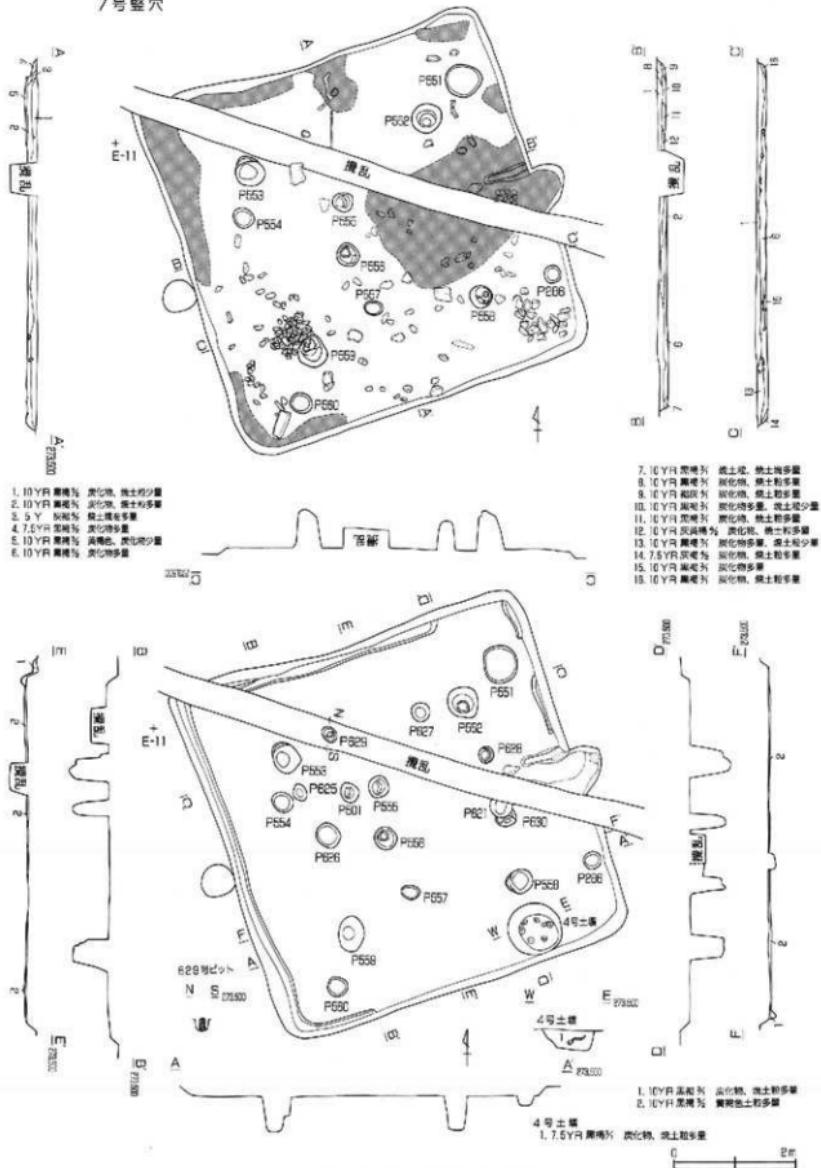


図14 7号竖穴建物跡(1)

7号竪穴

1. 10 YR 灰褐色 土化物、粘土質多量
2. 5Y 中灰褐色 粘土質、細砂質多量
3. 7.5YR 中灰褐色 粘土質多量
4. 10 YR 黑褐色 黑褐色粘土質多量
5. 10 YR 黑褐色 粘土質、炭化物少量
6. 10 YR 黑褐色 粘土質多量
7. 10 YR 黑褐色 粘土質多量
8. 10 YR 黑褐色 粘土質少量

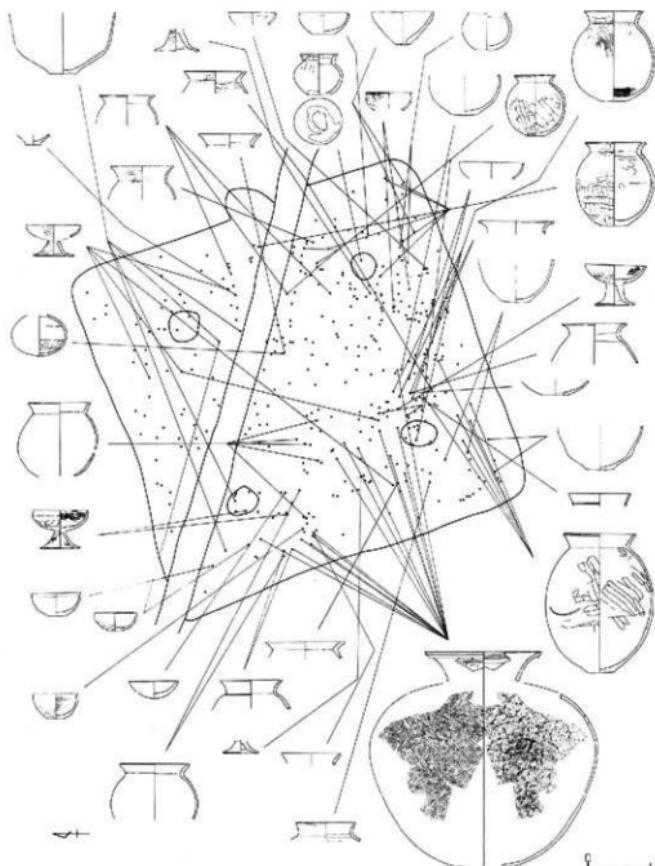
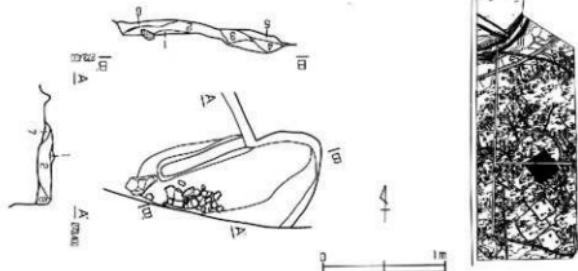


図15 7号竪穴建物跡(2)

儀形の小石が積み置かれた状態で検出された。図化掲載した141～146はその一部で全体では124個体が出土しており、これらは縄物用石錐と考えられる。

8号竪穴建物跡（遺構：図16・17 遺物：図47）

位置：C-10・11グリッド及びD-10・11グリッド

主軸方位：N-56°-E

検出状況：平面形はやや不整形な隅丸方形を呈し、建物規模は南北約0.5m、東西約5.5mを測る。主柱は4本の建物構造であり、炉跡は中央やや北東寄りに位置する。床面は地山からの堆積があつたが、明確に貼床とは断定できなかった。

重複関係：16号竪穴建物跡より古く、3号周溝付平地建物跡、14号竪穴建物跡より新しい。ただし、14号竪穴建物跡との時期差はあまりないものと考えられる。

出土遺物：掲載遺物は147～152である。土器小片は多かったが、543号ピットからは149の器台が出土しているが、7号竪穴建物跡で見られた廃絶時の埋納の可能性もある。

9号竪穴建物跡（遺構：図18・19 遺物：図48）

位置：D-12・13グリッド及びE-12・13グリッド

主軸方位：N-29°-W

検出状況：平面形は隅丸方形を呈し、建物規模は南北約4.6m、東西約4.4mで、主柱は4本の建物構造である。本遺構は、炉跡ではなく竪穴建物北壁に接近した位置にある。構造は部分的に土器片を補強材として用いつつ、大部分は粘土で固いを作った簡易な竪穴建物であったが、中央には煮炊きの際に土器の底部を支える支柱石が置かれていた。焚き口は南側と考えられる。

焼失建物ではないが、竪穴周辺から東側にかけて炭化物と灰が広がり、中から焼けた獸骨と考えられる骨細片なども検出されている。床面は地山から僅かな堆積土が存在し、竪穴周辺部分がやや硬化していたが、意図的な貼床であるかは断定できなかった。

重複関係：13号竪穴建物跡、5号土壙より新しい。

出土遺物：掲載遺物は153～163である。13号竪穴建物跡からの混入と考えられるもの以外、前代まで甕類の主力であったS字甕が消滅した時期と考えられる。甕からも台が消え、地床炉から竪穴への変化と連動した土器構成へと移行している。甕は大小のセットとして捉えられる。

10号竪穴建物跡（遺構：図19・20 遺物：図48）

位置：B-13・14グリッド及びC-14グリッド

主軸方位：N-26°-E

検出状況：平面形は隅丸長方形を呈し、建物規模は南北約5.2m、東西約4.4mで、やや浅いが主柱4本の建物構造と考えられる。炉跡は建物中央やや北寄りに位置し、周囲には炭化物が面的に見られた。床面は炉跡周辺の炭化物の広がりから推測しつつ掘削を行つたが、はっきり検出することはできなかった。掘り方は、溝状に大きな掘り込みが検出されたが、建物との関係は不明であった。

重複関係：12号溝跡より古い。

出土遺物：掲載遺物は164～178である。この建物跡ではやや時間幅のある土器群がまとめて出土している。S字甕は量的には少ない。

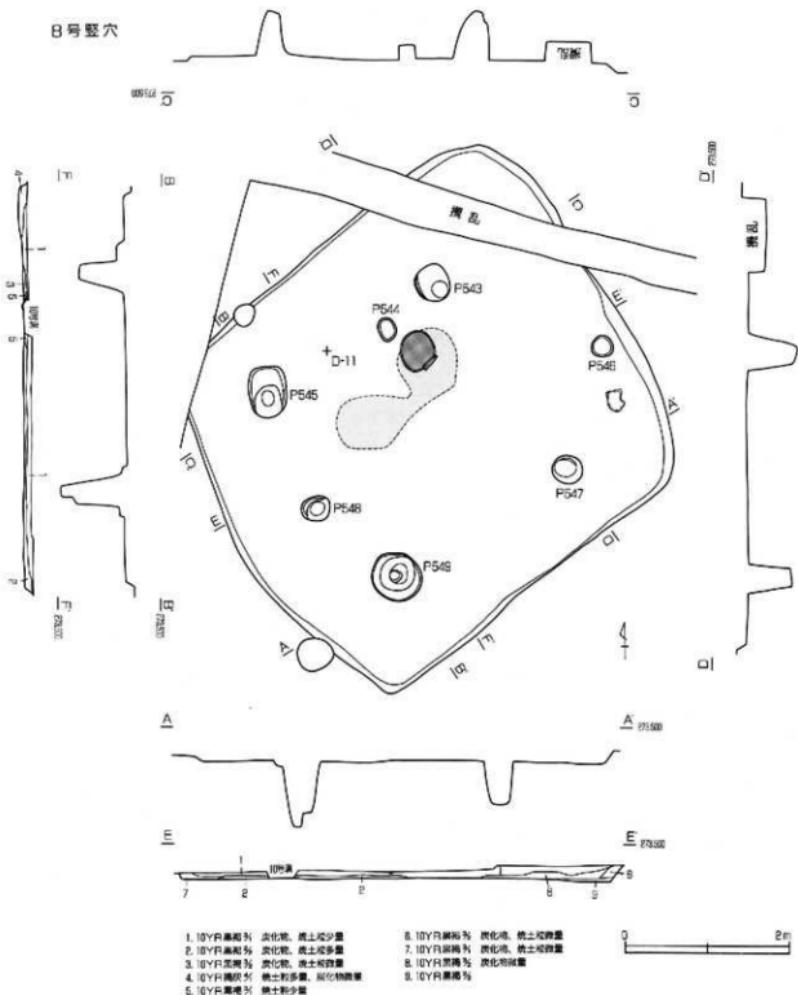


図16 8号竖穴建物跡(1)

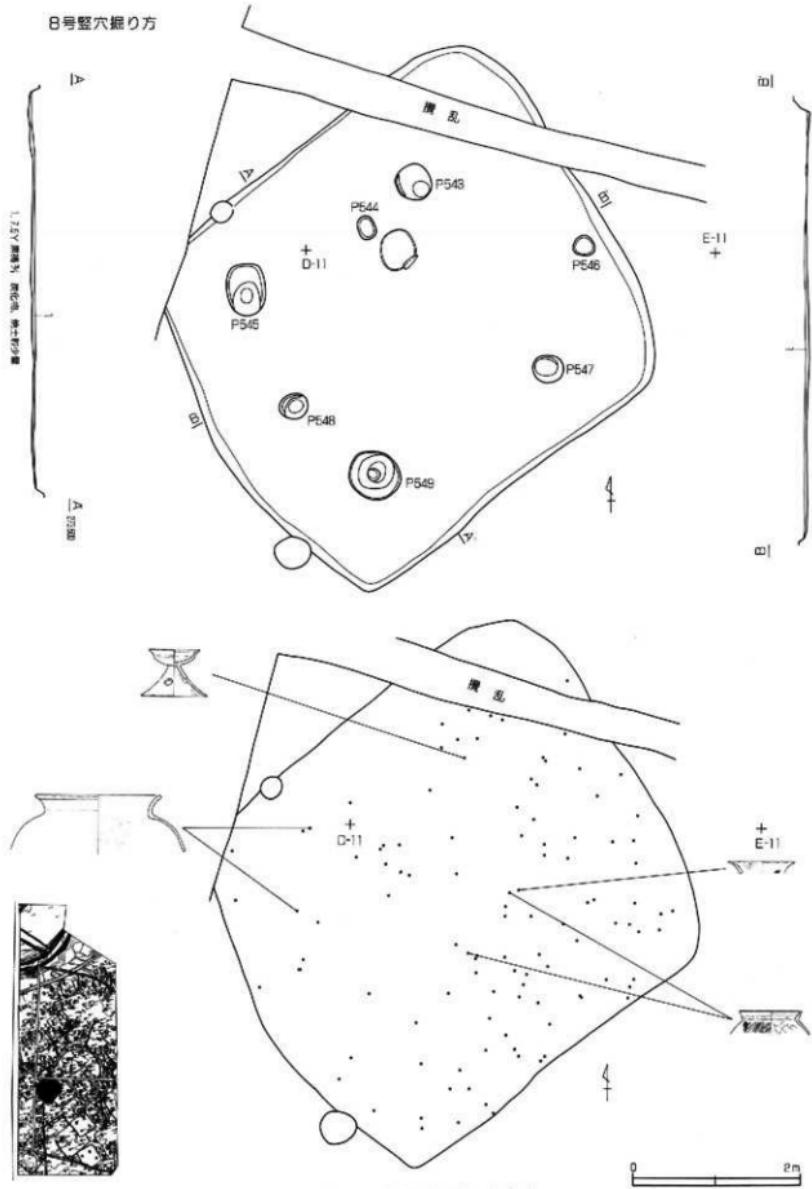


図17 8号竪穴建物跡 (1)

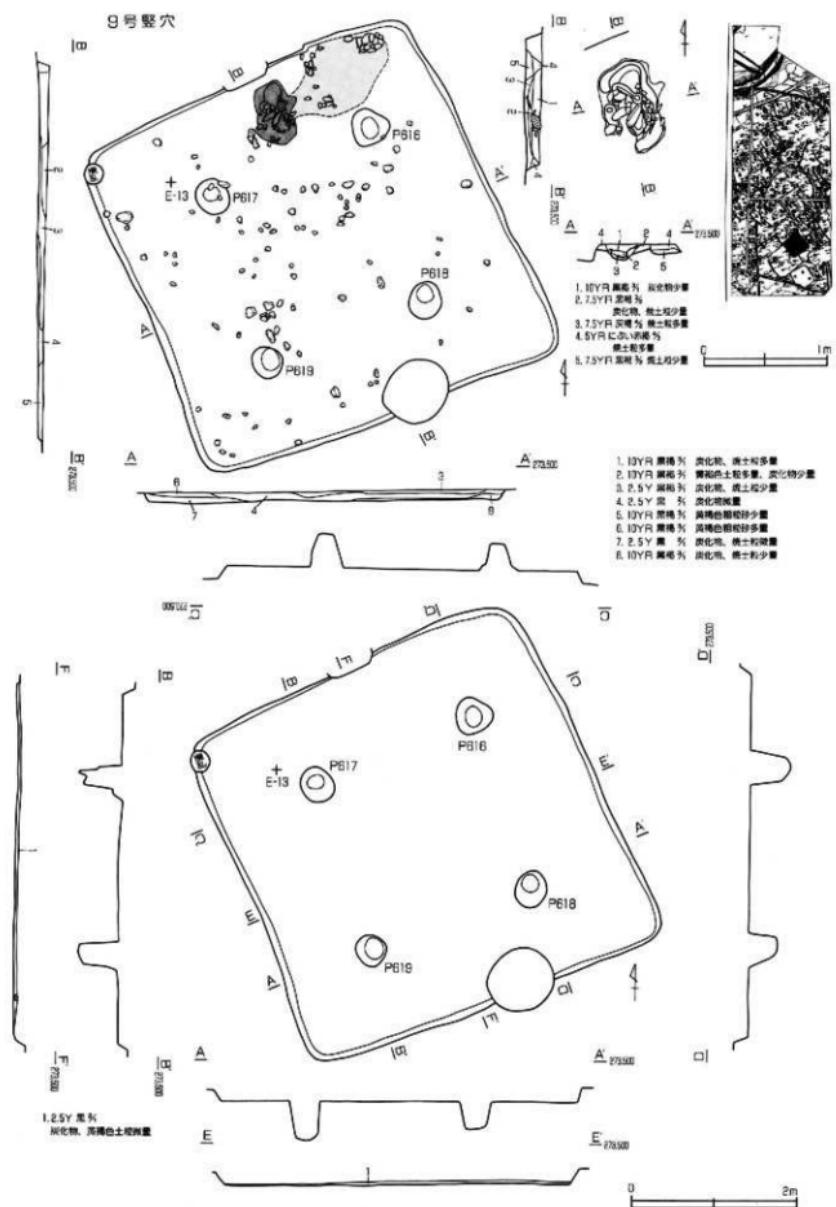
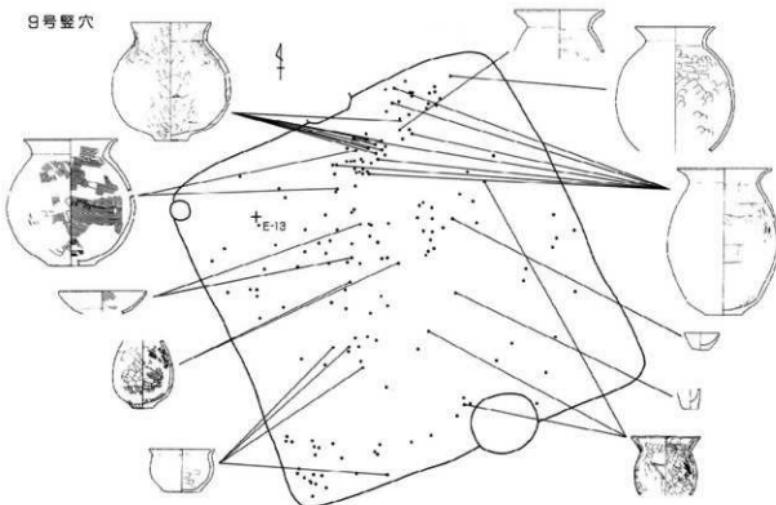


図18 9号竪穴建物跡



10号竪穴

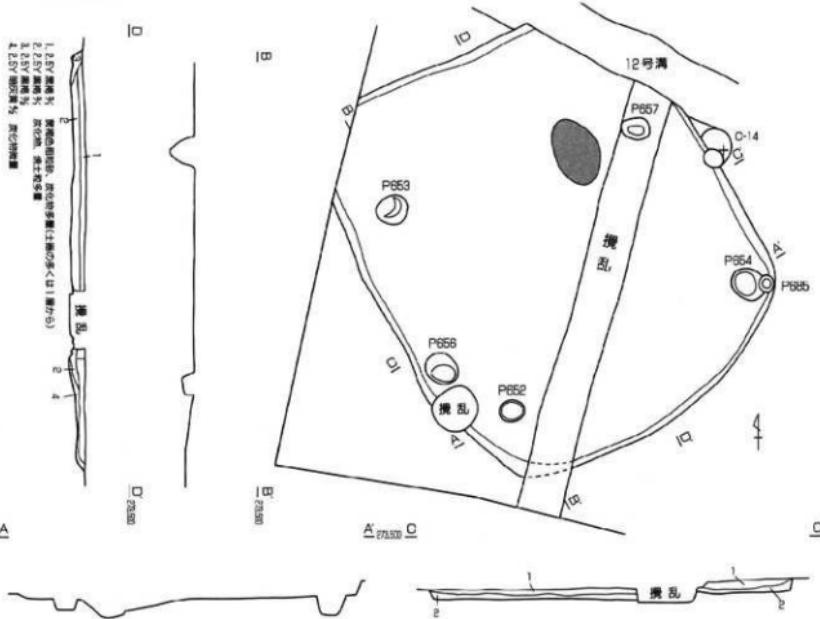


図19 9-10号竪穴建物跡

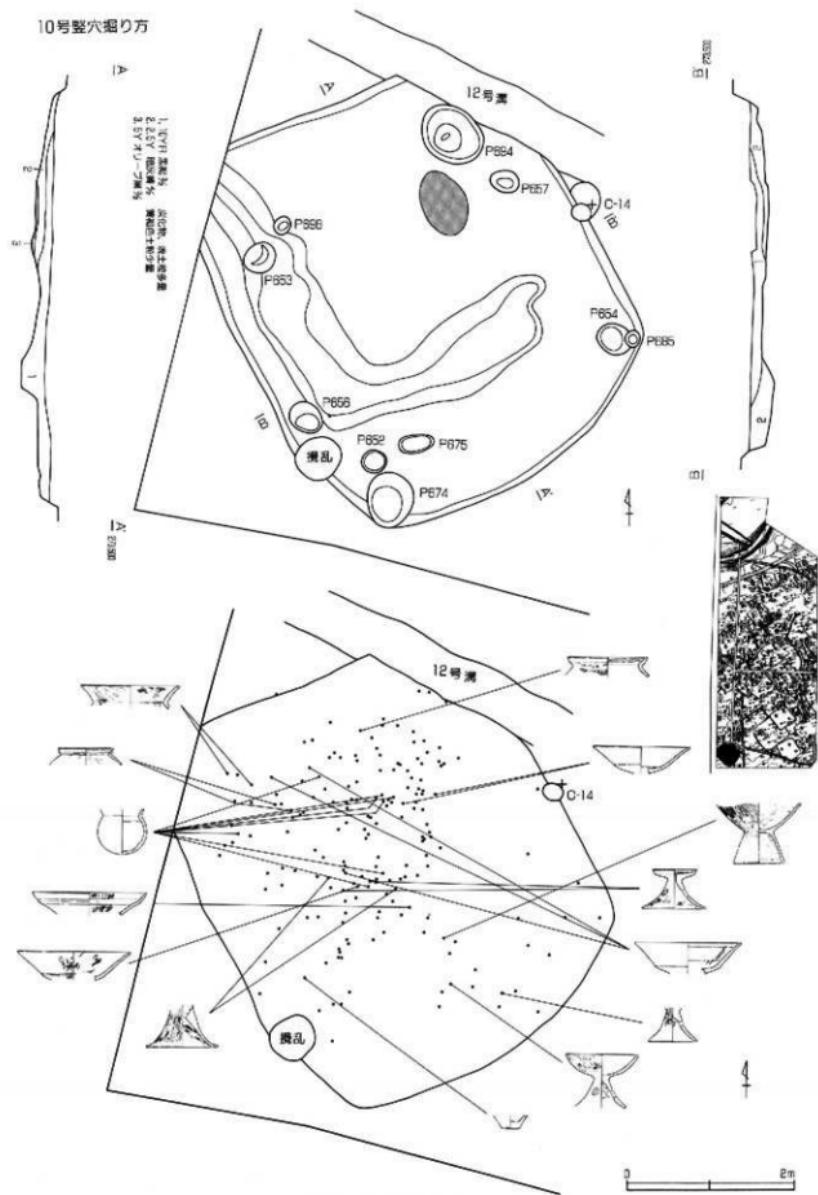


図20 10号竪穴建物跡

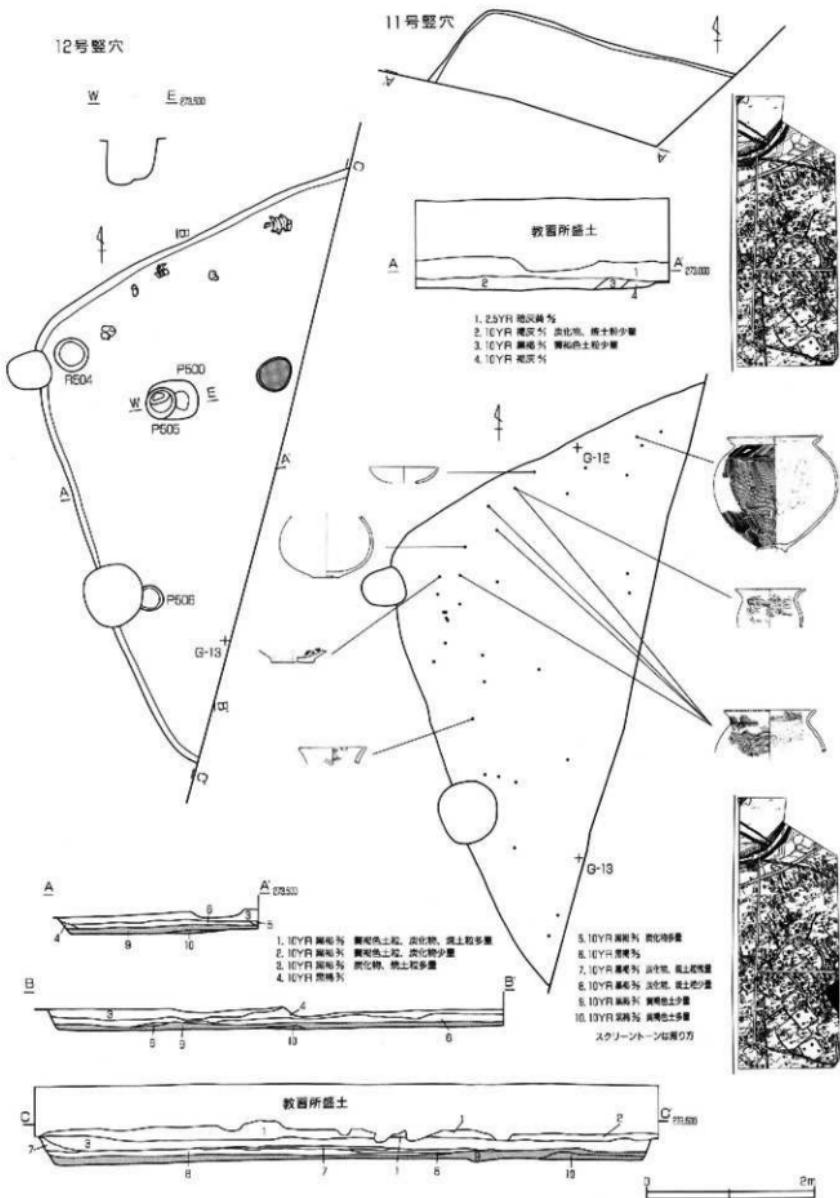


図21 11～12号竪穴建物跡

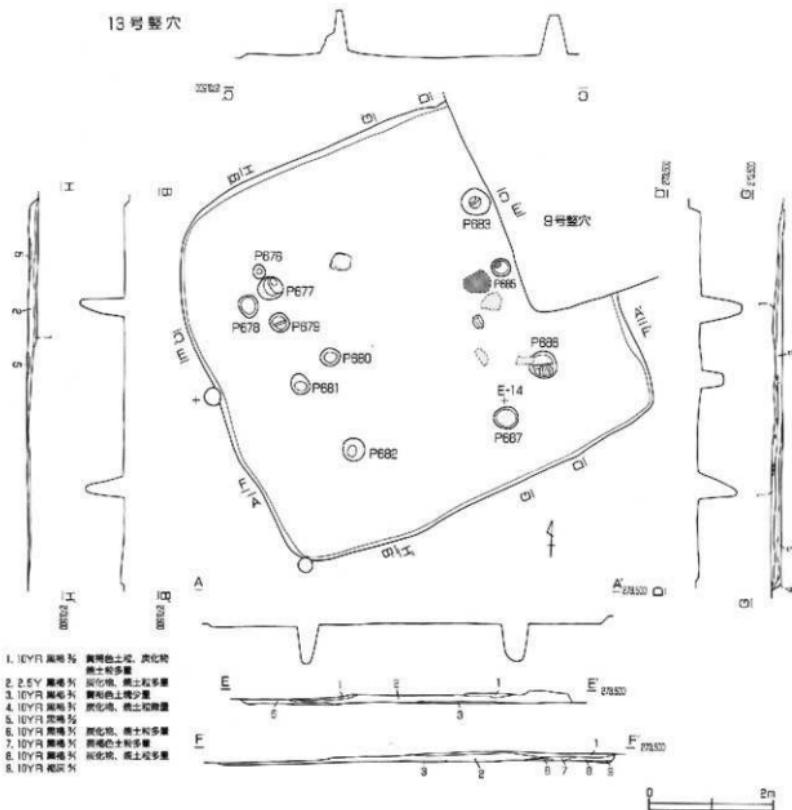


図22 13号竖穴建物跡(1)

11号竖穴建物跡 (造構: 図21 造物: 揭載なし)

位 置: E-15 及び F-15 グリッド

主軸方位: N-56°-E (推定)

検出状況: 調査区南東隅で確認された造構で、一帯が沼地化した段階で浸食されたために掘り込みも浅く、部分的な検出となつたが、形状と土層の堆積状況等から竖穴建物跡として取り扱つた。建物規模は不明で柱穴や炉・竈等の検出はない。

重複関係: 土層観察でも12号溝跡との新旧関係は不明であった。

出土遺物: 検出面積に比べ出土数は多かった。しかし、すべて小片であったため掲載はない。

12号竪穴建物跡（遺構：図21 遺物：図48）

位置：F-12・13グリッド及びG-12グリッド

主軸方位：N-66°-E

検出状況：大部分は調査区外に展開すると考えられるが、検出状況での平面形は隅丸方形で、建物規模は南北約6.0mを図る。柱穴は1基のみ検出され、炉跡等は確認されなかった。床面は若干土を入れて整地された部分も存在したが、意図的に貼床されたものと断定することはできなかった。

重複関係：14号掘立柱建物跡より古く、19号竪穴建物跡より新しい。

出土遺物：掲載遺物は179～185である。土器出土量は多いが、小片であったために接合率は低かった。中でもS字甕片が多いのが特徴であった。

13号竪穴建物跡（遺構：図22・23 遺物：図49・50）

位置：D-13・14グリッド及びE-13・14グリッド

主軸方位：N-67°-E

検出状況：本調査区内で明確に範囲確認ができる竪穴建物の中で最大規模の竪穴建物跡で、平面形は隅丸方形を呈し、建物規模は南北約6.4m、東西約6.8mの主柱4本の建物構造である。炉跡は683号ピットと686号ピットの中間に位置し、周囲に炭化材が点在していた。掘り方段階で建物内周囲を浅く溝状に掘り込んだ痕跡が検出されたが、目的などは不明である。

本建物跡も沼地による侵食を受け、ほぼ全体が削平された状態であったが、確認段階で建物中央から南側にかけて多量の土器が出土しており、建物廃絶後に一括廃棄されたものと考えられる。北側で何らかの作業に用いたと考えられる河原石が出土しており、7号竪穴建物同様付近が作業場であった可能性がある。

重複関係：9号竪穴建物跡より古く、11号溝跡、20号竪穴建物跡より新しい。

出土遺物：掲載遺物は186～216である。S字甕を中心まとまって出土状況であったが、破片が細かいため思ったほど接合できなかったため、掲載できた遺物は意外と少なかった。この段階ではS字甕の大小セットが確実に成立している。

14号竪穴建物跡（遺構：図24・25 遺物：図50）

位置：C-10・11グリッド

主軸方位：N-52°-E

検出状況：南西側は調査区に切られているが、平面形は隅丸長方形を呈し、建物規模は南北約4.6m、東西約5.4mで、主柱は4本の建物構造である。炉跡はほぼ中央に位置する。床面には硬化したところはなく、明瞭な貼床も確認できなかった。

重複関係：8号竪穴建物跡、2号土壙より古く、17号溝跡、2・3号周溝付平地建物跡より新しい。

出土遺物：掲載遺物は217～222である。

15号竪穴建物跡（遺構：図26 遺物：図50）

位置：E-13・14グリッド及びF-13・14グリッド

主軸方位：N-18°-W

検出状況：調査区東壁に切られ、沼地による削平を受けたため、検出状況は不良であった。特に建物南側の線はほぼ推定であり、正確な全体規模は不明である。主柱は3本が確認され、炉跡らしき焼土集中箇所が2基検出され、周囲には炭化材が点在していた。

13号竪穴掘り方

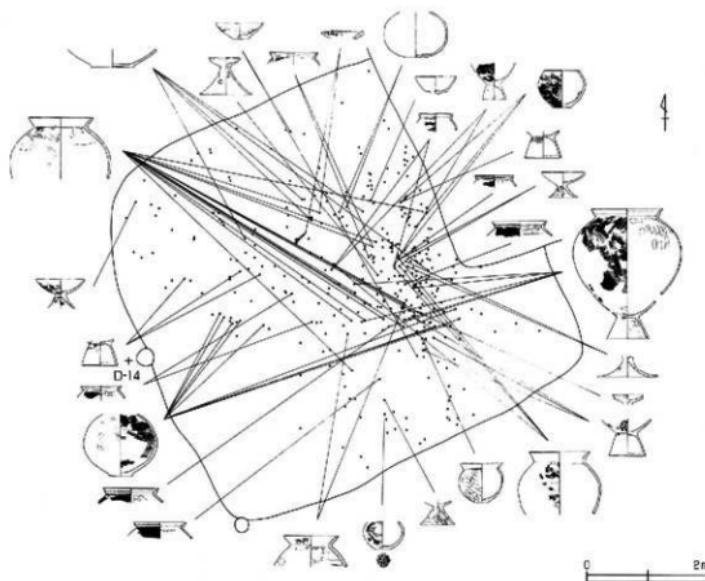
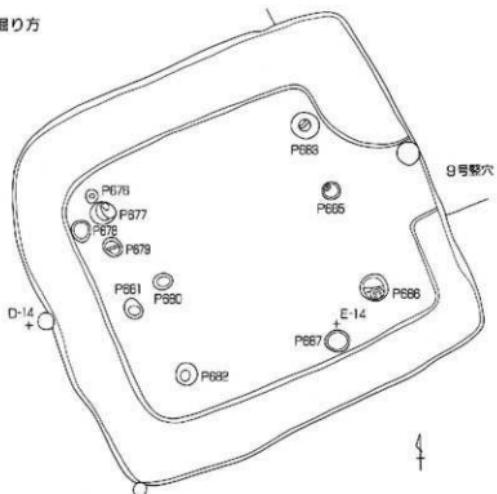


図23 13号竪穴建物跡 (2)

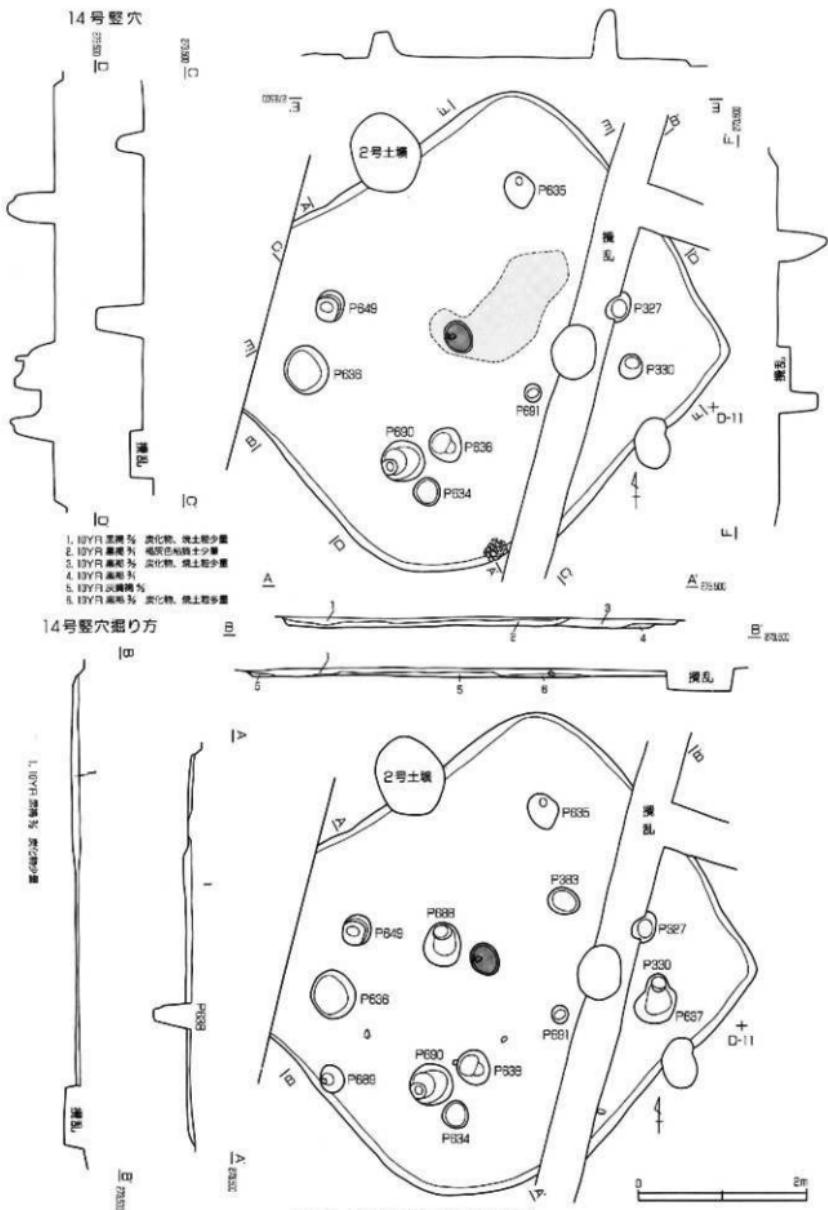


図24 14号堅穴建物跡(1)

14号竪穴

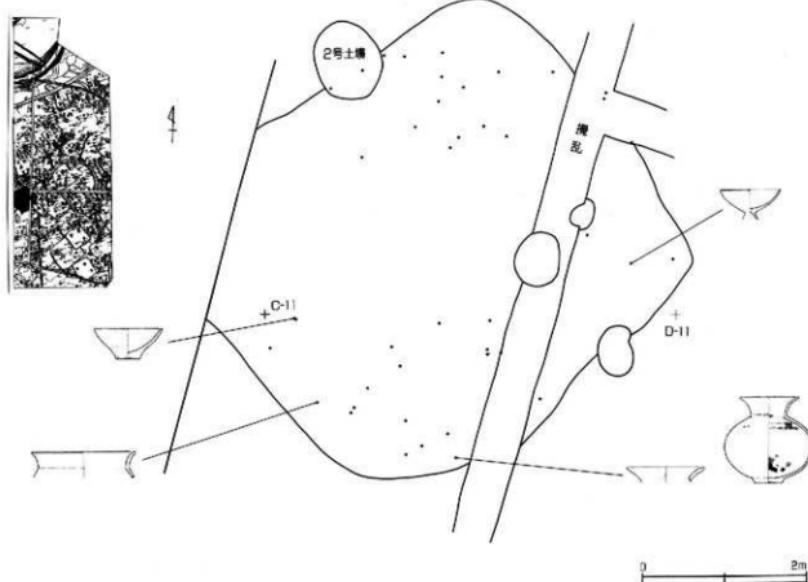


図25 14号竪穴建物跡(2)

重複関係：19号竪穴建物跡より新しい。22号掘立柱建物跡、8号土壙との新旧関係は不明である。

出土遺物：掲載遺物は223～229である。大きく2時期の遺物が混在しているため、19号竪穴建物跡の遺物が混入したか、あるいは2基の炉跡の存在からも、建物推定範囲内に別にもう1棟重複する竪穴建物が存在した可能性もある。

16号竪穴建物跡（遺構：図27・28 遺物：図50）

位 置：D-10・11グリッド及びE-11グリッド

主軸方位：N-65°-E

検出状況：調査段階では8号竪穴建物跡との重複が定かではなく、結果的に8号竪穴建物跡より古ないと判断したが、出土遺物からみる限りはそれほど時間差がないと考えられる。

平面形は隅丸方形を呈し、建物規模は南北約5.7m、東西約5.8mである。主柱は4本の建物構造で、炉跡は建物中央に位置し、周囲に炭化物が面的に広がっていた。

床からは硬化面も確認できなかったが、掘り方までに比較的厚く土層堆積し、上層の炉跡直下にも部分的に炭化物等の集中が確認されたことから、この建物跡については、建替えが行われた可能性が高い。

重複関係：7号竪穴建物跡、17号掘立柱建物跡より古く、8号竪穴建物跡、3号周溝付平地建物跡より新しい。16号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：掲載遺物は230～242である。S字甕の段階であるが、若干古い土器も混入している。

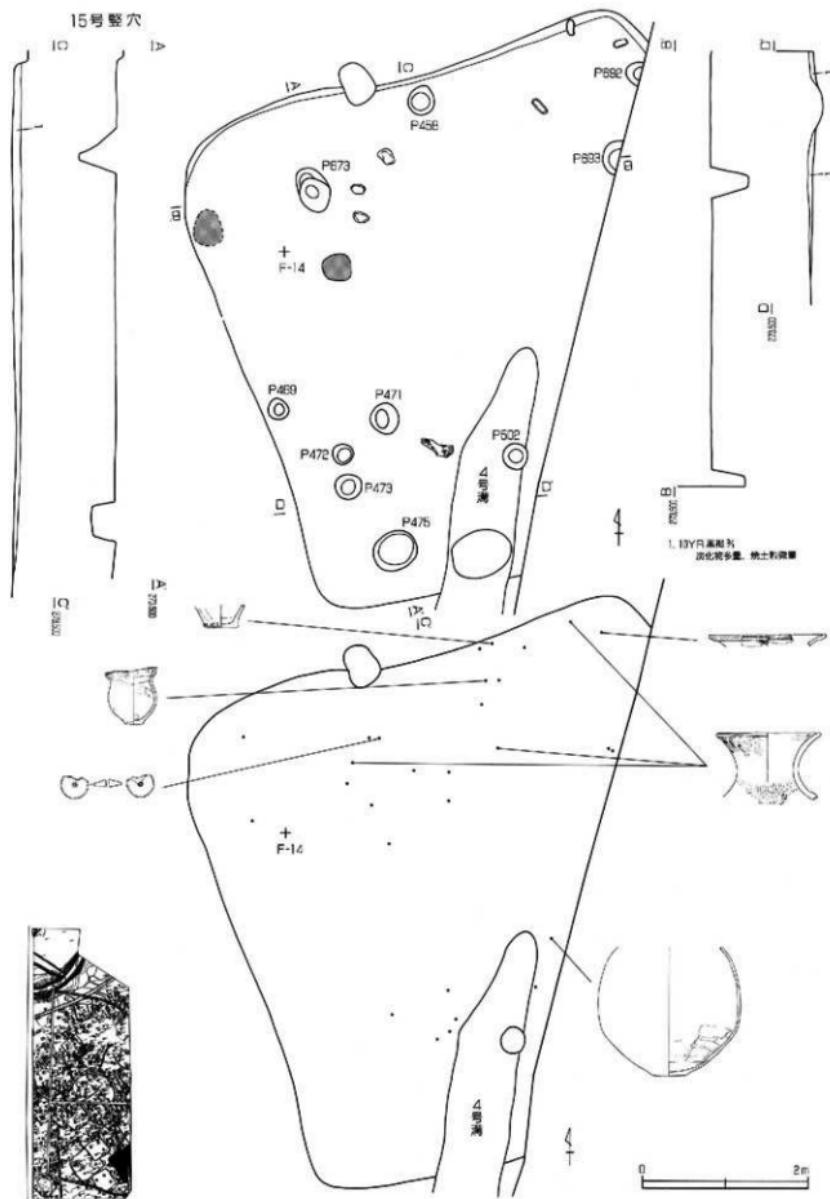


図26 15号竖穴建物跡

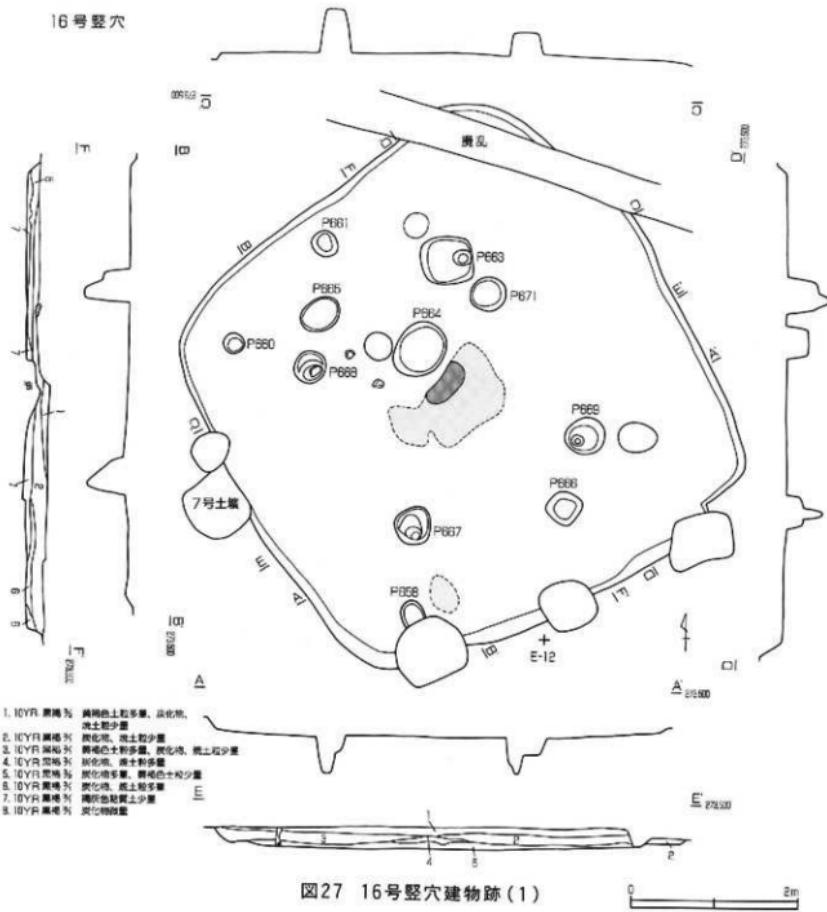


図27 16号竖穴建物跡(1)

17号竖穴建物跡 (遺構: 図29 遺物: 図51)

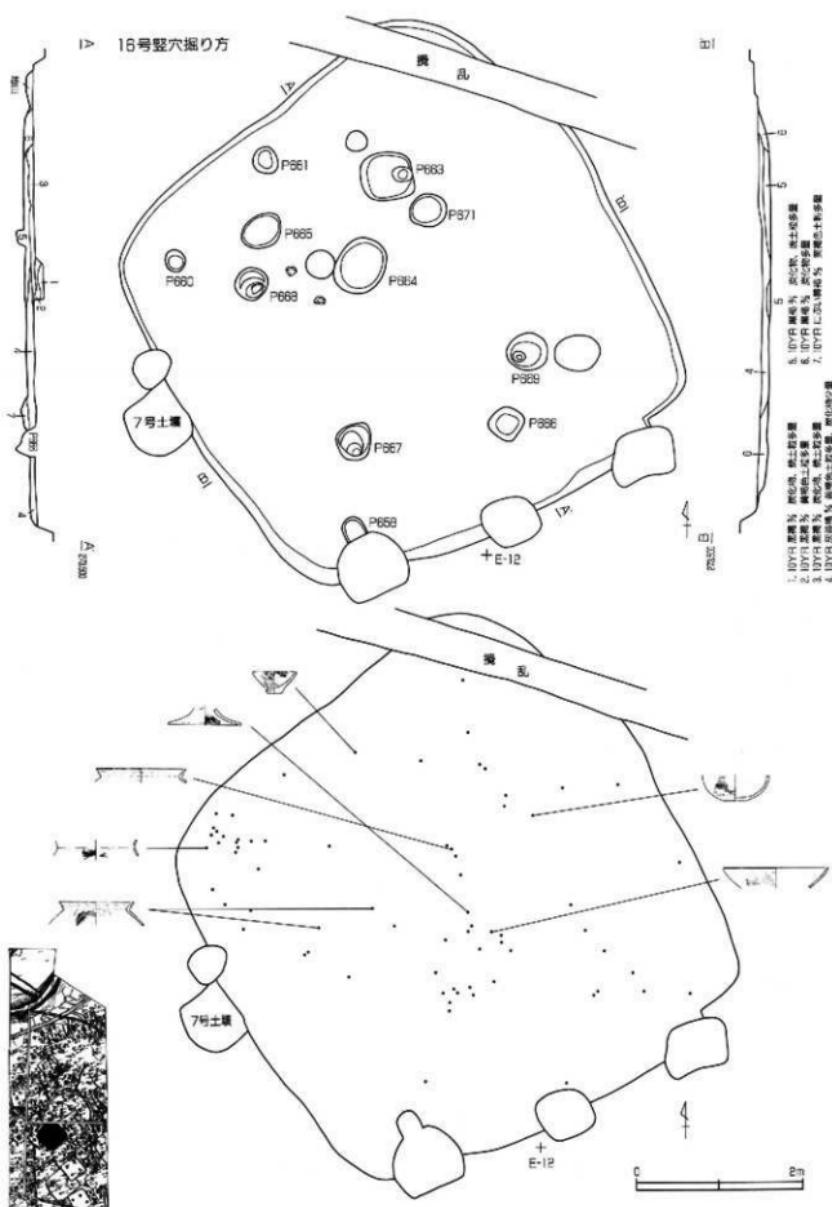
位 置：E-11・12グリッド及びF-11・12グリッド

主軸方位：N-69°-E

検出状況：7号竖穴建物跡に北側半分を大きく切られているが、平面形は隅丸方形を呈し、建物規模は南北4.0m以上、東西約4.8mである。主柱は2本のみ確認されたが、北側については不明であった。9号竖穴建物跡同様炉ではなく竈構造に近い形態で、東壁に近接した場所に位置する。竈焚き口は西側と考えられ、竈東壁近くに支柱石が存在した。床面は全体にやや硬化した状況であったが、貼床等は確認されなかった。

重複関係：7号竖穴建物跡より古く、1号周溝付平地建物跡より新しい。

出土遺物：出土遺物は少なく、掲載できたのは竈付近から出土した243のみであった。



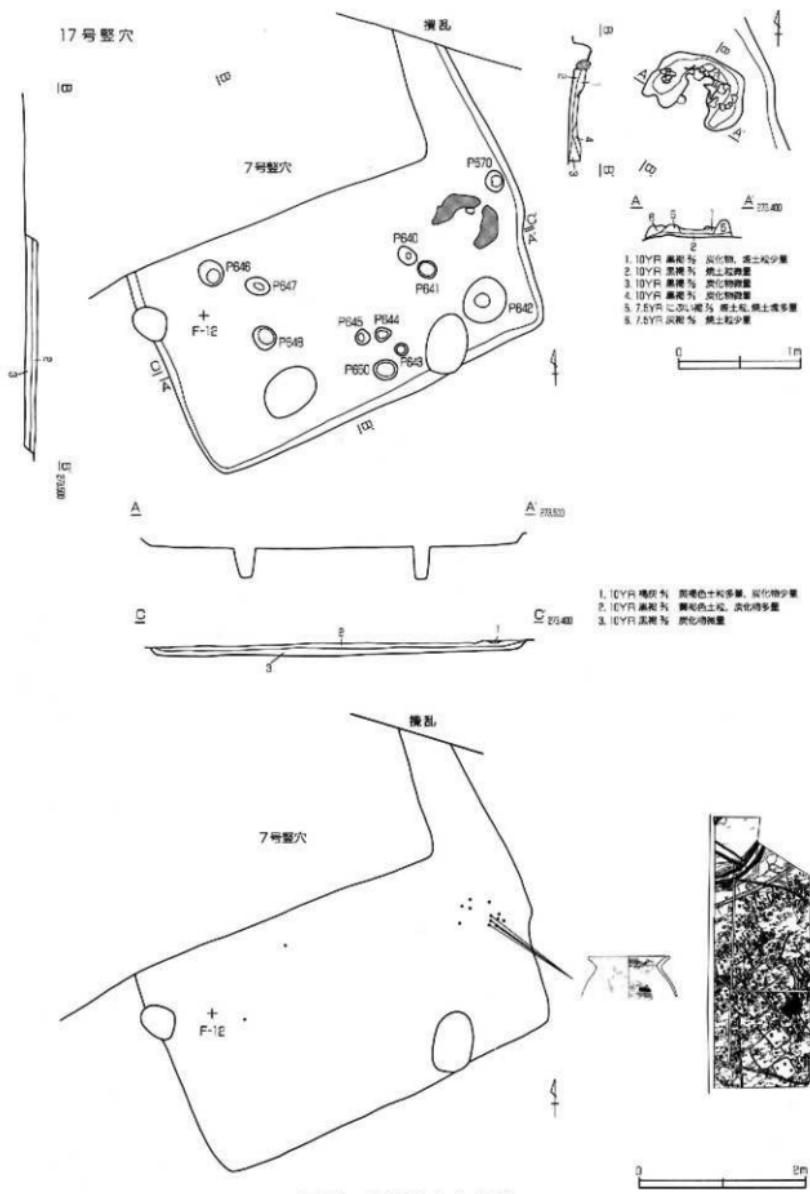


図29 17号竖穴建物跡

18号竪穴建物跡（造構：図30 遺物：掲載なし）

位置：B-13グリッド

主軸方向：N-58°-E（推定）

検出状況：大部分が調査区西壁外に展開していると考えられ、検出されたのは南東隅のみであった。本造構については確實に竪穴建物跡であると断定できる材料はないが、形状と周囲の状況から竪穴建物跡として番号を付した。

重複関係：12号溝跡より古い。

出土遺物：土器小片が数点出土した。

19号竪穴建物跡（造構：図30 遺物：掲載なし）

位置：F-13グリッド

主軸方向：N-38°-E（推定）

検出状況：12・15号竪穴建物跡と重複し、大部分は調査区東壁外に展開していると考えられ、検出されたのは南西隅のみであった。18号竪穴建物跡同様確実に竪穴建物跡であると断定できる材料はないが、形状と周囲の状況から竪穴建物として番号を付した。

重複関係：12・15号竪穴建物跡より古い。

出土遺物：出土遺物なし。

20号竪穴建物跡（造構：図30 遺物：図51）

位置：D-14グリッド及びE-14・15グリッド

主軸方位：N-12°-E

検出状況：上面は沼地による侵食を受けて削平されていたため、確認時にはほぼ床面が現れている状況であった。平面形はやや不整形な隅丸方形を呈し、建物規模は南北約4.8m、東西約4.4mを測る。主柱は4本検出され、炉跡は建物中央に位置する。

重複関係：12号溝跡、13号竪穴建物跡より古い。22号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：掲載遺物は244～245である。僅かに残されていた覆土部分から少量出土している。

（3）掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は全体で22棟を確認したが、以下に記載する柱間はすべて中心からの距離で計測している。

1号掘立柱建物跡（造構：図31 遺物：掲載なし）

位置：G-6・7グリッド～H-6・7グリッド

主軸方位：N-28°-W 柱穴：26・41・50・223・271号ピット

検出状況：北東部は調査区外であるが、5基の柱穴を検出している。平面形は長方形を呈し、長軸は北西から南東方向へ約4.6m、短軸は北東から南東へ約4.0mを測る。柱穴平面形は円形及び方形で、223号ピットには僅かではあるが礎板が残存していた。なお、26・223号ピットは同規模の柱穴と重複し、50号ピットも掘り方が大きいことから、この建物は建替えがあった可能性がある。

重複関係：1号竪穴建物跡、7・9号溝跡より新しい。2号掘立柱建物跡、1号柱穴列、8号溝跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：H-7グリッドを中心に高环を主体とする土器の集中個所が存在したが、この建物に収納されていた土器の可能性もある。271号ピットから土器が多量に出土している。

18号豎穴



18号豎穴
12号溝
L. IGYF 無機物
G. IGYF 有機物
E. IGYF 灰褐色
S. IGYF 黑褐色
スクリーントーン 沼地堆積層

19号豎穴



20号豎穴



17

10

0

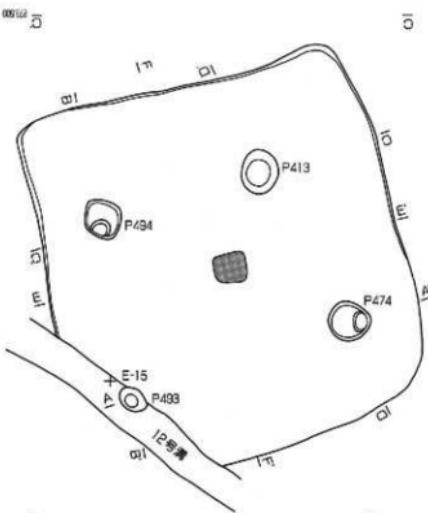
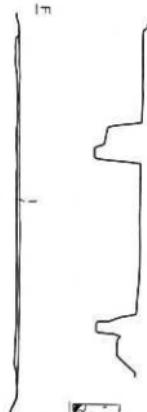


図30 18~20号豎穴建物跡

2号掘立柱建物跡（遺構：図31・遺物：掲載なし）

位 置：F-6・7グリッド～G-6・7グリッド

主軸方位：N-70°-E 柱穴：11・21・28・259・268号ピット

検出状況：建物平面形は長方形を呈し、長軸は北東から南西へ約4.2m、短軸は北西から南東へ約3.0mを測る。柱穴数は5基であり、柱穴平面形は円形で28・68号ピット間に柱穴は確認されなかった。

重複関係：1号竪穴建物跡、1号掘立柱建物跡、1号柱穴列との新旧関係は不明である。

出土遺物：11・28号ピットから土器片微量が出土している。

3号掘立柱建物跡（遺構：図31・遺物：掲載なし）

位 置：E-6・7グリッド～F-6・7グリッド

主軸方位：N-70°-E 柱穴：49・79・143・206・208・226号ピット

検出状況：建物平面形は長方形を呈し、長軸は北東から南西へ約3.0m、短軸は北西から南東へ約2.6mを測る。柱穴数は6基であり、柱穴平面形は方形で206・226号ピットからは礎板が検出された。206ピットの礎板は残存状況が不良で木片の一部のみ確認されたが、226号ピットの礎板は、木片自体は薄皮一枚で残存していた状況であったが、辛うじて範囲確認は可能な状態であった。

重複関係：2号竪穴建物跡より新しい。4号掘立柱建物跡、4号柱穴列との新旧関係は不明である。

出土遺物：すべてのピットから土器片少量が出土しているが、時期を確定できる資料は見当たらなかった。

4号掘立柱建物跡（遺構：図31・遺物：掲載なし）

位 置：E-6・7グリッド～F-6・7グリッド

主軸方位：N-84°-E 柱穴：40・58・82・83・84・231号ピット

検出状況：建物平面形は長方形を呈し、長軸は東から西へ約3.4m、北から南へ約2.8mを測る。柱穴数は6基であり、柱穴平面形は円形及び楕円形である。

重複関係：2号竪穴建物跡より新しい。3・5号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：58・83・84・231号ピットから土器が微量出土している。

5号掘立柱建物跡（遺構：図32・遺物：掲載なし）

位 置：E-7・8グリッド～F-7・8グリッド

主軸方位：N-40°-E 柱穴：17・42・43・65・71・73・94・145号ピット

検出状況：建物平面形は正方形を呈し、一辺が約4.2mを測る。柱穴数は8基であり、柱穴平面形はすべて円形であった。本建物の時期や性格は不明であるが、周溝付平地建物跡と類似した規模、軸線であることから、関連する建物である可能性が考えられる。

重複関係：2・3号竪穴建物跡、4号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：17・43・65・71・73・94・145号ピットから土器が微量出土している。

6号掘立柱建物跡（遺構：図32・遺物：掲載なし）

位 置：D-7・E-7グリッド

主軸方位：N-77°-E 柱穴：100(142)・111・135・139(147・165)号ピット

検出状況：建物平面形は正方形を呈し、一辺が約2.5mを測る。柱穴は4基で構成され、柱穴平面形は重複もあるためやや不整形となっているが円形及び方形で、うち111号ピットか

らは礎板が検出されている。また、100・142号ピットと139・147・165号ピットはそれぞれ重複関係にあり、建替えられた可能性も考えられる。

重複関係：5号柱穴列との新旧関係は不明である。

出土遺物：111・139号ピットから土器が微量出土している。

7号掘立柱建物跡（造構：図32・遺物：掲載なし）

位 置：C-7・8グリッド～D-7グリッド

主軸方位：N-68°-E 柱穴：110・129・131・185号ピット

検出状況：北西部分が調査区外に延びると考えられるが、建物平面形は長方形を呈し、建物規模は北西から南東へ約3.8m、北東から南西へ約3.0mを測る。柱穴数は4基のみ確認され、柱穴平面形は円形である。

重複関係：5号柱穴列より古い。

出土遺物：129号ピットから土器が微量出土している。

8号掘立柱建物跡（造構：図32・遺物：掲載なし）

位 置：F-8・9グリッド

主軸方位：N-36°-E 柱穴：88・90・122・124号ピット

検出状況：建物平面形は長方形を呈し、建物規模は北東から南西へ約2.6m、北西から南東へ約1.7mを測る。柱穴数は4基であり、柱穴平面形は円形である。

重複関係：9・10・11号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：88・90・124号ピットから土器が微量出土している。

9号掘立柱建物跡（造構：図32・遺物：図51）

位 置：E-8・9グリッド～F-8・9グリッド

主軸方位：N-24°-W 柱穴：123・170・174・189・197・603号ピット

検出状況：建物平面形は長方形を呈し、建物規模は北西から南東へ約4.8m、北東から南西へ約3.8mを測る。柱穴数は6基であり、柱穴平面形は円形である。近接する10号掘立柱建物跡と併行関係にあり、同時期の可能性がある。

重複関係：5号溝跡より新しく、1号周溝付平地建物跡、8・11号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：170号ピットから265号の壺が出土している。

10号掘立柱建物跡（造構：図33・遺物：掲載なし）

位 置：F-8・9グリッド

主軸方位：N-25°-W 柱穴：86・87・98・119・120・152号ピット

検出状況：建物平面形は長方形を呈し、建物規模は北西から南東へ約3.4m、北東から南西へ約2.7mを測る。柱穴数は6基であり、柱穴平面形は円形である。近接する9号掘立柱建物跡と併行関係にあり、同時期の可能性がある。

重複関係：5号溝跡、8・11号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：98・119・120号ピットから土器が微量出土している。

11号掘立柱建物跡（造構：図33・遺物：掲載なし）

位 置：E-8・9グリッド～F-8・9グリッド

主軸方位：N-69°-E 柱穴：97・116・125・146・173・180号ピット

検出状況：建物平面形は長方形を呈し、北東から南西へ約2.6m、北西から南東へ約2.6mを測る。柱穴数は6基であり、柱穴平面形は円形及び橢円形である。

重複関係：8・9・10号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：97・116・125・180号ピットから土器が少量出土している。

12号掘立柱建物跡（遺構：図33・遺物：掲載なし）

位置：G10・11グリッド

主軸方位：N-66°-E 柱穴：326・393・631号ピット

検出状況：検出された柱穴数は3基のみで大部分が調査区外に展開しているものと考えられるが、重複する13号掘立柱建物跡の柱穴規模との類似性から、長軸は北東から南西方向と予測される。検出範囲内で北西から南東へ約3.3m、北東から南西へ約2.5mを測る。柱穴平面形は円形及び方形である。

重複関係：6号竪穴建物跡より古い。13号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：326・631号ピットから土器が微量出土している。

13号掘立柱建物跡（遺構：図33・遺物：掲載なし）

位置：F-11グリッド～G-10・11グリッド

主軸方位：N-63°-E 柱穴：291・373・396・550・623号ピット

検出状況：南東部は調査区外に展開すると考えられるが、柱穴規模は約0.7mと掘立柱建物跡の中でも大型であり、平面形は円形及び方形である。建物平面形は長方形で、建物規模は北東から南西へ約4.5m、北西から南東へ約2.6mを測り、5基の柱穴が検出されている。

重複関係：6号竪穴建物跡より古く、1号周溝付平地建物跡より新しい。12号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：373・550号ピットから土器が微量出土している。

14号掘立柱建物跡（遺構：図34・遺物：掲載なし）

位置：E-12・13グリッド～F-12・13グリッド

主軸方位：N-70°-E 柱穴：372・378・407・411・444・448号ピット

検出状況：建物平面形は長方形を呈し、建物規模は北東から南西へ約3.8m、北西から南東へ約3.2mを測る。柱穴数は6基で構成され、柱穴平面形は円形及び長方形であるが、同規模の柱穴との重複があり、建替えがあった可能性がある。

重複関係：12号竪穴建物跡との新旧関係は明確ではないが、調査段階では新しいと判断した。

出土遺物：すべてのピットから土器が少量出土している。378号ピットからは高坏、407・448号ピットからS字甕が出土している。

15号掘立柱建物跡（遺構：図34・遺物：図51）

位置：D-9・10グリッド～E-10グリッド

主軸方位：N-75°-E 柱穴：395・589・590・591・599号ピット

検出状況：6・13号溝跡など複数の遺構が重複しており、北東部の柱穴が確認できなかったが、円形の柱穴を5基検出している。建物平面形は長方形を呈し、建物規模は東から西へ約3.2m、北から南へ約2.4mを測る。

重複関係：1・2号周溝付平地建物跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：591号ピットから266の小型土器が出土している。また、395・589・599号ピットから土器が微量出土している。

16号掘立柱建物跡（造構：図34・遺物：掲載なし）

位置：C-10・11グリッド～D-11グリッド

主軸方位：N-70°-E 柱穴：323・330・548・660・691号ピット

検出状況：竪穴建物跡が重複しており、北東部の柱穴は確認できなかったため、円形の柱穴が5基検出されている。建物平面形は長方形を呈し、建物規模は北東から南西へ約2.8m、北西から南東へ約2.6mを測る。

重複関係：8・14・16号竪穴建物跡との新旧関係は明確には明らかにできなかったが、14・16号竪穴建物跡より古いと考えられる。

出土遺物：すべてのピットから土器が微量出土しているが、691号ピットからは高坏が出土している。

17号掘立柱建物跡（造構：図34・遺物：掲載なし）

位置：D-11・12グリッド～E-10・11グリッド

主軸方位：N-65°-E 柱穴：308・381・382・659・663・665号ピット

検出状況：建物平面形は長方形を呈し、建物規模は北西から南東へ約4.2m、北東から南西へ約3.4mを測る。柱穴数は6基であり、柱穴平面形は方形及び楕円形である。

重複関係：7号竪穴建物跡より古く、8・16号竪穴建物跡より新しい。

出土遺物：308・381・382・659・665号ピットから上器が微量出土している。659号ピットからは二重口縁壺が出土している。

18号掘立柱建物跡（造構：図35・遺物：掲載なし）

位置：C-12グリッド～D-12グリッド

主軸方位：N-60°-E 柱穴：352・353(433)・355(356)・425・437・515号ピット

検出状況：建物平面形は長方形を呈し、建物規模は北東から南西へ約3.2m、北西から南東へ約2.6mを測る。柱穴数は6基であり、柱穴平面形は円形である。

重複関係：11号溝跡より新しく、19号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：352・425・437号ピットから土器が微量出土している。

19号掘立柱建物跡（造構：図35・遺物：掲載なし）

位置：C-11・12グリッド～D-11・12グリッド

主軸方位：N-61°-E 柱穴：324・349・351・423・436・462号ピット

検出状況：建物平面形は長方形を呈し、建物規模は北東から南西へ約3.0m、北西から南東へ約3.5mを測る。柱穴数は6基であり、柱穴平面形は円形である。なお、本造構南西に位置する20号掘立柱建物跡と縦列関係にあることから、配置的にみれば同時期と考えられる。

重複関係：8号竪穴建物跡、18号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：すべてのピットから土器が微量出土している。

20号掘立柱建物跡（造構：図35・遺物：掲載なし）

位置：B-12・13グリッド～C-12グリッド

主軸方位：N-60°-E 柱穴：526・571・592・595・609号ピット

検出状況：北東隅部は調査区西壁外へ展開し、円形の柱穴を5基検出している。建物平面形は長方形を呈し、建物規模は北東から南西へ約4.6m、北西から南東へ約3.6mを測る。19号掘立柱建物跡と近似した軸線で縦列する。

重複関係：21号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：526・592・609号ピットから土器が微量出土している。

21号掘立柱建物跡（遺構：図35・遺物：掲載なし）

位 置：B-12グリッド～C-12グリッド

主軸方位：N-78°-E 柱穴：527・572・575・577号ピット

検出状況：建物平面形は正方形を呈し、建物規模は一辺約2.2mを測る。柱穴数は4基であり、柱穴平面形は円形である。

重複関係：20号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：すべてのピットから土器が微量出土している。572号ピットからS字甕が出土している。

22号掘立柱建物跡（遺構：図36・遺物：掲載なし）

位 置：E-14・15グリッド～F-14・15グリッド

主軸方位：N-65°-E 柱穴：479・484・503・511号ピット

検出状況：調査区南東隅で確認された建物跡で4基の柱穴が検出されているが、南側柱穴列は中央に位置する511号柱穴以外は調査区外に展開すると考えられる。建物平面形は長方形を呈し、建物規模は、北東から南西へ約5.6m、北西から南東へ約3.4mを測る。全般的に削平を受けているが、確認面での柱穴規模は0.7～0.8mとやや大きく、柱穴平面形は円形及び方形である。

重複関係：12号溝跡、11・15・20号竪穴建物跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：484・511号ピットから土器が微量出土している。

（4）柱穴列

調査区壁際付近に位置する柱穴列には、柱穴規模や規則性から判断し、掘立柱建物跡の可能性が高いものも存在するが、対になる柱穴列を確認した訳ではないために客観的にみて柱穴列とした。

1号柱穴列（遺構：図36・遺物：掲載なし）

位 置：G-6・7グリッド

主軸方位：N-30°-W 柱穴：31・32・240号ピット

検出状況：3基の柱穴で構成され、長さは約3.6mを測る。1号竪穴建物跡に関連する柱穴列とも考えられたが、位置的にやや不自然であるため別遺構と判断した。なお、北側に存在する柱穴群には規模の類似するものもあり、建物となる可能性もある。

重複関係：7・8号溝跡、1号竪穴建物跡より新しい。1・2号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：32・240号柱穴から土器が微量出土している。

2号柱穴列（遺構：図36・遺物：掲載なし）

位 置：D-7グリッド

主軸方位：N-20°-W 柱穴：108・126・130号ピット

検出状況：3基の柱穴で構成され、長さは約4.0mを測る。柱穴規模は長軸約0.7m、柱穴平面形は隅丸方形である。柱穴の規模からみると調査区西側に同規模の柱穴列が存在する可能性は高く、掘立柱建物跡となるものと考えられる。

重複関係：5号柱穴列との新旧関係は不明である。

出土遺物：すべてのピットから土器が微量出土している。128号ピットからはS字甕が出土している。

3号柱穴列（造構：図36・遺物：掲載なし）

位置：C-8・9グリッド～D-8グリッド

主軸方位：N-25°-E 柱穴：210・248・328号ピット

検出状況：3基の柱穴で構成され、長さは約4.4m、柱穴平面形は円形である。規模は小さいが、壁面から底部付近にかけて小礫が充填されていたことから、柱を支える補強材として詰め込まれたものと考えられ、この柱穴列も掘立柱建物跡となる可能性がある。

新旧関係：2号周溝付平地建物跡、4号竪穴建物跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：210・248号ピットから土器が微量出土している。210号ピットからはS字甕が出土している。

4号柱穴列（造構：図36・遺物：掲載なし）

位置：D-6～E-6グリッド

主軸方位：N-70°-E 柱穴：57・81・102号ピット

検出状況：3基の柱穴で構成され、長さは約3.8m、柱穴平面形は梢円形である。

重複関係：3号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：57・81号ピットから土器が微量出土している。

5号柱穴列（造構：図36・遺物：掲載なし）

位置：D-7～E-7グリッド

主軸方位：N-75°-E 柱穴：101・115・129・144号ピット

検出状況：4基の柱穴で構成されるが、101号ピットについては他の柱穴より深度が浅く、同一の造構ではない可能性もあるが、ここでは一括して提示しておく。長さは約5.5m、柱穴平面形は円形及び梢円形である。

重複関係：7号掘立柱建物跡より新しい。

出土遺物：101・115・129号ピットから土器が微量出土している。

6号柱穴列（造構：図36・遺物：掲載なし）

位置：G-9・10グリッド

主軸方位：N-23°-W 柱穴：441・566・569号ピット

検出状況：3基の柱穴で構成され、長さは約3.7m、柱穴平面形は円形及び梢円形である。

重複関係：6号竪穴建物跡より古い。

出土遺物：441・569号ピットから土器が微量出土している。

7号柱穴列（造構：図36・遺物：なし）

位置：F-11グリッド～G-10グリッド

主軸方位：N-73°-E 柱穴：289・291・581号ピット

検出状況：3基の柱穴で構成され、長さは約2.8m、柱穴平面形は円形である。重複関係：6号竪穴建物跡より古く、1号周溝付平地建物跡より新しい。13号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：なし。

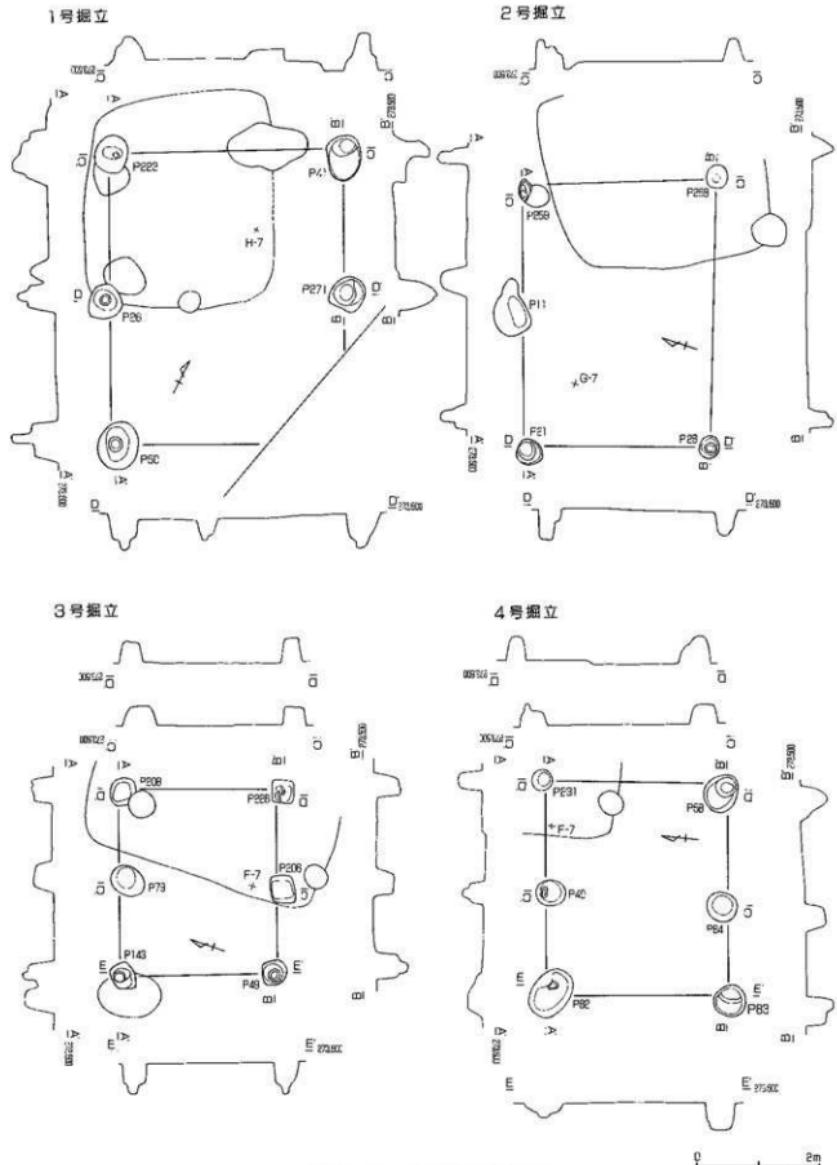


図31 1～4号掘立柱建物跡

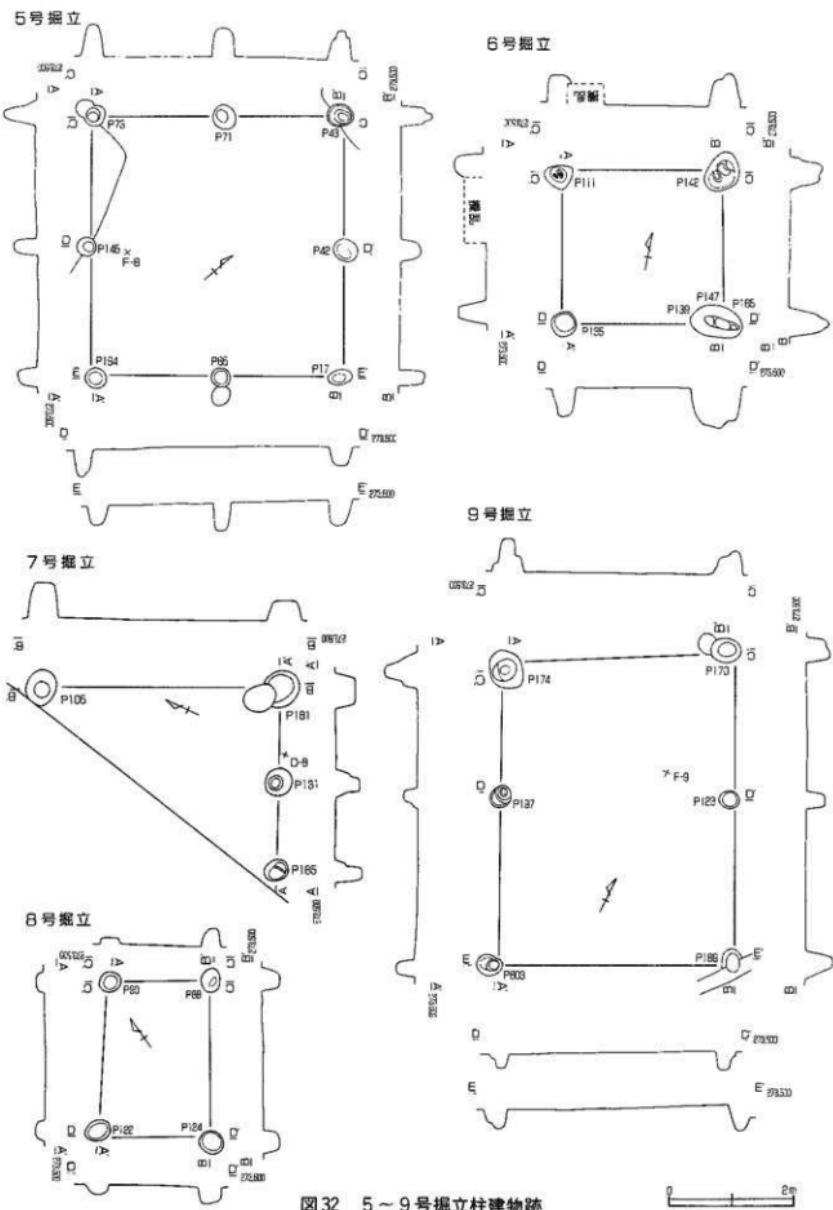


図32 5～9号掘立柱建物跡

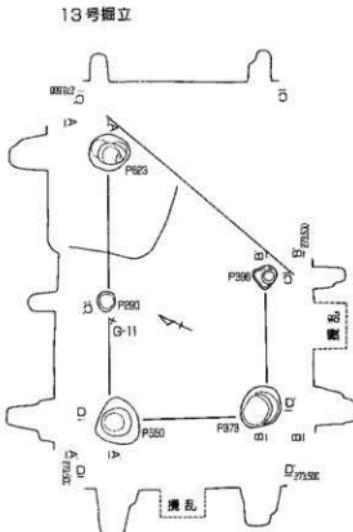
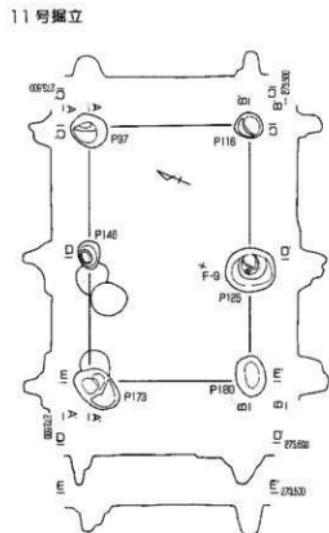
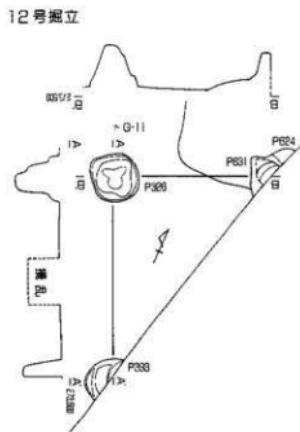
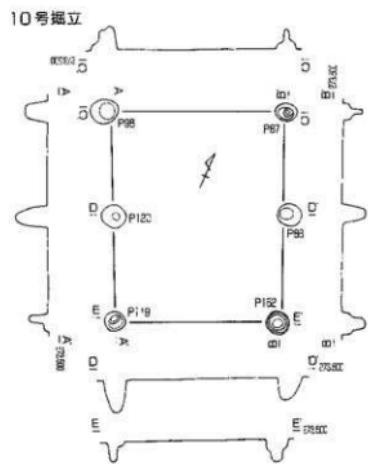
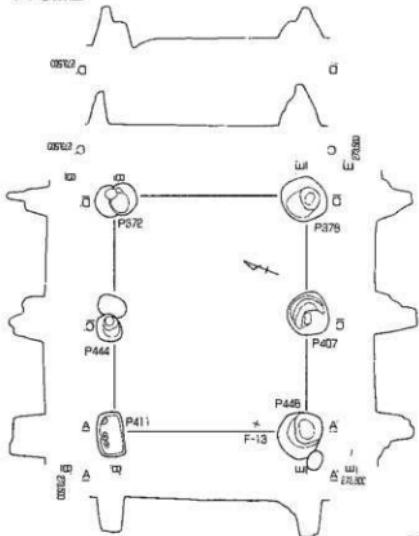


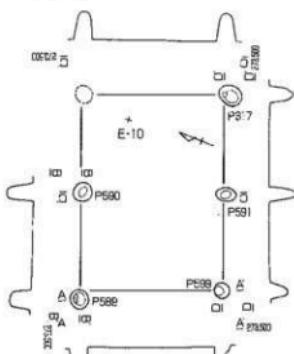
图33 10~13号掘立柱建物跡

0 1 2m

14号掘立



15号掘立



17号掘立



16号掘立

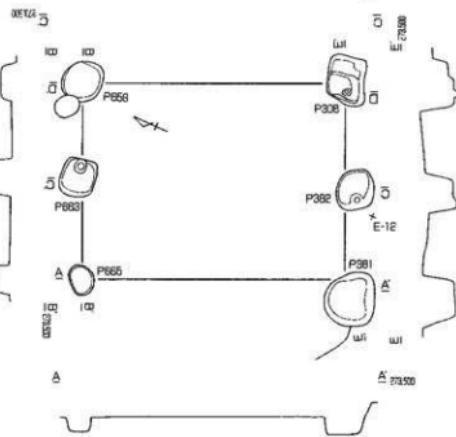
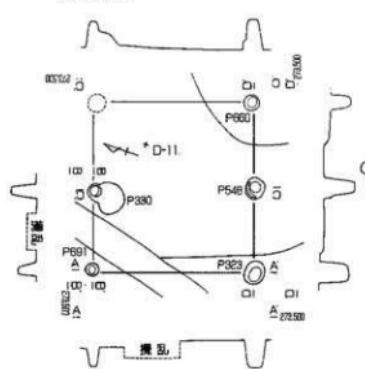


図34 14～17号掘立柱建物跡



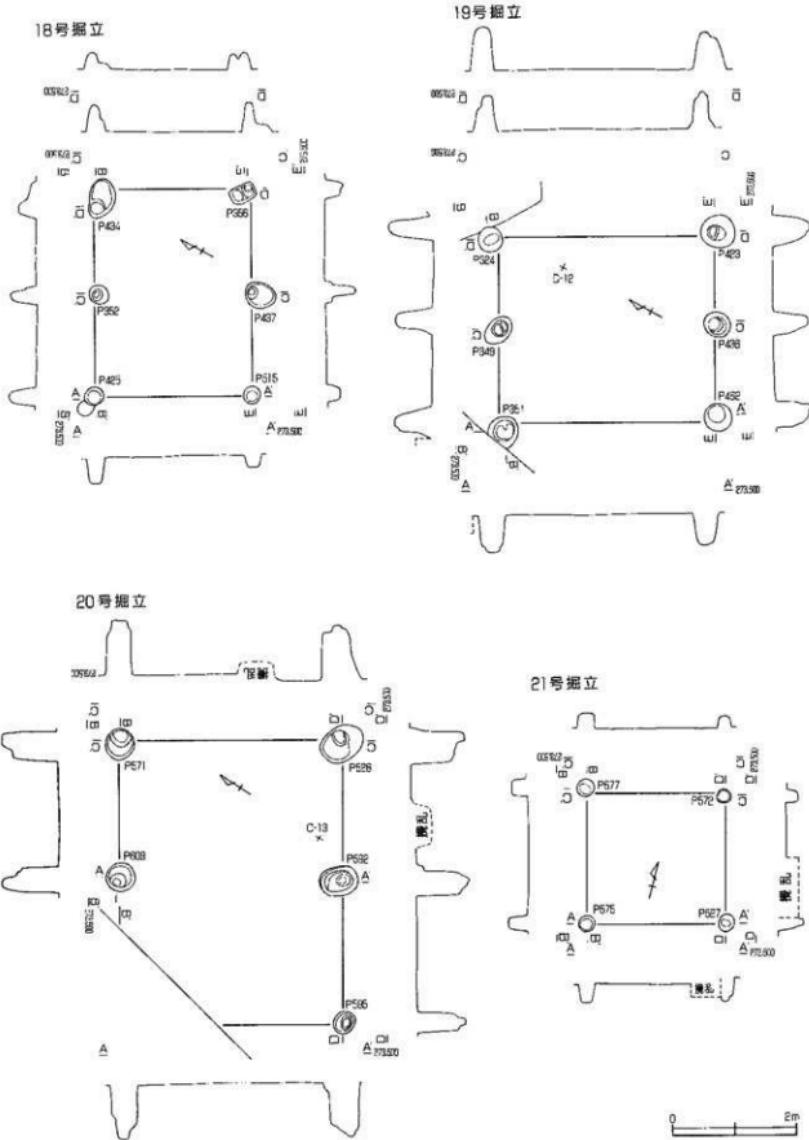


図35 18～21号据立柱建物跡

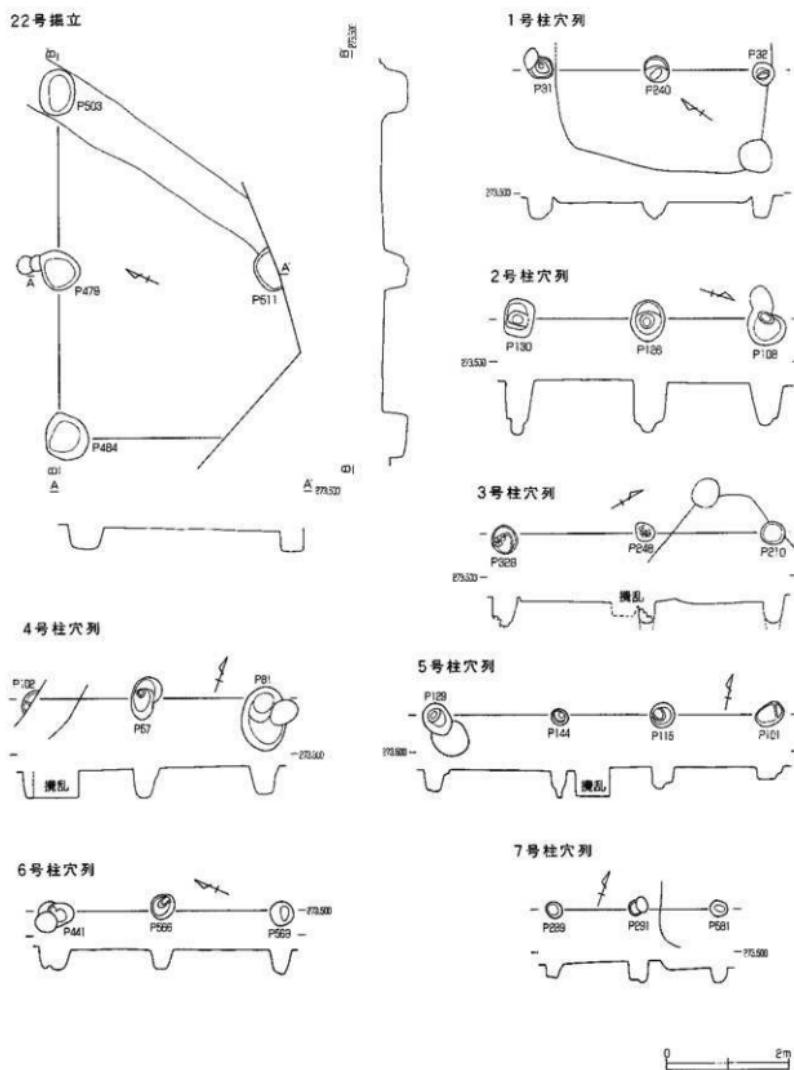


图36 22号掘立柱建物跡・1～7号柱穴列

第3節 方形周溝墓

本地区では、調査区北側において2基の方形周溝墓が検出された。位置的に県立甲府工業高校地区一帯の方形周溝墓群の延長線上に位置づけられることから、付近に展開する墓域の南限に位置づけられる。

1号方形周溝墓（造構：図37・遺物：図50）

位 置：D-2～4グリッド及びE-2～4グリッド、F-2～4グリッド付近

主軸方位：N-45°-W

検出状況：調査区北西隅付近で検出されているが、周溝の大部分は調査区外に展開している。

全体に削平されているため、すでに主体部は失われているものと考えられ、周溝のみの検出である。全体規模は不明であるが、推定で全長約15m規模になるものと考えられる。土層の状況では下層に黒色土の堆積があり、しばらく開口したまま自然堆積したと考えられるが、中層でシルト質の黄褐色土が全面に堆積する。この堆積状況は、平成8年度に調査を実施した愛宕町下条線道路改良工事に伴う発掘調査で検出された方形周溝墓の中に同じ埋没過程を辿るものが存在するため、やはり同一集団がある時期に構築した墓であることが窺われる。

重複関係：1号溝跡より古い。

出土遺物：掲載遺物は246～249である。

2号方形周溝墓（造構：図37・遺物：図50）

位 置：F-5グリッド～G-5グリッド付近

主軸方位：N-60°-E（推定）

検出状況：調査区北壁外に主体部は展開していると考えられ、検出されたのは周溝の一部分のみであった。全体規模は不明であるが、削平により周溝深度も浅かった。

重複関係：1・2号溝跡より古い。

出土遺物：掲載遺物は250のみであるが、出土状況は漬れた状態であった。

第4節 土壙

1号土壙（造構：図38・遺物：なし）

位 置：G-6グリッド

検出状況：造構平面形は不整楕円形で、規模は長軸約1.4m、短軸約0.7mである。

重複関係：1号竪穴建物跡より古い。

出土遺物：なし

2号土壙（造構：図38・遺物：掲載なし）

位 置：C-10グリッド

検出状況：造構平面形は長方形で、規模は長軸約1.0m、短軸約0.9mである。覆土全体に炭化物と焼上が混入していた。

重複関係：14号竪穴建物跡より新しい。3号周溝付平地建物跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：土器が少量出土している。

3号土壙（造構：図38・遺物：図51）

位 置：D-9グリッド

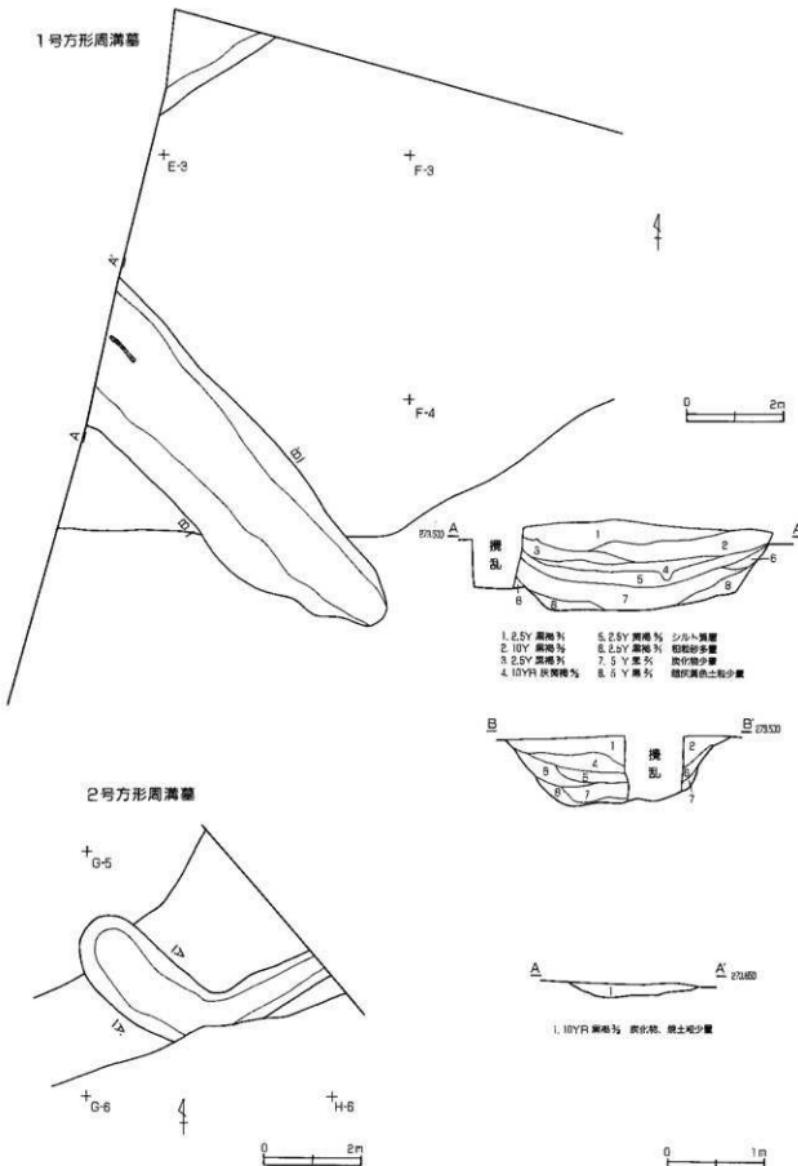


图37 1~2号方形周溝墓

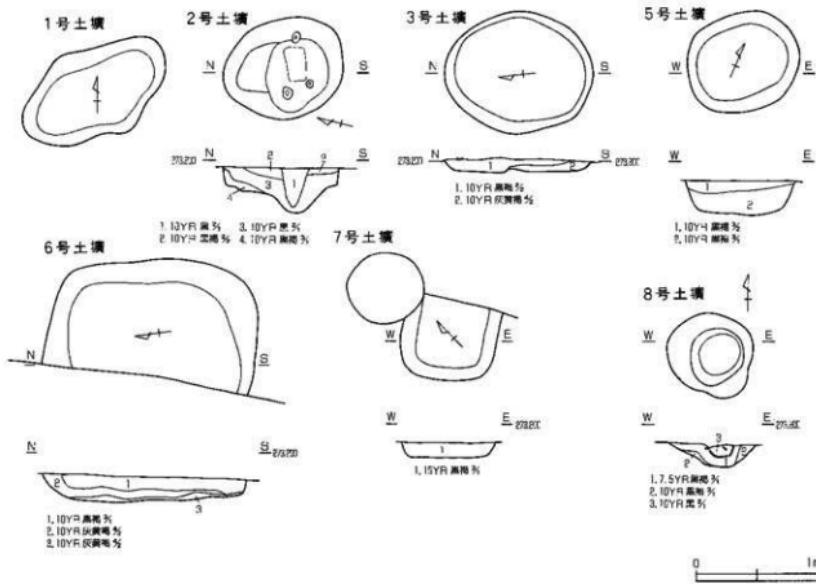


図38 1～3号、5～8号土壤

検出状況：遺構平面形は不整楕円形で、規模は長軸約1.3m、短軸約1.0mである。確認段階で遺構上面に土器小片や炭化物が散乱した状態で出土した。

重複関係：662・697号ピットより新しい。2号周溝付平地建物跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：掲載遺物は251である。他には生焼けのような土器小片が少量出土している。

4号土壤（遺構：図14・遺物：掲載なし）

位置：F-11グリッド

検出状況：7号竪穴建物跡と共に伴する土壤と考えられ、遺構平面形は円形で、規模は長軸約0.9m、短軸約0.8mである。貯蔵穴のような性格の遺構と考えられる。

重複関係：651号ピットより新しい。

出土遺物：土器が少量出土している。

5号土壤（遺構：図38・遺物：図51）

位置：E-12グリッド

検出状況：当初は9号竪穴建物跡と共に伴する遺構かと考えられたが、検出状況と出土遺物からみて、重複関係にある遺構と判断した。遺構平面形は円形で、規模は長軸約0.9m、短軸約0.8mである。

重複関係：9号竪穴建物跡より古い。

出土遺物：掲載遺物は252である。

6号土壙（造構：図38・遺物：なし）

位 置：B-13及びC-13グリッド

検出状況：擾乱によって西側が失われているが、造構平面形は隅丸長方形で、規模は長軸約1.8m、短軸約1.1mである。

重複関係：539号ピットより新しい。

出土遺物：なし。

7号土壙（造構：図38・遺物：なし）

位 置：D-11グリッド

検出状況：8・16号竪穴建物跡によって北東側が切られているが、造構平面形は方形と考えられ、規模は一辺約0.7mである。

重複関係：8・16号竪穴建物跡より古い。

出土遺物：なし。

8号土壙（造構：図38・遺物：図51）

位 置：F-14グリッド

検出状況：造構平面形は円形で、規模は長軸約0.8m、短軸約0.7mである。

重複関係：15号竪穴建物跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：掲載遺物は253～256である。その他S字甕片など少量の土器が出土している。

第5節 造構外出土遺物ほか

G-6・7グリッド及びH-7グリッド付近から土器が集中的に出土している。掲載したものの中で、272・273はS字甕A類に分類されるもので、S字甕初現期の遺物である。また、281～284はH-7グリッドで出土した高环であるが、281・283は环部分が潰れたような形で出土している。付近からは図示できなかったものも含め最低でも5～6個体の高环が確認されている。H-7グリッド遺物の中で1点のみ9号竪穴建物跡出土の158と接合したものが存在する。また、277～279はG-10グリッド出土であるが、6号竪穴建物跡に帰属する遺物の可能性が高い。図化できないほど小片であったが、E-7からは須恵器小片がまとまっていた。

試掘調査段階で注目すべき遺物を2点掲載している。290はトレンチ5から出土した瓦塔である。沼地層からの一括出土であるため、周辺部からの流れ込みの可能性が高いが、摩耗も少ないことから比較的近距離に存在したものと考えられる。本調査区の集落時期には伴わない遺物と考えられるが、付近に寺院関連の施設が存在した可能性が想定される。291はトレンチ6から出土した須恵器甕で、やはり6世紀前後の須恵器であると考えられる。

出土遺物観察表

単位: cm ()は反映実測による復元値

図版番号	番号	出土位置・遺構	器種	法 量			色 調	焼成	備 考
				口径	器高	底径			
39	1	1号溝跡・下層	碗	(12.8)	(4.7)	-	7.5YR 鈍い黄橙 7/4	良	
39	2	1号溝跡・下層	碗	11.6	5.5	-	10YR 鈍い黄橙 6/4	良	
39	3	1号溝跡・下層	碗	(14.2)	(5.6)	-	10YR 鈍い黄褐 5/3	良	摩耗している
39	4	1号溝跡・下層	碗	(15.1)	(5.2)	4.6	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	内外面赤彩?
39	5	1号溝跡・下層	壺	13.1	5.2	5.0	10YR 鈍い黄橙 7/3	良	
39	6	1号溝跡・下層	壺	13.6	5.7	-	7.5YR 鈍い橙 7/3	良	
39	7	1号溝跡・下層	壺	13.8	7.1	5.3	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	
39	8	1号溝跡・下層	碗	(16.3)	6.5	-	10YR 灰黄褐 6/2	良	摩耗している
39	9	1号溝跡・下層	高环	(16.2)	-	-	10YR 鈍い黄橙 7/4	良	
39	10	1号溝跡・下層	高环	17.8	(7.1)	-	7.5YR 灰褐 6/2	良	二次被熱
39	11	1号溝跡・下層	高环	(19.4)	-	-	2.5YR 橙 6/6	良	
39	12	1号溝跡・下層	高环	16.6	-	-	10YR 鈍い黄橙 7/3	良	
39	13	1号溝跡・下層	高环	15.5	10.1	11.0	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	
39	14	1号溝跡・下層	高环	15.6	8.1	9.8	2.5YR 明赤褐 5/6	良	
39	15	1号溝跡・下層	高环	18.3	-	-	5YR 橙 6/6	良	摩耗している
39	16	1号溝跡・下層	高环	(24.0)	-	-	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	摩耗している
39	17	1号溝跡・下層	高环	18.7	13.7	13.9	2.5YR 橙 6/6	良	摩耗している
39	18	1号溝跡・下層	高环	-	-	(11.6)	7.5YR 鈍い褐 5/4	良	
39	19	1号溝跡・下層	高环	-	-	10.3	5YR 明赤褐 5/6	良	
39	20	1号溝跡・下層	高环	-	-	11.2	10YR 灰黄灰 6/2	良	
39	21	1号溝跡・下層	高环	(20.2)	-	-	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	
39	22	1号溝跡・下層	壺	9.8	-	-	10YR 鈍い黄橙 7/3	良	輪積み痕あり
39	23	1号溝跡・下層	壺	8.4	11.5	3.0	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	
39	24	1号溝跡・下層	壺	7.6	7.9	-	10YR 鈍い黄橙 7/3	良	
39	25	1号溝跡・下層	壺	(6.8)	9.1	3.2	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	
39	26	1号溝跡・下層	壺	(9.5)	10.4	3.4	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	輪積み痕あり
40	27	1号溝跡・下層	壺か小壺	-	-	-	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	輪積み痕あり
40	28	1号溝跡・下層	壺	-	-	(3.8)	7.5YR 橙 6/6	良	
40	29	1号溝跡・下層	壺	-	(7.8)	-	5YR 橙 7/6	良	
40	30	1号溝跡・下層	S字甕	-	(7.8)	(9.9)	10YR 鈍い黄橙 7/3	良	
40	31	1号溝跡・下層	S字甕	-	(6.5)	(9.2)	10YR 鈍い黄褐 7/2	良	
40	32	1号溝跡・下層	S字甕	(11.4)	(3.8)	-	10YR 鈍い黄橙 7/3	良	
40	33	1号溝跡・下層	S字甕	(12.6)	(4.5)	-	7.5YR 鈍い褐 7/4	良	
40	34	1号溝跡・下層	甕	(16.8)	(9.5)	-	7.5YR 鈍い褐 5/3他	良	
40	35	1号溝跡・下層	甕か壺	15.6	(7.7)	-	7.5YR 鈍い褐 6/3	良	ハケが不鮮明
40	36	1号溝跡・下層	折返口縁甕	(21.6)	(7.8)	-	10YR 灰黄褐 6/2	良	
40	37	1号溝跡・下層	甕か壺	(16.0)	(5.5)	-	7.5YR 鈍い褐 5/3	良	
40	38	1号溝跡・下層	壺	(15.0)	(10.4)	-	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	
40	39	1号溝跡・下層	壺	13.8	-	-	2.5YR 橙 6/6	良	摩耗・剥離あり
40	40	1号溝跡・下層	甕	16.2	-	-	10YR 鈍い黄橙 7/3	良	
40	41	1号溝跡・下層	壺	(14.8)	(13.8)	-	7.5YR 鈍い橙 6/4他	良	
40	42	1号溝跡・下層	壺	-	(13.0)	(6.6)	10YR 鈍い黄褐 7/2	良	
40	43	1号溝跡・下層	甕	(19.3)	(28.7)	8.1	10YR 鈍い黄橙 7/3	良	
40	44	1号溝跡・下層	甕	(13.5)	23.5	5.5	10YR 鈍い黄橙 6/4	良	外面にスス付着
41	45	1号溝跡・下層	甕	-	-	-	7.5YR 鈍い褐 5/3	良	
41	46	1号溝跡・下層	甕	(23.0)	(33.1)	-	10YR 鈍い黄橙 7/4	良	
41	47	1号溝跡・下層	甕	19.0	-	-	10YR 鈍い黄橙 7/3	良	外面にスス付着
41	48	1号溝跡・下層	甕	-	-	-	2.5Y 浅灰 7/3	良	
41	49	1号溝跡・下層	甕	-	-	-	5B 青灰 6/1	良	須恵器
41	50	1号溝跡・最下層	高环	-	(12.2)	16.2	5YR 橙 6/6	良	
41	51	1号溝跡・最下層	S字甕	14.0	-	-	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	
41	52	1号溝跡・最下層	S字甕	(14.2)	(5.2)	-	10YR 灰白 8/2	良	
41	53	1号溝跡・最下層	甕	(18.7)	(5.0)	-	5YR 橙 7/6	良	
41	54	1号溝跡	高环	-	-	11.4	10YR 鈍い黄橙 7/4	良	赤彩あり
41	55	1号溝跡	壺	-	-	-	10YR 灰黄褐 6/2	良	
41	56	1号溝跡	壺か小壺	9.6	10.1	5.0	10YR 鈍い黄橙 7/2	良	
41	57	1号溝跡	壺	(7.8)	8.7	-	10YR 鈍い黄橙 6/3	良	
42	58	1号溝跡・下層	-	-	-	-			木製品
42	59	1号溝跡・下層	-	-	-	-			木製品
42	60	1号溝跡・下層	刀形	-	-	-			木製品

出土遺物観察表

単位: cm ()は反転測定による復元値

団版 番号	番号	出土位置・遺構	器種	法 量			色 調	焼成	備 考
				口径	器高	底径			
42	61	1号溝跡・下層	柄	—	—	—	YR 橙 7/8	良	木製品
42	62	1号溝跡・下層	板材	—	—	—	5YR 橙 6/6	良	木製品
42	63	1号溝跡・下層	板材	—	—	—	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	木製品
42	64	1号溝跡・下層	板材	—	—	—	5YR 橙 6/6	良	木製品
42	65	1号溝跡・下層	—	—	—	—	YR 橙 7/8	良	木製品
42	66	1号溝跡・下層	—	—	—	—	5YR 橙 6/6	良	木製品
42	67	1号溝跡・下層	—	—	—	—	5YR 橙 6/6	良	木製品
42	68	1号溝跡・下層	—	—	—	—	5YR 橙 6/6	良	木製品
42	69	1号溝跡・下層	板材	—	—	—	5YR 橙 6/6	良	木製品
42	70	1号溝跡・下層	板材	—	—	—	5YR 橙 6/6	良	木製品
43	71	4号溝跡	甕	(14.2)	—	—	YR 橙 7/8	良	
43	72	4号溝跡	甕か壺	—	—	5.7	5YR 橙 6/6	良	
43	73	6号溝跡	甕	14.0	—	—	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	
43	74	12号溝跡	器台か	6.1	—	—	5YR 橙 7/6	良	
43	75	14号溝跡	器台	(22.6)	—	—	5YR 鈍い赤褐 5/4	良	北陸系
43	76	14号溝跡	折返口縁鉢	(17.0)	—	—	2.5YR 橙 6/6	良	
43	77	14号溝跡	壺	—	—	6.0	10YR 鈍い黄橙 7/3	良	
43	78	14号溝跡	二重口縁甕	17.0	—	—	7.5YR 鈍い鶴 6/3	良	畿内系
43	79	14号溝跡	台付甕	(16.4)	—	(9.4)	2.5YR 明赤褐 5/6	良	
43	80	3号堅穴建物	折返口縁甕	15.3	—	—	10YR 浅黄橙 8/3	良	
43	81	3号堅穴建物	高环	(18.2)	—	—	5YR 橙 6/6	良	摩耗している
43	82	3号堅穴建物	器台	—	—	(22.0)	5YR 橙 7/6	良	
43	83	5号堅穴建物	甕か	—	—	—	10YR 鈍い黄橙 7/2	良	繩文土器
43	84	5号堅穴建物	甕	(24.0)	—	—	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	
43	85	6号堅穴建物	甕	(14.2)	5.4	(5.7)	2.5YR 赤褐 4/6	良	摩耗している
43	86	6号堅穴建物	甕	(13.7)	6.4	3.8	7.5YR 鈍い橙 7/3	良	摩耗している
43	87	6号堅穴建物	甕	—	—	—	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	摩耗している
43	88	6号堅穴建物	甕か壺	—	—	4.3	5YR 橙 6/6	良	
43	89	6号堅穴建物	高环	(14.3)	8.9	9.5	5YR 橙 6/8	良	摩耗している
43	90	6号堅穴建物	甕	(20.9)	—	—	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	
43	91	6号堅穴建物	甕	23.8	—	—	5YR 赤褐 4/6	良	摩耗している
44	92	6号堅穴建物	甕	(18.2)	—	—	5YR 橙 6/6	不良	摩耗している
44	93	6号堅穴建物	甕	(18.0)	—	—	2.5YR 浅黄 7/3	良	
44	94	6号堅穴建物	甕	(16.2)	—	—	5YR 橙 6/6	良	輪積み痕あり
44	95	6号堅穴建物	甕	14.3	—	—	2.5YR 浅黄 8/3	良	
44	96	6号堅穴建物	甕	—	—	7.7	7.5YR 橙 7/6	良	
44	97	6号堅穴建物	甕か	—	—	—	10YR 浅黄橙 8/3	良	赤彩あり
44	98	6号堅穴建物	壺か	—	—	—	5YR 鈍い赤褐 5/4	良	
44	99	7号堅穴建物	碗	(14.0)	—	—	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	
44	100	7号堅穴建物	碗	(11.4)	4.9	—	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	
44	101	7号堅穴建物	碗	(12.0)	—	—	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	
44	102	7号堅穴建物	碗	(12.0)	—	—	5YR 橙 6/6	良	
44	103	7号堅穴建物	环	13.0	6.2	4.7	5YR 橙 6/6	良	
44	104	7号堅穴建物	环	12.8	5.75	6.0	7.5YR 鈍い橙 7/4	不良	焼けムラあり
44	105	7号堅穴建物	环	(13.4)	(4.75)	—	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	
44	106	7号堅穴建物	环	11.9	6.8	4.3	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	
44	107	7号堅穴建物	瓶	(16.6)	(9.0)	—	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	
44	108	7号堅穴建物	高环	(14.6)	(8.4)	11.1	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	二次被熱
44	109	7号堅穴建物	高环	14.7	10.2	10.5	10YR 浅黄橙 8/3	良	
44	110	7号堅穴建物	高环	16.3	10.9	10.9	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	
44	111	7号堅穴建物	高环	—	—	—	7.5YR 橙 7/6	良	
44	112	7号堅穴建物	高环	—	—	9.8	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	
45	113	7号堅穴建物	小壺	—	—	—	5YR 橙 6/6	良	
45	114	7号堅穴建物	鉢	—	—	4.9	2.5YR 明赤褐 5/6	良	
45	115	7号堅穴建物	小壺	(9.7)	(11.0)	(6.4)	5YR 鈍い橙 6/4	良	底部割れ・二次被熱
45	116	7号堅穴建物	甕か	(15.7)	(3.3)	—	5YR 橙 7/6	良	二次被熱
45	117	7号堅穴建物	甕	(15.9)	(5.2)	—	5YR 橙 6/6	良	
45	118	7号堅穴建物	甕か	(17.0)	—	—	10YR 浅黄橙 8/4	良	二次被熱
45	119	7号堅穴建物	甕	(17.0)	—	—	5YR 鈍い赤褐 5/4	良	
45	120	7号堅穴建物	甕	(14.8)	—	—	7.5YR 橙 7/6	良	

出土遺物観察表

単位: cm ()は次欄実測による復元値

団版 番号	番号	出土位置・遺構	器種	法 量			色 調	焼成	備 考
				口径	器高	底径			
45	121	7号堅穴建物	甕	(17.0)	(9.2)	—	7.5YR 黄灰 4/1	良	ハケ口が不鮮明
45	122	7号堅穴建物	甕	(21.0)	(4.4)	—	5YR 橙 6/6	良	二次被熱により変形
45	123	7号堅穴建物	甕	(16.8)	(8.0)	—	2.5YR 鈍い赤褐 5/4	良	二次被熱
45	124	7号堅穴建物	甕	(17.5)	(10.8)	—	10YR 鈍い黄橙 7/3	良	二次被熱
45	125	7号堅穴建物	甕	(20.3)	—	—	10YR 浅黄橙 8/3	良	二次被熱
45	126	7号堅穴建物	甕	(19.0)	(15.0)	—	10YR 黄灰 6/1	良	二次被熱により変形
45	127	7号堅穴建物	甕	16.5	—	—	10YR 鈍い黄橙 7/3	良	二次被熱
45	128	7号堅穴建物	甕	(16.5)	—	—	7.5YR 浅黄橙 8/4	不良	焼けムラあり
45	129	7号堅穴建物	甕	(16.0)	(24.6)	6.6	7.5YR 橙 6/6	良	
45	130	7号堅穴建物	甕	11.0	16.5	5.0	7.5YR 鈍い橙 7/3	良	
45	131	7号堅穴建物	甕	19.0	37.8	7.8	10YR 灰白 8/2	良	輪積み底あり
46	132	7号堅穴建物	甕	—	(11.0)	(7.0)	5YR 橙 6/6	良	二次被熱により変形
46	133	7号堅穴建物	甕	—	(11.9)	(7.6)	5YR 橙 6/6	良	二次被熱により変形
46	134	7号堅穴建物	甕	—	(11.8)	—	5YR 橙 6/6	良	二次被熱により変形
46	135	7号堅穴建物	甕	—	—	(7.4)	5YR 橙 6/6	良	二次被熱により変形
46	136	7号堅穴建物	甕	—	(4.0)	(7.0)	2.5YR 明赤褐 5/6	良	
46	137	7号堅穴建物	小型甕か壺	—	—	3.8	5YR 橙 6/8	良	
46	138	7号堅穴建物	無蓋高环か	17.0	—	—	N 灰白 7/	良	須恵器
46	139	7号堅穴建物	甕	(32.0)	(58.5)	—	5YR 鈍い橙 6/4	良	須恵器
47	140	7号堅穴建物	砥石	—	—	—	—	—	
47	141	7号堅穴建物	編物用石錐	—	—	—	—	—	
47	142	7号堅穴建物	編物用石錐	—	—	—	—	—	
47	143	7号堅穴建物	編物用石錐	—	—	—	—	—	
47	144	7号堅穴建物	編物用石錐	—	—	—	—	—	
47	145	7号堅穴建物	編物用石錐	—	—	—	—	—	
47	146	7号堅穴建物	編物用石錐	—	—	—	—	—	
47	147	8号堅穴建物	甕	—	—	—	7.5YR 浅黄橙 8/3	良	
47	148	8号堅穴建物	S字甕	12.3	—	—	5YR 橙 6/6	良	
47	149	8号堅穴建物	器台	10.0	9.5	(13.4)	5YR 橙 7/6	良	摩耗・穿孔あり
47	150	8号堅穴建物	高环か	12.7	—	—	5YR 橙 6/6	良	
47	151	8号堅穴建物	小型甕か壺	—	—	5.0	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	内面にスス付着
47	152	8号堅穴建物	丸底鉢	(16.0)	—	—	7.5YR 橙 6/6	良	
47	153	9号堅穴建物	高环	(17.8)	—	—	7.5YR 鈍い橙 7/3	良	二次被熱
47	154	9号堅穴建物	小型土器	—	(4.2)	3.1	10YR 灰白 8/2	良	
47	155	9号堅穴建物	小型土器	—	(3.5)	3.6	10YR 灰白 8/2	良	
47	156	9号堅穴建物	鉢	(13.1)	(8.9)	(7.6)	10YR 鈍い黄橙 7/3	良	
47	157	9号堅穴建物	甕	(17.8)	(10.5)	—	10YR 浅黄橙 8/3	良	
47	158	9号堅穴建物	甕	(16.0)	—	(6.2)	5YR 鈍い橙 6/4	良	輪積み底あり
48	159	9号堅穴建物	甕	(19.2)	(30.0)	7.5	5YR 橙 6/6他	良	二次被熱
48	160	9号堅穴建物	甕	(18.8)	(25.8)	(9.6)	2.5YR 明赤褐 5/6	良	
48	161	9号堅穴建物	小型甕	(13.8)	(12.0)	—	2.5YR 浅黄 7/3	良	
48	162	9号堅穴建物	小型甕	—	—	(4.3)	10YR 鈍い黄橙 7/3	良	
48	163	9号堅穴建物	甕	15.8	—	—	7.5YR 浅黄橙 8/4	良	
48	164	10号堅穴建物	高环	(21.7)	—	—	7.5YR 鈍い橙 7/3	良	摩耗している
48	165	10号堅穴建物	高环	(22.7)	—	—	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	
48	166	10号堅穴建物	高环	(19.6)	—	—	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	摩耗している
48	167	10号堅穴建物	高环	(22.8)	—	—	10YR 鈍い黄橙 7/4	良	
48	168	10号堅穴建物	高环	14.5	—	—	10YR 鈍い黄橙 7/3	良	孔3箇所あり
48	169	10号堅穴建物	器台	9.0	8.0	(12.7)	2.5YR 浅黄 7/3	良	孔3箇所あり
48	170	10号堅穴建物	高环	—	—	(9.8)	10YR 鈍い黄橙 7/4	良	孔3箇所あり
48	171	10号堅穴建物	高环	—	—	14.0	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	
48	172	10号堅穴建物	小壺か	—	—	—	2.5YR 橙 6/6	良	
48	173	10号堅穴建物	S字甕	(11.0)	—	—	10YR 浅黄橙 8/3	良	
48	174	10号堅穴建物	S字甕	(16.2)	—	—	7.5YR 鈍い橙 7/3	良	
48	175	10号堅穴建物	小型上器	—	—	3.8	5YR 橙 6/6	良	内外面にスス付着
48	176	10号堅穴建物	甕	(19.8)	—	—	10YR 浅黄橙 8/4	良	
48	177	10号堅穴建物	S字甕	—	—	(9.8)	2.5YR 橙 6/6	良	
48	178	10号堅穴建物	甕か	(22.8)	—	—	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	
48	179	12号堅穴建物	高环	(13.8)	—	—	10YR 灰白 8/1	良	焼けムラあり
48	180	12号堅穴建物	甕か	(13.6)	—	—	5YR 橙 6/6	良	

出土遺物観察表

単位: cm ()は反射率測定による復元値

団版 番号	番号	出土位置・遺構	器種	法 量			色 調	焼成	備 考
				口径	器高	底径			
48	181	12号竪穴建物	小型甕	(13.8)	—	—	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	
48	182	12号竪穴建物	壺	—	—	(9.0)	5YR 橙 6/6	良	
48	183	12号竪穴建物	甕	(18.0)	—	—	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	
48	184	12号竪穴建物	壺	—	—	5.4	2.5YR 橙 6/8	良	焼けムラあり
48	185	12号竪穴建物	S字甕	(19.0)	—	—	5YR 橙 6/6他	良	
49	186	13号竪穴建物	环	12.8	4.4	4.2	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	
49	187	13号竪穴建物	高环	(11.8)	(6.9)	(7.8)	10YR 鈍い黄澄 7/3	良	
49	188	13号竪穴建物	高环	11.1	—	—	7.5YR 橙 7/6	良	二次被熱
49	189	13号竪穴建物	器台	4.4	—	—	7.5YR 橙 6/6	良	
49	190	13号竪穴建物	壺	11.4	—	—	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	加藤口縫
49	191	13号竪穴建物	高环	—	(6.5)	(9.6)	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	
49	192	13号竪穴建物	高环	—	—	—	10YR 浅黄橙 8/3	良	
49	193	13号竪穴建物	高环	13.3	—	—	7.5YR 鈍い橙 7/3	良	穿孔 5箇所
49	194	13号竪穴建物	器台	8.6	10.0	14.4	2.5YR 橙 6/8	良	
49	195	13号竪穴建物	鉢	—	—	3.7	7.5YR 明褐灰 7/2	良	
49	196	13号竪穴建物	鉢	(9.6)	(10.1)	5.0	5YR 明赤褐 5/6	良	
49	197	13号竪穴建物	鉢	(11.5)	(10.6)	3.0	10YR 鈍い黄澄 7/3	良	
49	198	13号竪穴建物	壺	—	(12.5)	(5.8)	7.5YR 明褐灰 7/2	良	
49	199	13号竪穴建物	S字甕	9.4	—	—	5YR 明茶褐 5/6	良	
49	200	13号竪穴建物	S字甕	(11.0)	—	—	10YR 灰白 8/2	良	
49	201	13号竪穴建物	S字甕	10.6	—	—	5YR 明赤褐 5/6	良	
49	202	13号竪穴建物	S字甕	(13.0)	—	—	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	
49	203	13号竪穴建物	S字甕	(15.1)	—	—	5YR 鈍い橙 6/4	良	
49	204	13号竪穴建物	S字甕	(15.0)	—	—	5YR 橙 6/6	良	
49	205	13号竪穴建物	S字甕	14.4	—	—	5YR 鈍い橙 7/4	良	
49	206	13号竪穴建物	S字甕	—	—	6.1	5YR 橙 6/6	良	
49	207	13号竪穴建物	S字甕	(13.0)	—	—	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	
49	208	13号竪穴建物	S字甕	19.2	(11.1)	—	7.5YR 浅黄橙 8/3	良	
49	209	13号竪穴建物	S字甕	—	—	9.7	2.5YR 橙 6/8	良	スス付着
49	210	13号竪穴建物	S字甕	—	—	(10.0)	10YR 浅黄褐 8/3	良	
49	211	13号竪穴建物	S字甕	—	—	—	7.5YR 浅黄橙 8/4	良	
49	212	13号竪穴建物	壺か	—	—	(11.5)	2.5YR 橙 6/8	良	摩耗している
49	213	13号竪穴建物	壺か	(16.7)	—	—	10YR 鈍い黄橙 7/4	良	黒変している
50	214	13号竪穴建物	壺	(16.0)	—	—	10YR 灰白 8/2	良	タール付着
50	215	13号竪穴建物	甕か	(16.6)	—	—	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	
50	216	14号竪穴建物	壺	—	(17.0)	6.5	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	
50	217	14号竪穴建物	环	(13.6)	—	—	5YR 橙 6/6	良	
50	218	14号竪穴建物	高环	(12.2)	—	—	5YR 橙 6/6	良	
50	219	14号竪穴建物	壺	(15.9)	—	—	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	
50	220	14号竪穴建物	高环	(22.0)	—	—	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	
50	221	14号竪穴建物	甕	(21.0)	—	—	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	
50	222	15号竪穴建物	壺	(11.8)	(17.6)	5.6	7.5YR 鈍い橙 7/3	良	焼けムラあり
50	223	15号竪穴建物	小型甕	10.7	11.0	3.9	5YR 橙 6/6	良	
50	224	15号竪穴建物	折返口縫壺	—	—	—	7.5YR 橙 7/6	良	
50	225	15号竪穴建物	甕か	—	—	7.0	5YR 橙 5/6	良	
50	226	15号竪穴建物	壺	20.8	—	—	5YR 橙 6/6	良	
50	227	15号竪穴建物	甕	—	—	7.3	10YR 鈍い黄澄 7/4	良	
50	228	15号竪穴建物	甕か	(10.2)	(2.4)	(7.0)	5YR 鈍い橙 6/3	良	
50	229	16号竪穴建物	纺錐車	5.7	1.5	0.6	10YR 鈍い黄澄 7/4	良	土製
50	230	16号竪穴建物	环	(13.0)	—	—	5YR 橙 6/6	良	S字系
50	231	16号竪穴建物	环	(9.0)	(4.6)	3.1	5YR 橙 6/6	良	S字系
50	232	16号竪穴建物	高环	(21.0)	—	—	5YR 橙 6/6	良	S字系
50	233	16号竪穴建物	高环	—	—	(15.0)	2.5YR 明赤褐 5/6	良	
50	234	16号竪穴建物	甕	(19.0)	—	—	5YR 鈍い赤褐 5/4	良	
50	235	16号竪穴建物	甕	(18.0)	—	—	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	
50	236	16号竪穴建物	甕	—	—	—	5YR 橙 6/6	良	
50	237	16号竪穴建物	甕か壺	(13.9)	—	—	5YR 鈍い赤褐 5/4	良	
50	238	16号竪穴建物	壺	—	—	(5.0)	2.5YR 明赤褐 5/6	良	
50	239	16号竪穴建物	把手	—	—	—	5YR 橙 6/6	良	
50	240	16号竪穴建物	S字甕	(15.0)	—	—	5YR 橙 6/6	良	

出土遺物観察表

単位: cm ()は反転実測による復元値

図版 番号	番号	出土位置・遺構	器種	法量			色調	焼成	備考
				口径	器高	底径			
50	241	16号竪穴建物	S字甕	(17.0)	—	—	7.5YR 浅黄橙 8/4	良	
50	242	16号竪穴建物	S字甕	(18.0)	—	—	5YR 橙 6/6	良	
51	243	17号竪穴建物	甕	(16.4)	—	—	5YR 赤褐 4/8	良	
51	244	20号竪穴建物	环	(12.4)	—	—	5YR 橙 6/6	良	
51	245	20号竪穴建物	甕か壺	16.4	—	—	5YR 橙 6/6	良	
51	246	1号方形周溝墓	高环				7.5YR 鈍い橙 6/4	良	
51	247	1号方形周溝墓	高环	—	—	(12.0)	5YR 鈍い橙 6/4	良	
51	248	1号方形周溝墓	堆	(9.2)	—	—	5YR 橙 6/6	良	
51	249	1号方形周溝墓	台付甕	—	—	(11.8)	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	
51	250	2号方形周溝墓	甕	(15.8)	—	—	7.5YR 橙 6/4	良	
51	251	3号土塗	甕	(17.0)	—	—	5YR 鈍い赤褐 5/4	良	
51	252	5号土塗	甕か	(10.6)	(2.4)	(7.2)	5YR 鈍い橙 6/3	良	
51	253	8号土塗	高环か	—	—	(13.2)	5YR 鈍い赤褐 5/4	良	
51	254	8号土塗	台付甕か	—	—	(5.8)	5YR 明赤褐 5/6	良	
51	255	8号土塗	S字甕	—	—	8.5	5YR 橙 6/6	良	
51	256	8号土塗	壺	—	—	7.0	7.5YR 鈍い橙 6/3	良	
51	257	24号ビット	甕	(43.0)	—	—	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	織文土器
51	258	662号ビット	甕	(9.1)	—	—	7.5YR 鈍い褐 5/3	良	
51	259	662号ビット	甕	(19.0)	—	—	5YR 橙 7/6	良	
51	260	607号ビット	甕	11.7			7.5YR 鈍い橙 6/4	良	
51	261	562号ビット	甕か	14.0	—	—	10YR 浅黄橙 8/4	良	
51	262	260号ビット	甕か	15.0	—	—	2.5YR 橙 6/6	良	
51	263	680号ビット	壺	18.3	—	—	10YR 鈍い黄橙 7/4	良	有段口縁
51	264	570号ビット	环か	15.0	—	—	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	
51	265	170号ビット	环か	—	—	4.2	5YR 赤褐 4/6	良	
51	266	591号ビット	小型土器	5.7		—	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	
52	267	D-9	壺	(9.9)	—	—	2.5YR 浅黄 7/3	良	
52	268	E-7	高环	(13.9)	—	—	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	
52	269	E-7	高环	(19.2)	—	—	5YR 橙 6/6	良	摩耗
52	270	E-7	壺	14.0	—	—	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	
52	271	E-11	小型土器	(4.6)	2.6	1.1	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	
52	272	G-5	S字甕	(14.0)	—	—	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	
52	273	G-6	S字甕	—	—	—	2.5YR 明赤褐 5/6	良	
52	274	G-6	小型土器	—	—	4.0	10YR 灰白 8/2	良	
52	275	G-7	不明	—	—	—	10YR 鈍い黄橙 7/4	良	織文土器
52	276	G-7	不明	—	—	—	10YR 浅黄橙 8/4	良	織文土器
52	277	G-10	甕	(20.0)	—	—	2.5Y 浅黄 7/4	良	
52	278	G-10	壺	(15.2)	—	—	5YR 橙 6/6	良	折返口縁
52	279	G-10	甕か	(15.3)	—	—	10YR 灰白 8/2	良	
52	280	H-7	环か	—	(4.4)	7.5YR 鈍い橙 6/4	良		
52	281	H-7	高环	19.3	—	—	5YR 橙 6/6	良	
52	282	H-7	高环	—	(26.0)	2.5Y 明赤褐 5/6	良		
52	283	H-7	高环	24.2	—	—	5YR 橙 6/6	良	
52	284	H-7	高环	(19.4)	—	—	10YR 鈍い黄橙 7/3	良	
52	285	H-7	小型土器	7.3	7.5	4.4	10YR 浅黄橙 8/3	良	
52	286	H-7	小壺	(9.8)	(12.5)	(4.8)	10YR 鈍い黄橙 7/3	良	
52	287	H-7	S字甕	—	(9.8)	7.5YR 鈍い橙 6/4他	良		
52	288	H-7	S字甕	—	(10.0)	10YR 浅黄橙 8/3	良		
52	289	H-7	S字甕	(16.8)	—	(9.8)	5YR 橙 6/6	良	
52	290	トレンチ5	瓦塔	6.6	6.8	3.2	N 灰白 7/	良	瓦質
52	291	トレンチ6	甕	(14.0)	—	—	N 灰白 7/ 他	良	須恵器

1号溝跡下層

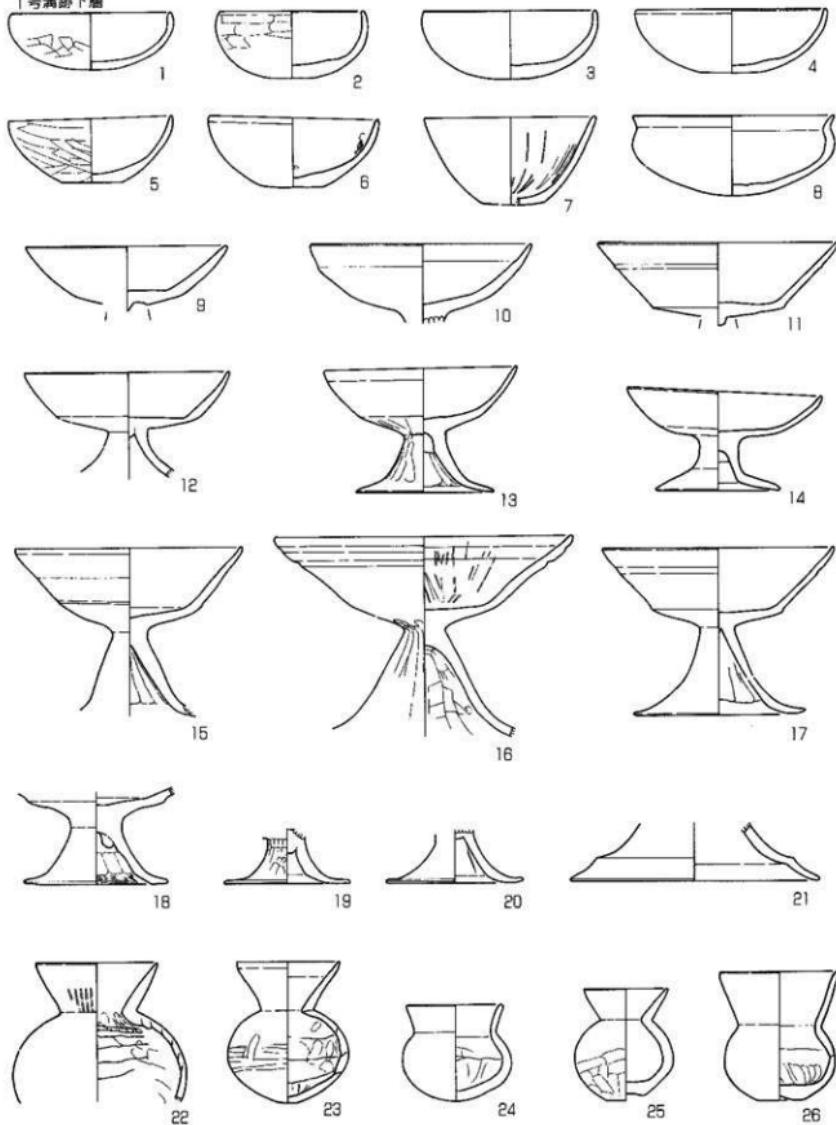


図39 1号溝跡出土遺物 (1)



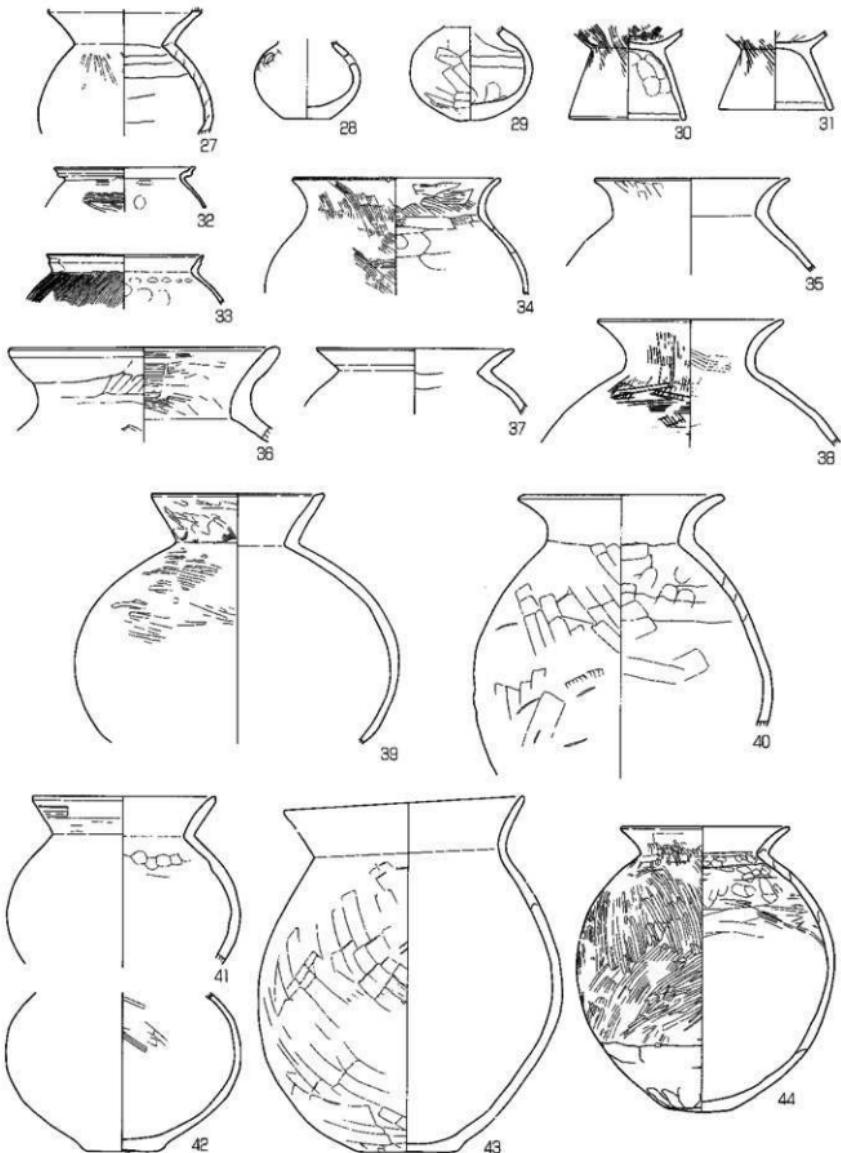
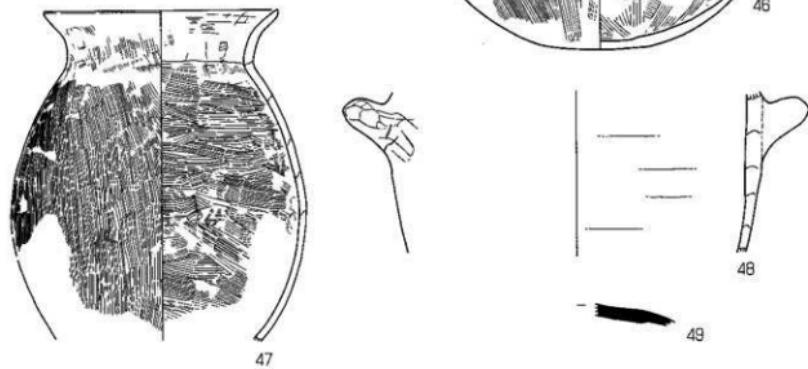
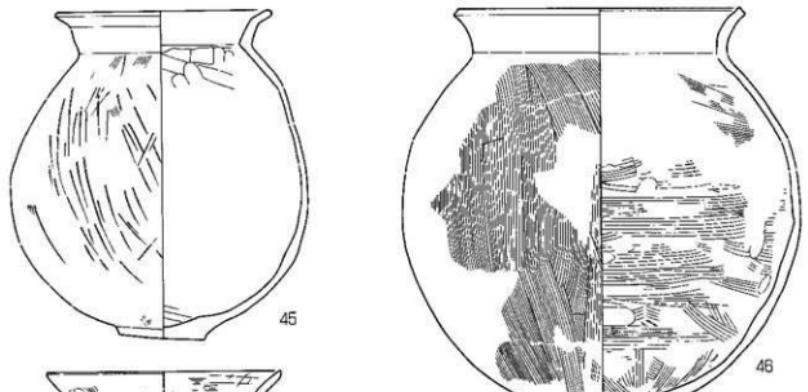
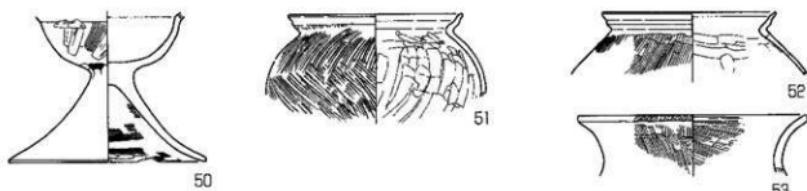


図40 1号溝跡出土遺物（2）

0 10cm



1号满跡最下層



1号満跡一括

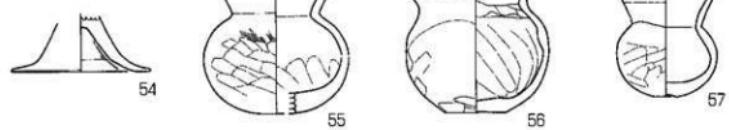
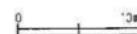


图 41 1号満跡出土遺物 (3)



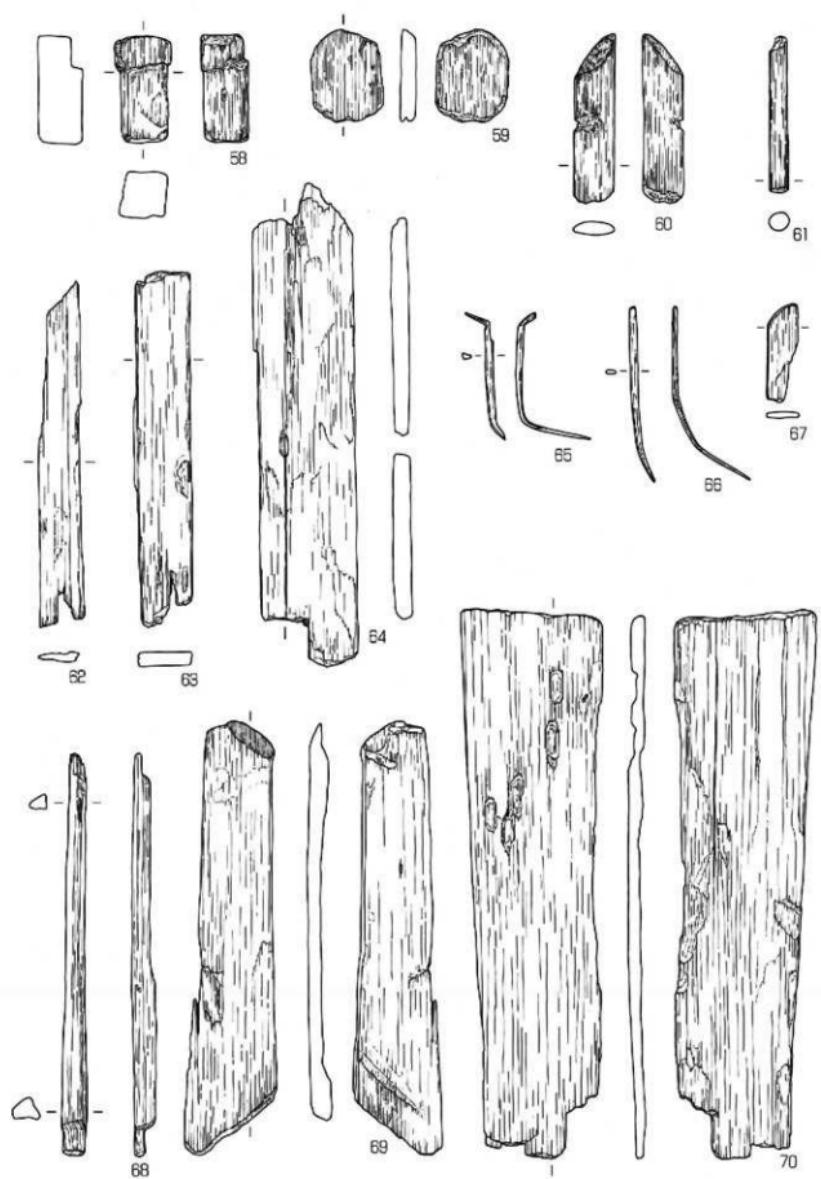


図 42 1号溝跡出土遺物 (4)



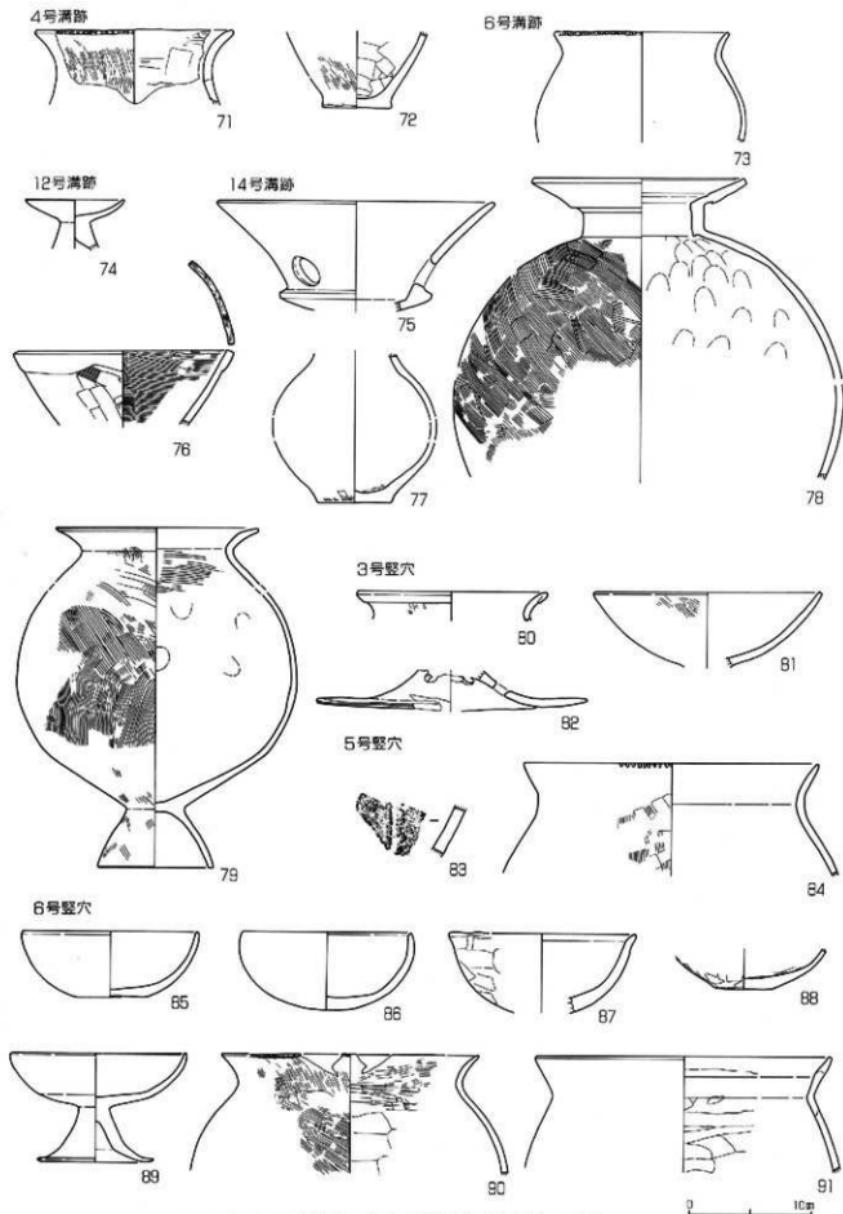


图43 4·6·12·14号溝跡、3·5~6号竪穴建物跡出土遺物

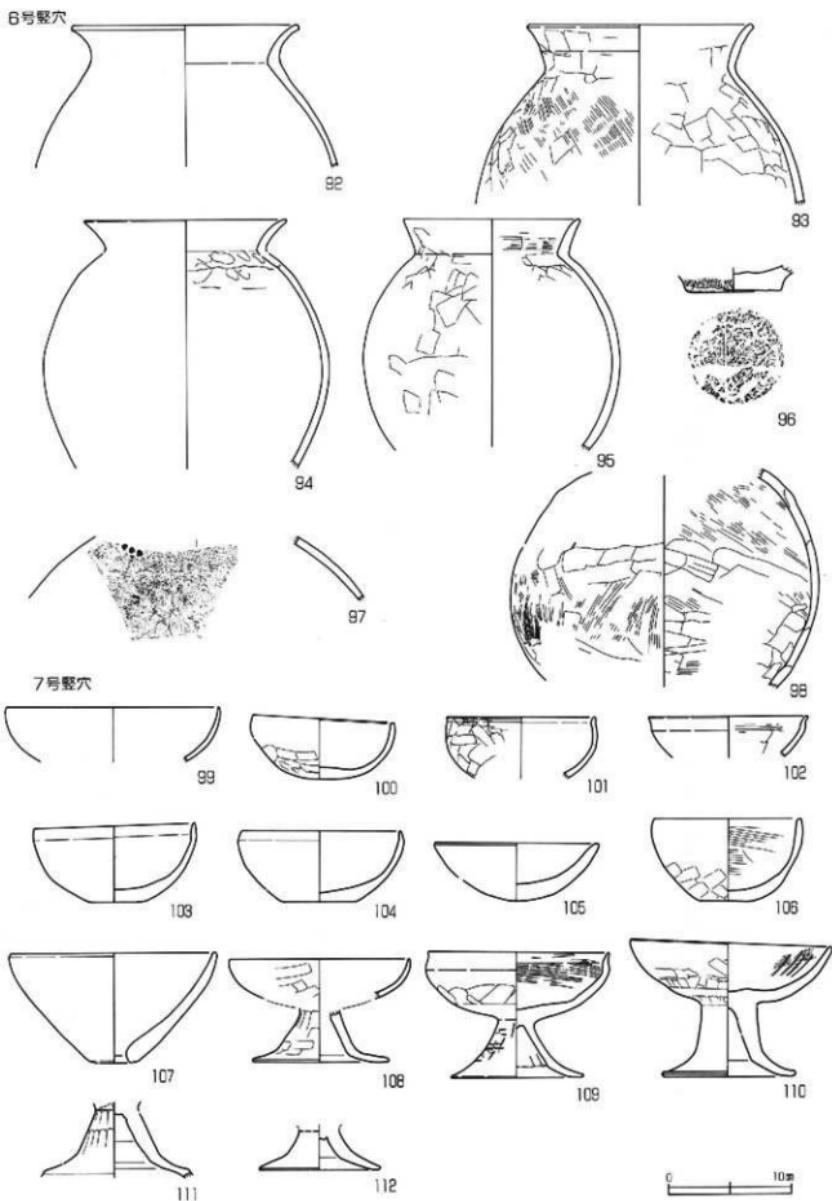


図44 6~7号竪穴建物跡出土遺物

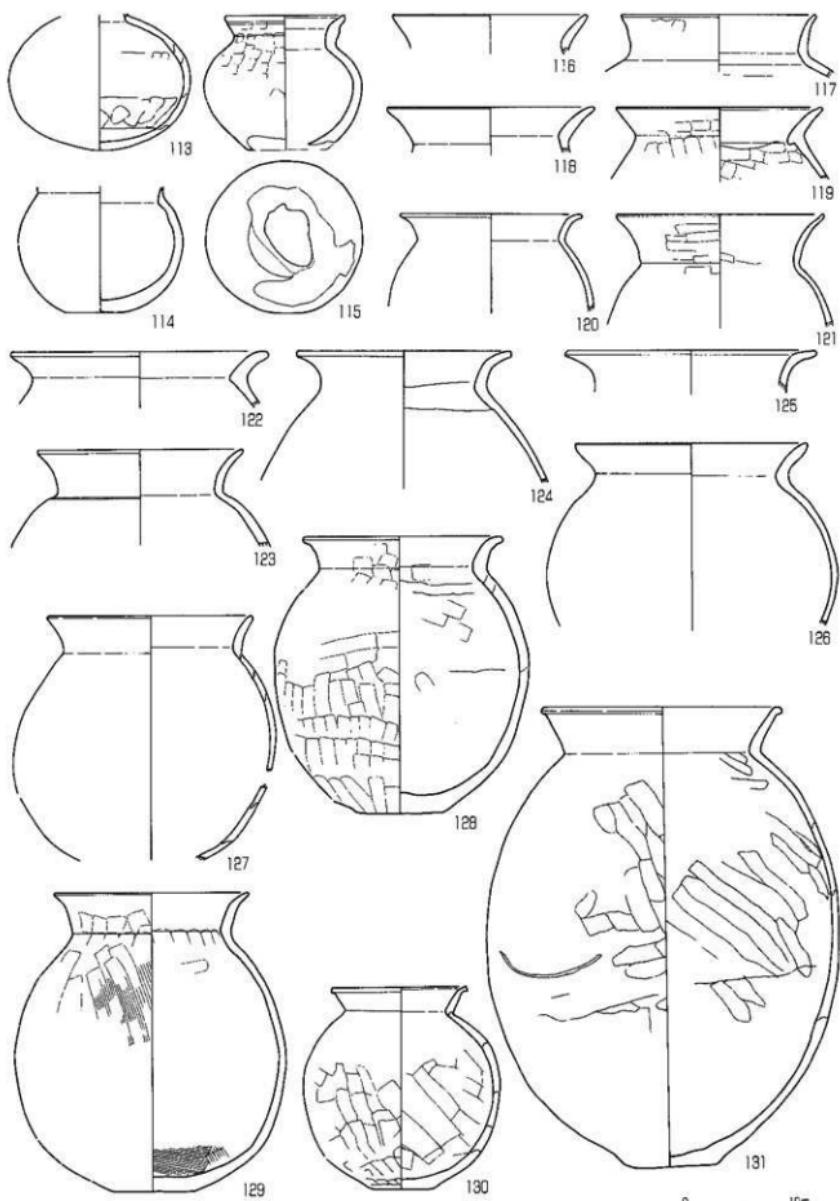


図 45 7号竪穴建物跡出土遺物 (2)

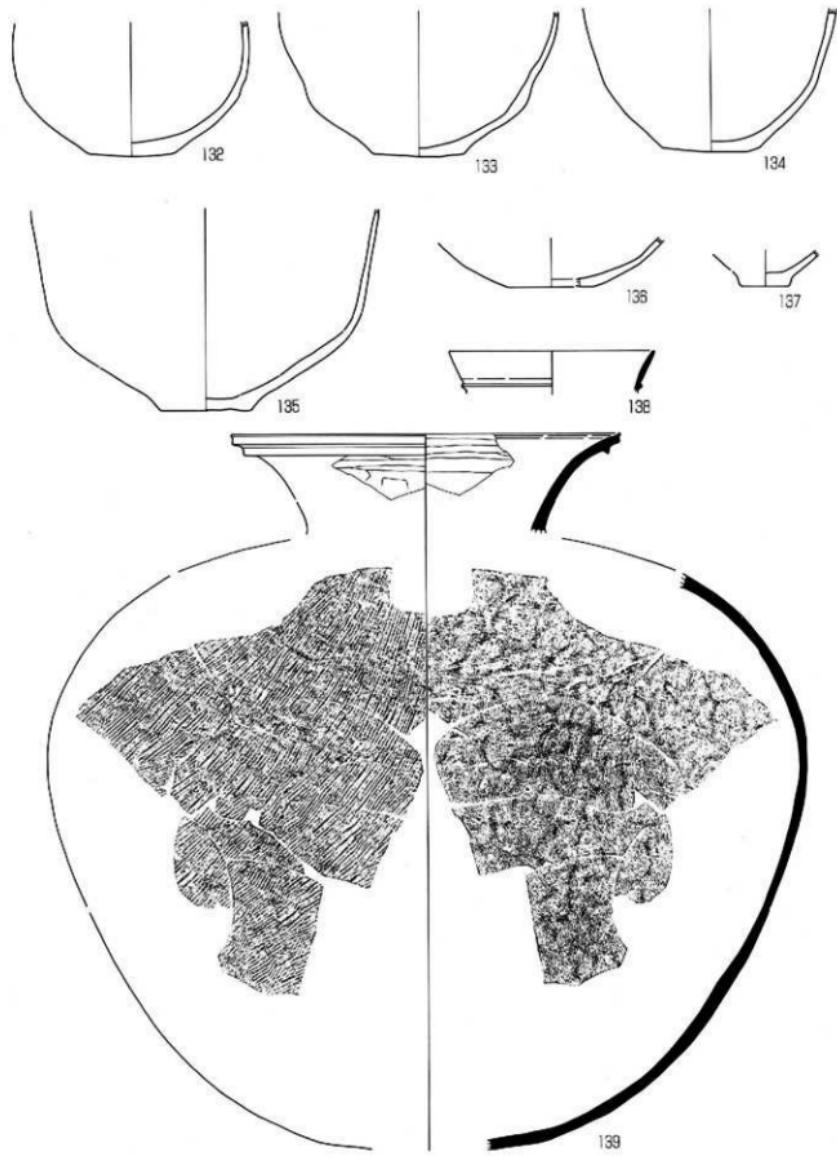
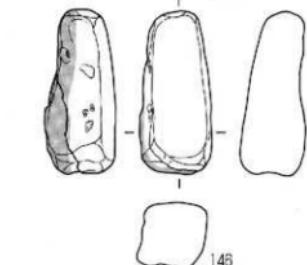
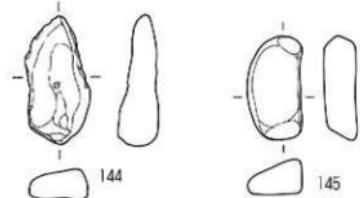
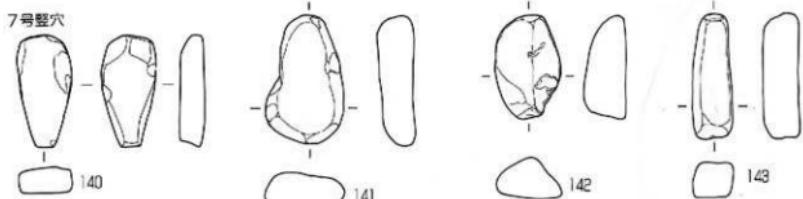
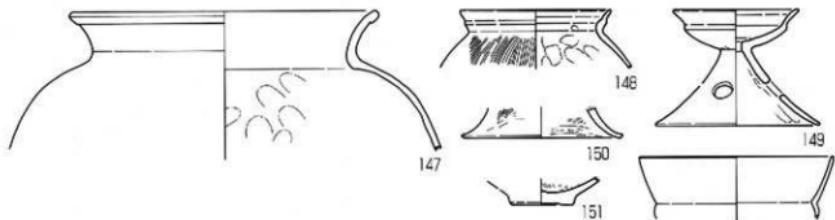


図 46 7号竖穴建物跡出土遺物 (3)

0 10cm



8号竪穴



9号竪穴

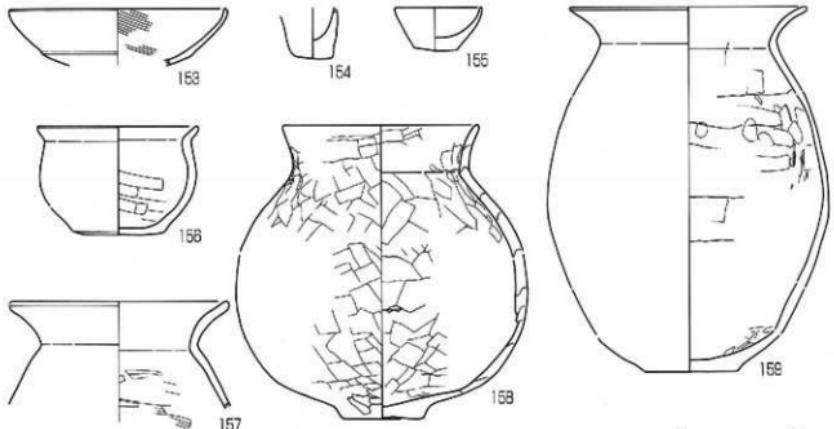
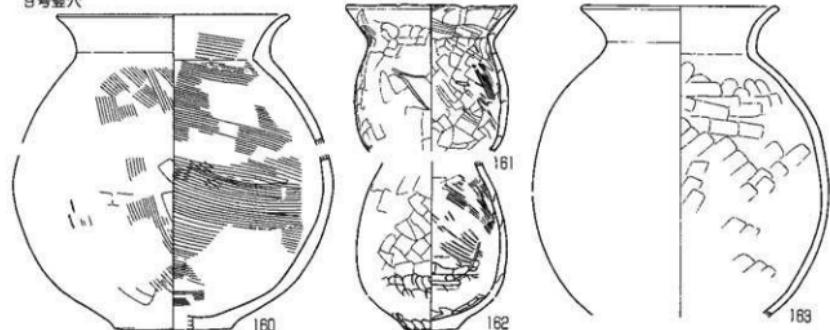


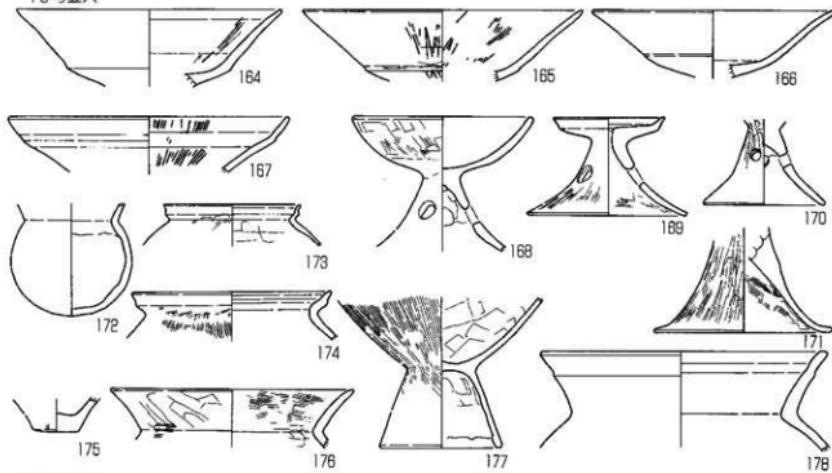
図47 7~9号竪穴建物跡出土遺物



9号竪穴



10号竪穴



12号竪穴

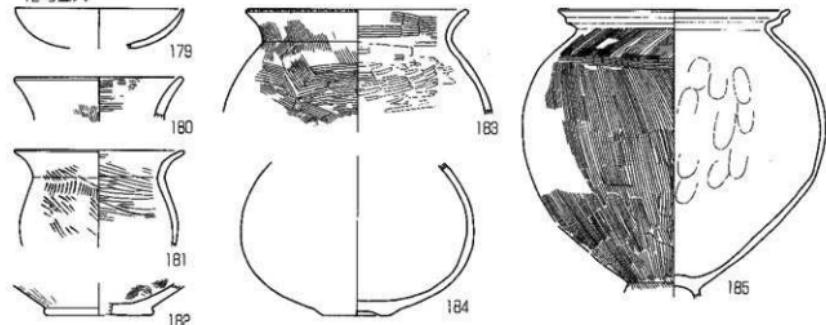


図48 9~10・12号竪穴建物跡出土遺物

0 10cm

13号竖穴

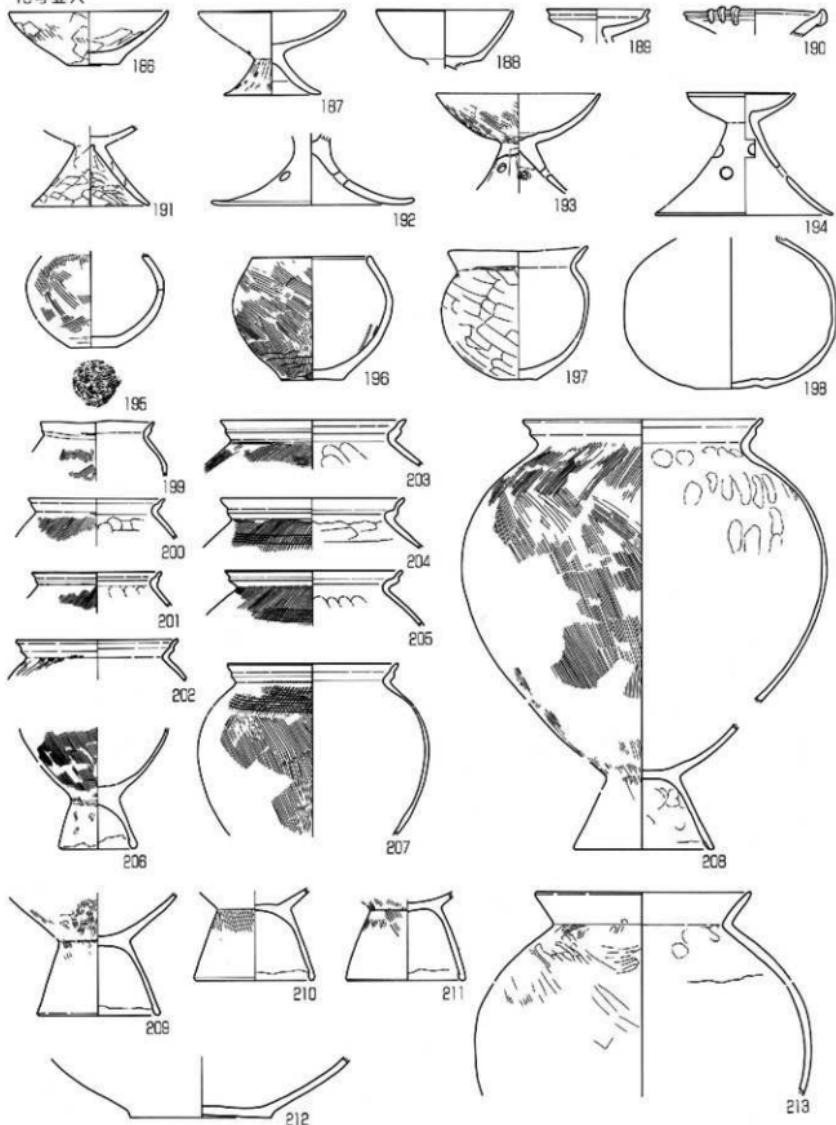


图49 13号竖穴建物跡出土遺物



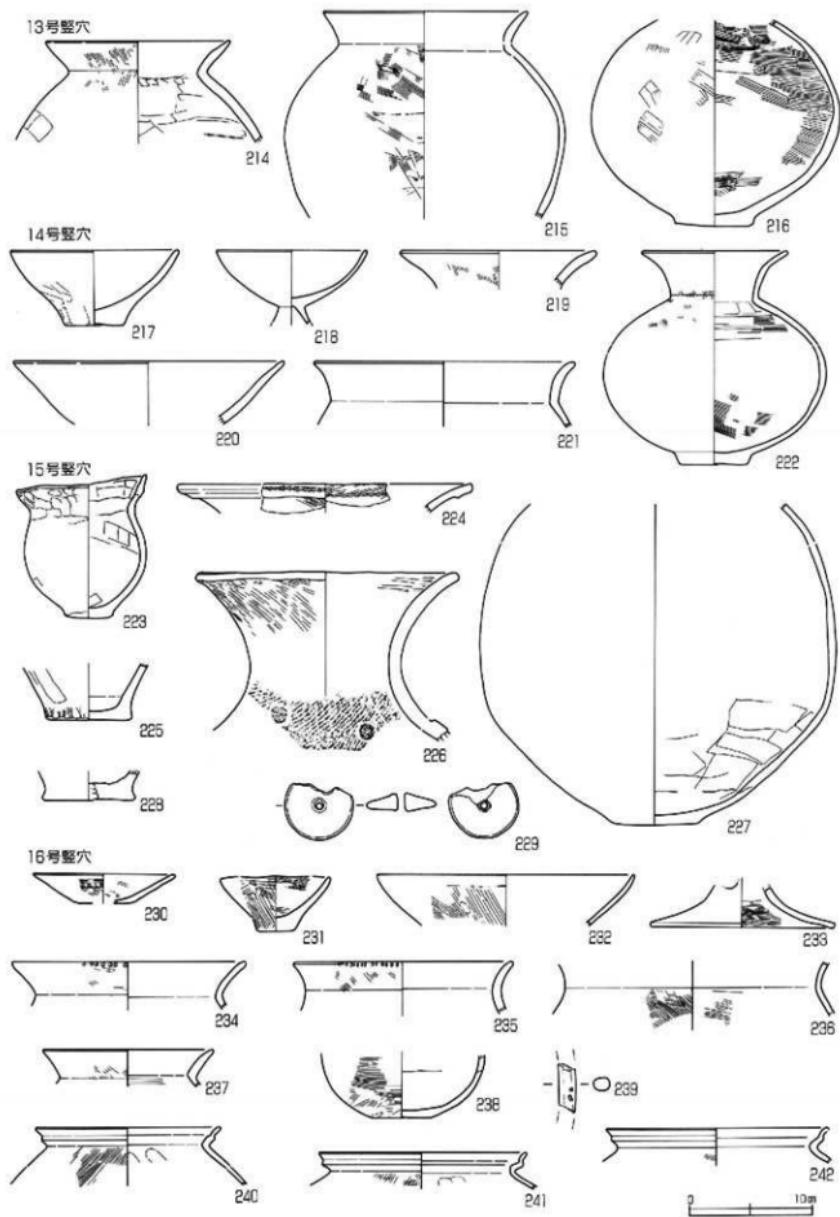


図50 13~16号竪穴建物跡出土遺物

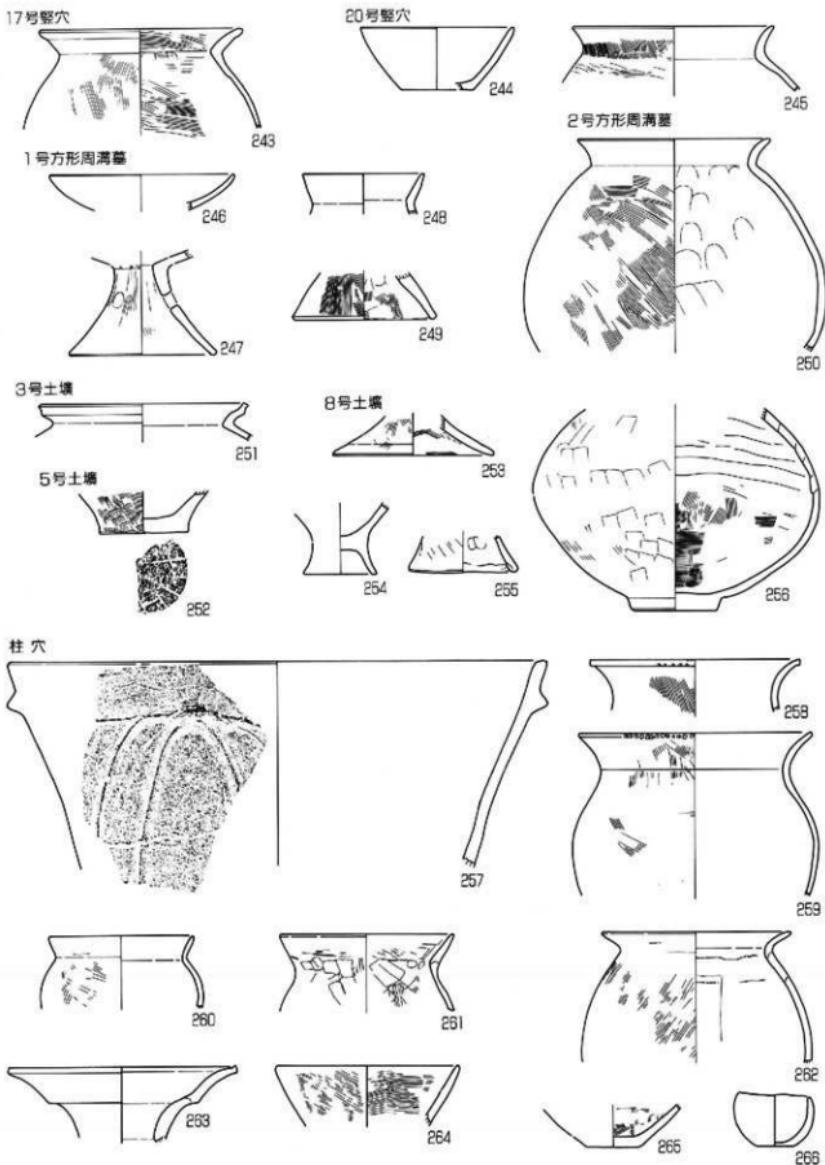


図51 17・20号竪穴建物跡、1~2号方形周溝墓、3・5・8号土壤、柱穴出土遺物



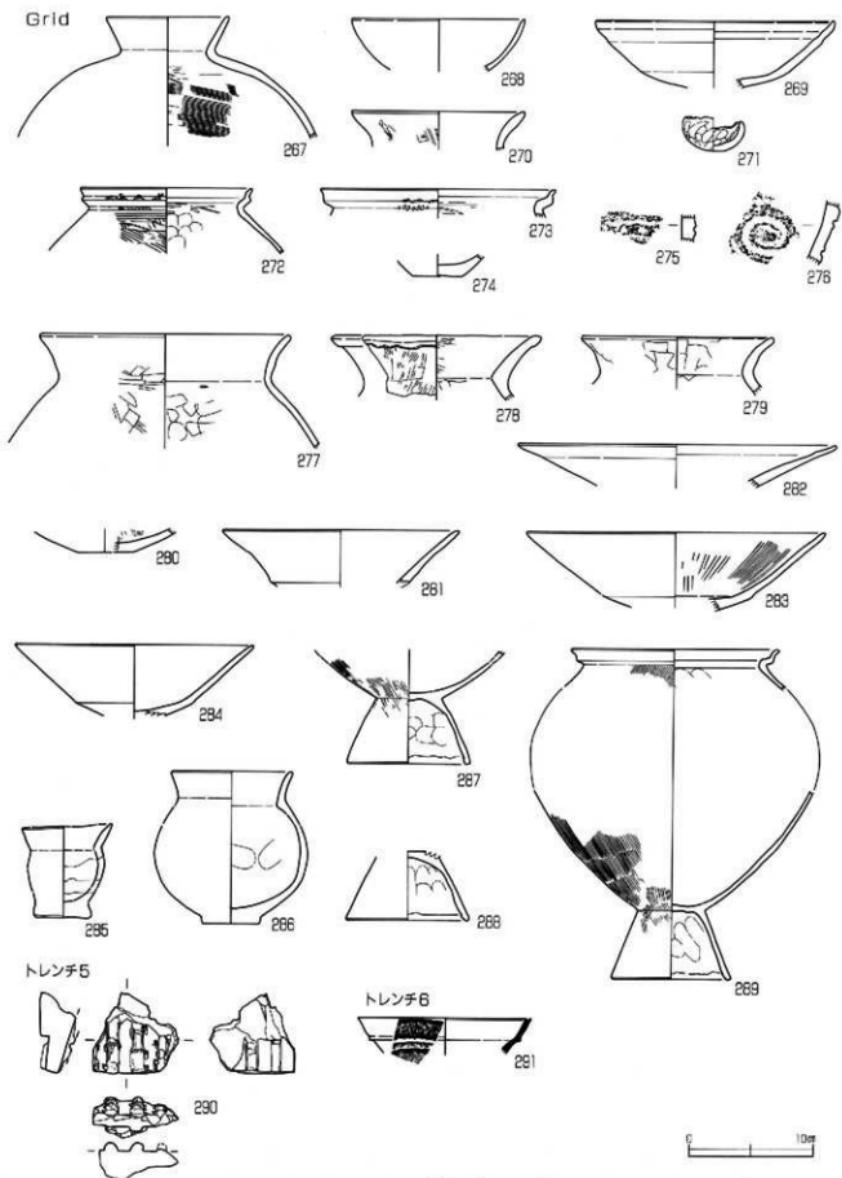


図 52 Grid • 試掘調査出土遺物

第4章 考 察

第1節 塩部遺跡の集落変遷

本調査地点では、古墳時代の集落跡の一部と考えられ、様々な形態の建物群が多数検出された。中でも低地部分において確認された周溝付平地建物跡は、近年各地で調査事例が増加しつつある建物形態であり、従来方形周溝墓と認識していた遺構群の中にも、そうした建物跡ではないかと考えられる遺構が存在し、研究者によって再検討が進められている。

調査区全体では多数の竪穴建物跡、掘立柱建物跡が検出されているが、建物群についてもそれぞれ重複関係があり、数時期の変遷過程が想定される。よって、ここでは集落構造を解明する手掛りとして集落変遷を整理し、建物構造や土地利用の推移について分析する。

I期（時期：縄文時代中葉）

調査区北東付近を中心に小規模な土壌状のピット群と不整形な溝跡で構成される。いずれも遺構覆土は灰黄褐色系であり、黄褐色の地山に近似した色調であったため、肉眼で確認するのも困難な状況であった。よって、調査当初は掘り過ぎたと考えられた24号ピット下層で縄文土器が出土するまでは、遺構と認定するか判断に迷った遺構群でもあった。本調査区北東側で平成8年度実施した愛宕町下条線改良工事地区（以後、愛宕町下条線A地区）においても、同時期の土壌墓や遺物が出土していることから、本調査区北東部を含む微高地に縄文時代中葉の短期的な集落が営まれた可能性が想定される。土器の年代からは、加曾利E期と考えられる。

IIa期（時期：弥生時代末期～古墳時代初頭）

1・2号方形周溝墓が調査区北側に形成された時期をII期とした。両遺構とともに部分的な検出状況であるため遺物量が少なく、帰属年代を確定することは難しい。しかし、方形周溝墓内からは東海系のS字甕等が検出されていないところをみると、それ以前に造営された方形周溝墓であると考えられる。墓と集落との位置から考えると、検出されている建物群との関係が注目される。多くの竪穴建物跡はS字甕主体もしくはそれ以降の建物跡であるが、出土遺物が少なく、帰属年代に不確定要素が多い1～5号竪穴建物跡もしくは1～3号周溝付平地建物跡群が併行する可能性も想定される。4号竪穴建物跡は、重複関係から周溝付平地建物跡より若干古い段階と判断していることから、竪穴建物跡群が併行する可能性の方が僅かに高いだろうか。いずれにしても、周溝付平地建物跡との時期差は大きないと考えられ、限られた遺物から判断ことが許されるならば、周溝付平地建物跡と併行する可能性もあることを示唆しておく。土器の年代からみると、II期は4世紀代と考えられる。

IIb期（弥生時代末期～古墳時代初頭）

1～3号周溝付平地建物跡を主体とする時期をIIb期としているが、出土遺物の年代をみるとIIa期との時間差は大きくないと考えられる。時期設定の基準となったのは、2号周溝付平地建物跡の遺物群であるが、北陸や畿内の影響を受けた外来系の土器が出土している。県内における北陸系土器を扱った小林健二氏の編年では甲斐II期に位置付けられている（小林1999）。

2・3号周溝付平地建物跡は比較的低地部分に位置するが、1号周溝付平地建物跡は2・3号に比べ安定した地山面に形成されており、そのためか他の2つの建物に比べて周溝が浅く、雨落ち溝程度の規模となっている。他地域の事例を参考にすれば、掘立柱建物跡にも併行する建物が存在していると考えられるが、本遺跡では古墳時代の遺構も多数重複していることから、本期に伴う他の遺構は特定できなかった。

III期（古墳時代前期）

主に8・10・12・13・14・16・20号竪穴建物跡で構成される時期で、S字甕B～D類（小林分類：甲甕II類～IV類）を主体とする時期である（小林1998）。8・14・16号竪穴建物跡は重複しているが、土器からみる限り大幅な時期差は認められなかった。13号竪穴建物跡からは、まとまったS字甕が出土し、鉢や高環もS字甕と同質の胎土で焼かれたものが存在するなど器種分化が進んだ様相が窺われる。12・13号竪穴建物跡は建物規模も大きく、縦列する位置関係にあるが、13号竪穴建物跡は時期的にIV類のS字甕を多く含み、この段階の中でも終末に該当する遺構と考えられる。この段階をもってS字系製品は急激に姿を消す。土器の年代からは4世紀後半から5世紀前半と考えられる。

IV期（古墳時代中期）

9・17号竪穴建物跡で構成される時期で、土器からS字製品が完全に消滅したばかりではなく、建物構造からも大きな違いが看取される。まず、煮炊きの場は、地床炉から粘土によって囲みを作り、中央に土器を設置する支柱石を配した竈へと変貌を遂げている。設置位置も建物中央部付近から竪穴建物壁際に移動していることから、煙処理と建物空間の利用方法が強く意識され始めた結果と考えられる。建物構造と土器ではどちらが先に変化したのか分らないが、竈構造への変化と合わせて使用される土器煮炊具も変化し、S字台付甕から形態的に口縁部が「く」の字型に開く甕や壺となり、底部も台付から平底へ変化している。この形態が以後継続して使用されていくことになる。土器の年代からは5世紀中葉から5世紀後半と考えられる。

V期（古墳時代後期）

6・7号竪穴建物跡で構成される。建物形態は前段階から進化し、建物壁際に移動した竈から建物外部に向かって煙を逃がす煙道が設置される。竈本体も袖石等の竈壁補強材が使用され始め、規模も大きくなっている。6号竪穴建物跡は、大部分が調査区外に展開しているため定かではないが、建物方向や規模からみると7号竪穴建物跡と同規模かつ同列に位置しているため、竈も東側と考えられる。7号竪穴建物跡を例にみると、建物内部の用途はより分化し、竈右側に石組など小規模な施設が設けられ、貯蔵穴とも考えられる4号土壙があることから、建物南東区域は炊事・貯蔵に関連する場所と考えられる。また、南西部には編掛石が山のようにな積まれ、墓など解す際に移用したものであろうか、叩き台となる石が設置されていたことなどから、作業場としての利用が考えられる。北側については、特徴的な施設や遺物は検出されず、寝間のような空間であったかもしれない。

土器では、新たに碗・壺が土器様式の中で確立され、安定的に使用され始める。最も大きな画期は、須恵器が建物内に出現する点であり、139の甕はTK216かTK208段階と考えられ、本県における初現期の須恵器に位置付けられる。

6・7号竪穴建物跡とともに火災で廃絶しており、後続する建物跡が検出されていないことから、本地区における古墳時代最後の遺構群であると考えられる。土器の年代からは5世紀後半から6世紀前半と考えられる。

VIa期（古墳時代初頭～後期）

時期的にはどの遺構群とセットになるか定かではないが、規則性を持った複数の掘立柱建物群で構成される。規模や微細な方位に若干の違いはあるが、大きく2つの主軸方向があり、一つがVIa期とした北東から南西方向に主軸を有す掘立柱建物群を一つの括りとした。しかし、軸線は近似しているが、位置関係や構造からもすべてが同一時期とは考えられず、時期差が存在する可能性は高い。12・13・14・17・22号掘立柱建物跡は、建物面積や柱穴規模も大きく、柱筋も比較的揃った建物跡である。3号掘立柱建物跡も含め、多くが方形で礎板等が用いられ

た痕跡があった建物であり、時期的に併行している可能性がある。

VII b 期（古墳時代初頭～後期）

主軸を北西から南東に有す掘立柱建物群で、数的にはVI a 期の軸線の建物に比べ少ない。11号掘立柱建物跡と重複する9・10号掘立柱建物跡は、併行関係にあることからほぼ同時存在と考えられるが、建物主軸は違っても基本的にVI a 期の建物群と直交する軸線であることから、1号掘立柱建物跡のような位置的にどちらの段階でも想定できる掘立柱建物跡も存在することから、明確に線を引くことは困難であった。

VII期（近世）

「塩部たんば」と呼ばれた近世の水田に伴う水路跡である。4・10号溝跡が南北方向に併行して存在する。本調査では近世水田面は自動車学校盛土や整地層及び擾乱により状態が極めて悪かったため調査当初に除去していたが、深く掘削されていた水路のみ検出された。

以上、簡単ではあるが、主な遺構の変遷について概観してみた。VII期についてはII～VI期のいずれかに組み込まれると考えられるが、前述のとおり明確な位置付けができなかった。1号溝跡については、II期～VI期まで継続的に存在したことが土器からも窺われるが、溝として機能したのは、おそらくII期～IV期と考えられ、V・VI期には水路として使用されなくなり、集落で消費された土器等の廃棄場所となつたと考えられる。

第2節 塩部遺跡と周辺の景観

前節では、本調査区の構造と変遷について述べたが、ここでは周辺部における調査成果も踏まえた上で塩部遺跡を少し広域に概観する。これまでに塩部地区周辺においては、比較的大規模な調査として、県立甲府工業高校校舎建替えに伴う調査（以下、甲府工業地区）、愛宕町下条線A地区、飯田一丁目遺跡（現塩部遺跡内）、富士見一丁目遺跡（現富士見遺跡）などが実施されている。特に甲府工業地区及び愛宕町下条線地区は、今回の調査区と隣接する位置関係にあり、時期的にも弥生時代末期から古墳時代が遺跡の主体となっていることから、景観復元を行う上で重要な調査例となっている。残念ながら愛宕町下条線については、未報告資料となつていて詳細に触ることはできないが、今回は全体図のみ図57の中に落とし込んでいる。

まず、調査区の地形からみると、標高273.5m付近を最高点とし、272.7mを低部とする比高差0.8mの南西方向の緩傾斜地に遺構が集中する。調査区北西部には黒色粘質土層が厚く堆積するなど湿地に近い状態であったと考えられ、単に標高の高低だけではなく、予想以上に複雑に地形が入り組んでいる様子が窺えた。そのような湿気の多い場所は遺構も少なく、状況に合わせた利用がされていた。さらに本調査区から20.0mほど南側の中央線跨道橋工事区内からは厚い川砂や砂礫層が検出され、中から数点の古墳時代の土器片が良好な状態で出土しており、集落の南に河川が存在していたことが明らかとなっている。

(1) 集落構造と生産域

検出された遺構群は、周溝付平地建物跡、竪穴建物跡、掘立柱建物跡などを主体とする多数の遺構が重複しながら密集していた。集落の年代は、弥生時代末期から古墳時代後期までと時間幅があるが、調査区内の竪穴建物跡だけをみると、III期付近でピークを迎えた後、IV期と設定した古墳時代中期には2棟に集約され、集落が解体するV期までその体制が維持された。掘立柱建物跡との共判関係については不明であったが、竪穴建物跡が減少する古墳時代中期以降

掘立柱建物跡が増加するのではないかと考えられる。柱間が大きい掘立柱建物もあるが、柱穴数はすべて6基と考えられ、構造的には特殊な建物は存在しなかった。古墳時代前期以降の竪穴建物跡及び掘立柱建物跡の軸線は、北東へ60~70度前後振れた方位及びその軸線に直交する方位が統一されている(図58)。塩部遺跡の集落は、周辺部において確認してきた同時期の集落とは景観が異なり、全体的に一定の基軸線が設定され、計画的な建物配置が行われたことが看取できる。集落の存続時期は4~6世紀代を中心とするが、建物群の基軸線は造構変遷からも4世紀代後半までには確立し、6世紀代に集落が途絶えるまで一貫していたと考えられる。

さらに周辺部まで目を向けると、類似する軸線が見られる事例が少し離れた富士見一丁目遺跡第3面で検出された水田跡でも確認できる(図55)。報告書では詳細な座標や軸線の記載がないため、あくまで全体図の状況や写真で確認した程度であるが、非常に近似した方向性を有している。一畠ほどの小規模な面積が達なる水田跡は古墳時代前期の年代が与えられており、塩部遺跡で検出された集落の存続時期と重複する。距離的にも近く、全く無関係であったとは考え難いことから、本調査区の集落が管理する水田であった可能性があり、軸線も本調査区も含めた広範囲において設定されていたものと理解できないだろうか。

条里に先行する段階にこのような計画的な基軸設定による集落が展開した背景は不明であり、基軸が地形の制約によるものか、河川の影響によるものかは現時点で確認する術はないが、この地点だけを見れば、造構密度が高く主要な造構が展開する南西方向の緩傾斜に合わせている可能性が最も有力である。偶然にも基軸線が本遺跡北側に位置する神奈備形の湯村山と南側に見える富士山を結ぶ延長線と概ね直交するか合致していることから、推測の域を出ないが、象徴的な山も意識されていた可能性も想定できないだろうか。

(2) 集落と墓域

本調査区では2基の方形周溝墓が検出されているが、甲府工業高校地区から愛宕町下条線A地区にかけての一帯で多数の方形周溝墓が検出されている。遺物年代では、それほど大きな時間差はないよう見えるが、S字甕を含む時期と含まない時期の2つの時期が設定されている。本調査区の方形周溝墓と比較すると、1号方形周溝墓はS字甕を含まず、覆土は中層にシルト質の黄褐色土が堆積する特徴的な埋没状況であったが、愛宕町下条線A地区で検出された方形周溝墓の中にも同様の堆積状況を示すものが存在していた。そのうち2基から同様の堆積状況が確認されており、うち1基からはS字甕を含む多数の遺物が出土していたが、多くはシルト質土より上層であり、造構の構築年代からは若干時間差のある遺物群である状況が窺えた。シルト質土の堆積する方形周溝墓は含まない造構に切られているため、周辺の方形周溝墓は、覆土からみても本調査区1号方形周溝墓と同時期の造構とシルト質土を含まない方形周溝墓の2時期に大別されると考えられる。方形周溝墓の様相から、造墓期は弥生末期段階と古墳時代初頭から前期までに分けられ、本調査区の集落に関わる方形周溝墓は後者の一群に属すると考えられる。その場合、前者の造墓集団は別に存在すると考えられるが、愛宕町下条線A地区の西側延長区で平成14年度に実施したC地区の集落域が時期的に該当するのではないかと考えられる。これについては、次の報告時に詳細を明らかにすることとする。

周辺部の調査事例なども踏まえ、本調査区の集落を中心に展開する水田域、墓域を視野に入れ、塩部遺跡周辺の景観を模式化したものが図56である。墓域と集落は一部分が重複するような形となっているが、前述のとおり方形周溝墓には時期差があり、基本的に同時期での集落と方形周溝墓の重複は少ないものと考えられる。その方形周溝墓群も古墳時代前期で姿を消すことから、現段階で中期以降の墓域や墓制が不明となっている。隣接する塩部三丁目地内には孤塚の小字名が残っていることから、付近に古墳が存在した可能性もあるが、現在では調査区付近に該当する古墳等がないことから少し離れた湯村山内の古墳群や麓の古墳群も視野に入れて考えなければならない。いずれにしても周辺部における今後の調査に期待が持たれる。

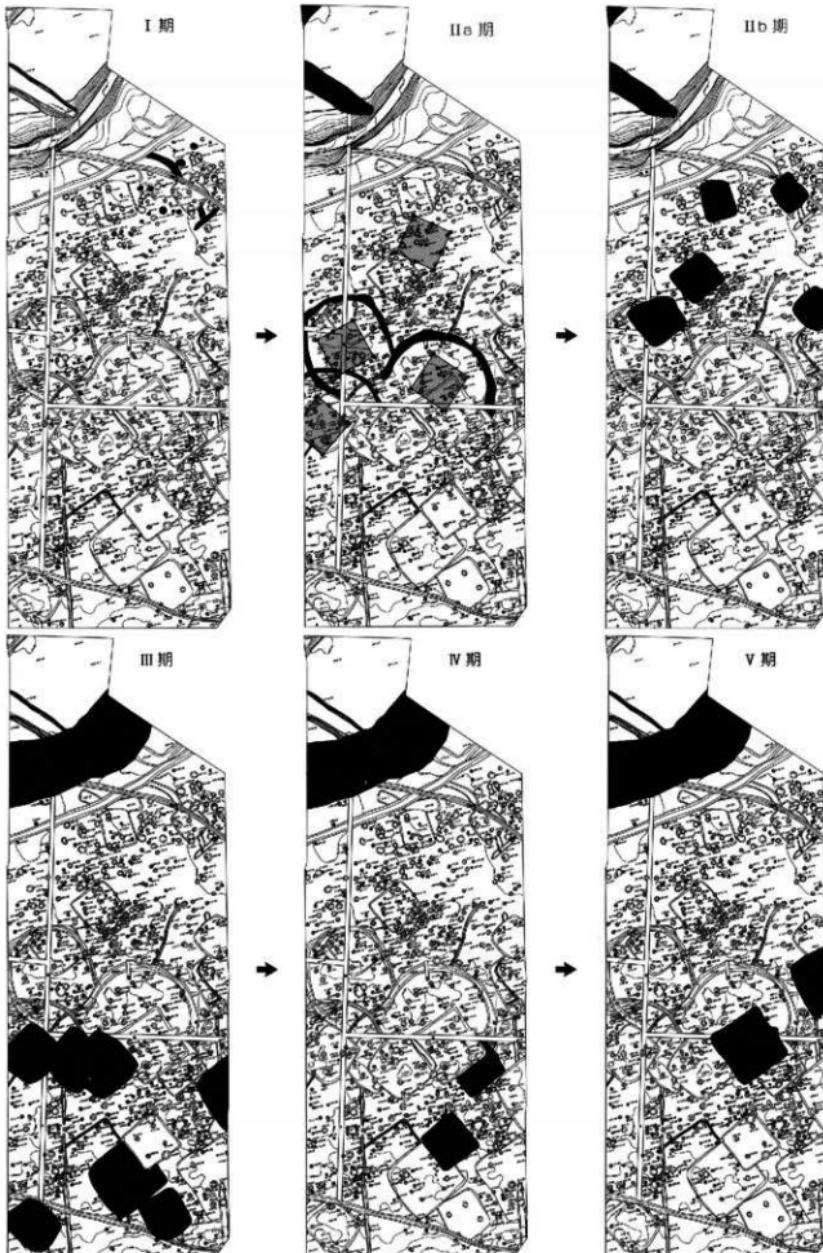


図53 遺構変遷図①

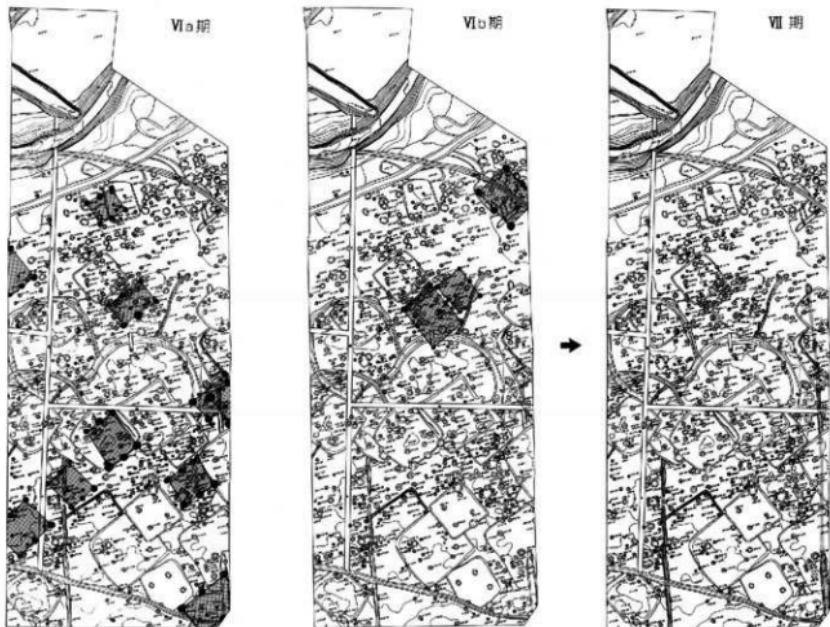


図54 遺構変遷図②



図55 富士見一丁目遺跡第3面水田跡
(報告書より抜粋)

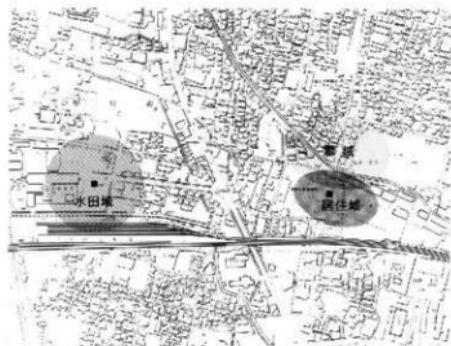
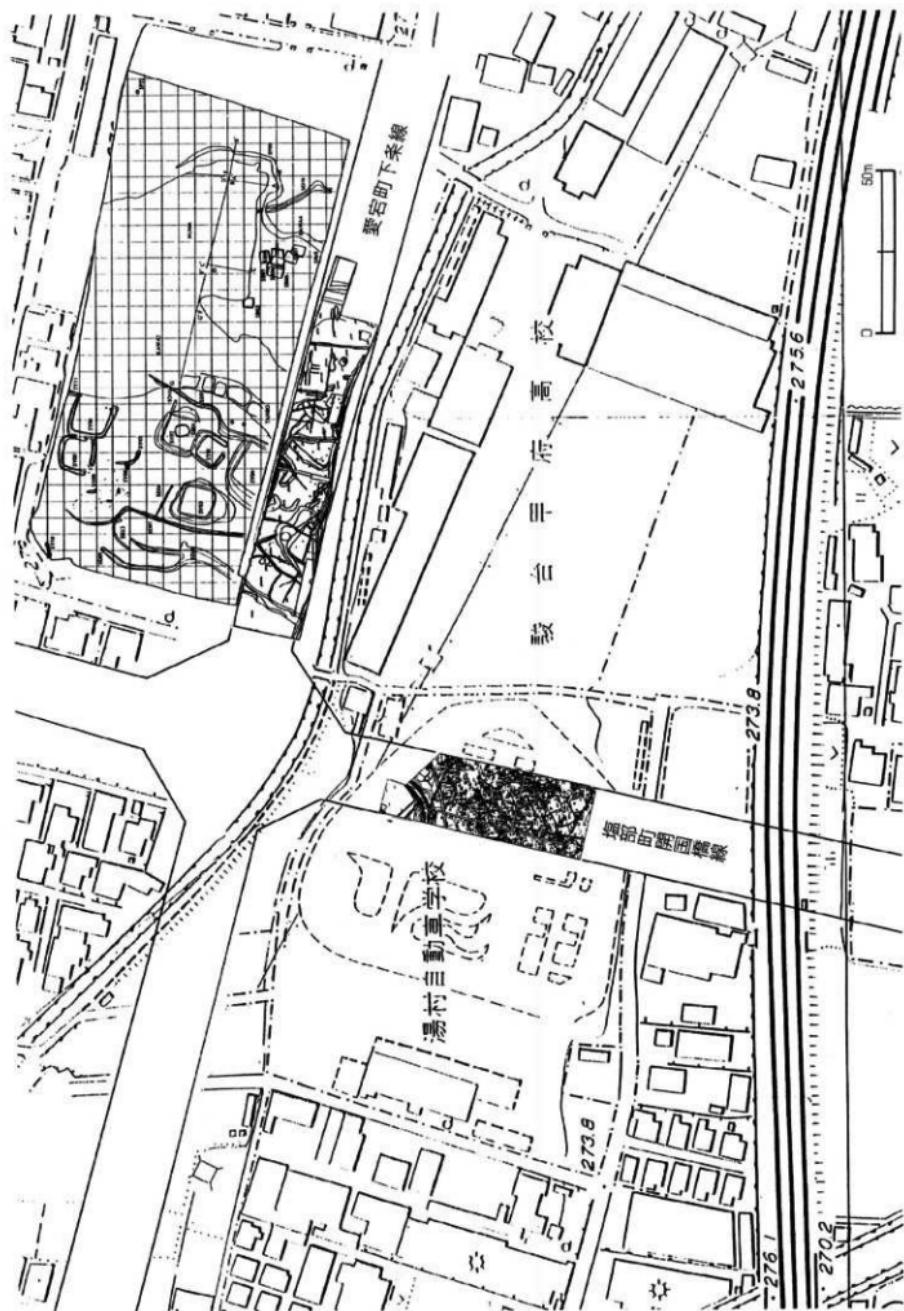


図56 塩部地域の景観模式図

図57 調査区及び周辺の調査状況



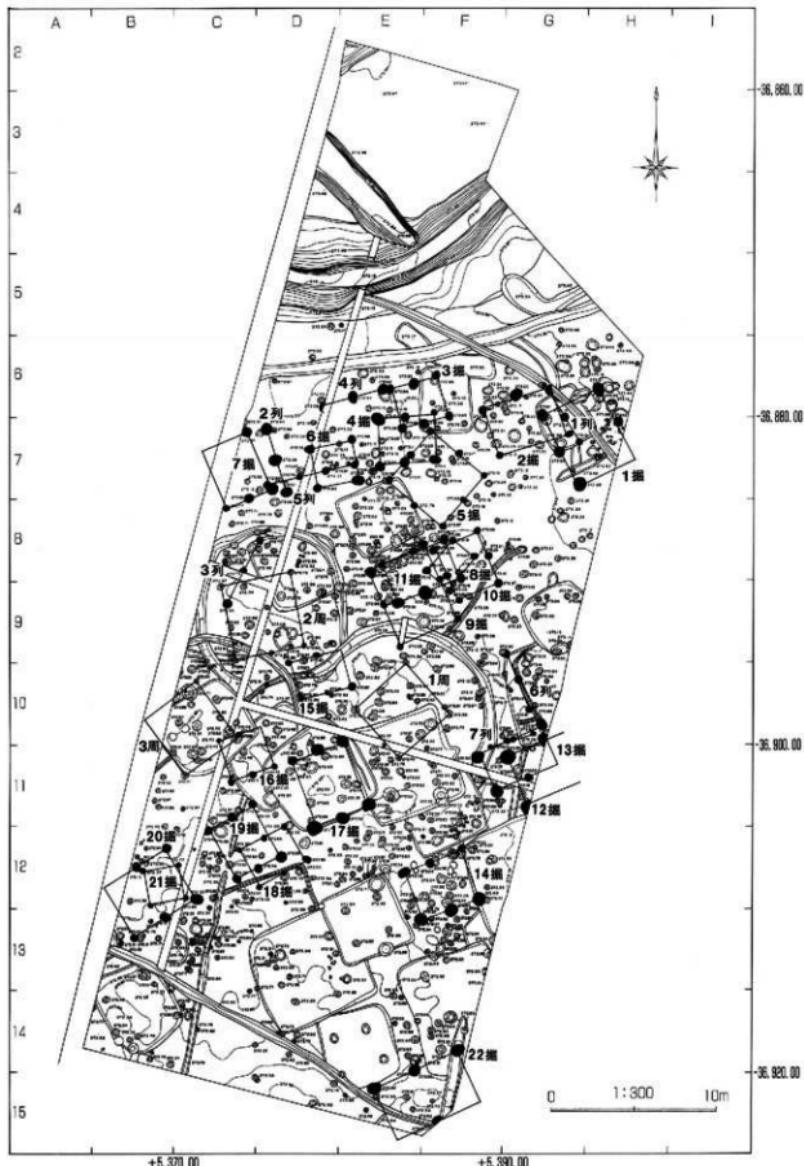


図58 塩部遺跡主要建物跡配置図

第5章 結語

本調査区を含む塩部遺跡一帯では、県立甲府工業高校地点（県埋蔵文化財センター調査）及び市道愛宕町下条線道路改良工事地点（甲府市教育委員会調査）を始めとする調査によって、弥生時代末期から古墳時代後期までの造構・遺物が数多く検出されている。巨視すると、本調査区北側で検出された方形周溝墓の一部は、現時点で2つの調査地点で検出された墓域の南限に位置付けられる。

集落を構成する建物群については、大きく3つの形態が確認され、中でも仮に周溝付平地建物としたものは、調査終了後に東海・関東・北陸等で確認例が増加しつつある建物形態であることを知った。したがって、担当者である筆者の認識不足から出土品の取り扱いなどを含め、著しく調査段階の情報を欠落させる結果となってしまったところは誠に遺憾であるが、今後調査をする上で良い反省材料となった。しかし、他地域と類似した建物形態の存在が本県でも確認されたという意義は大きいと確信する。

掘立柱建物跡群については、県内における同時期の遺跡と比べても検出数が多く、規模や規則性からみても異質に感じる。第4章考索で述べたとおり、建物群の方向性は2つに大別される。造構の重複や出土遺物からの時期変遷が捉え難く、詳細な集落構造を明らかにすることはできなかったが、古墳時代前半段階において、基軸によって計画的に集落景観が整備されていたことは驚きであり、塩部一帯の歴史認識を大きく変えざるを得ない。建物の構造についても、柱穴平面形が方形に削りされ、構造上も基底部に縫板が用いられる等の丁寧な造作が施されるものもあり、建物の性格を考える上でも興味深い成果が得られた。

竪穴建物跡についても、炉から竪構造への変遷過程を看取ることできた。煙道を有す竈を備えた7号竪穴建物跡は、火災によって焼失した住居であったが、竪穴建物内の空間利用を知る上で好材料であった。また、県内でも初期に位置づけられる須恵器が多数の土器とともに出土したが、そのような須恵器を所有することのできた人物や階層、入手経路など、今後究明すべき課題が多い。

塩部遺跡内ではこれまでに多くの発掘調査が実施され、周辺の調査事例を活かして本報告ではできる限り一調査区の事実記載に止まらないよう、広い視野から遺跡を見るよう心掛けた。勉強不足で成果を充分活用することができなかつたが、今回塩部遺跡で調査された成果は、甲斐盆地内における集落の展開や構造を総合的に理解する上で重要であり、甲斐の古墳時代を考える上で貴重な情報提供ができたのではないかと考える。

参考文献

- 山梨県教育委員会 1985『飯川一丁目遺跡』
山梨県教育委員会 1996『塩部遺跡』
山梨県 1997『山梨県史 資料編2 原始・古代2』
及川良彦 1998『関東地方の低地遺跡の再検討－弥生時代から古墳時代前半の「周溝を有する建物跡」を中心に－』『青山考古』第15号 青山考古学会
小林健二 1998『山梨県出土の東海系土器－波及と定着の変容－』『山梨県考古学協会誌』第10号 山梨県考古学協会
小林健二 1999『山梨県出土の北陸系土器』『山梨県考古学論集IV』山梨県考古学協会
石神孝子 1999『甲斐における初期須恵器の展開』『山梨県考古学論集IV』山梨県考古学協会
山梨県教育委員会 2000『富士見一丁目遺跡』
静岡市教育委員会 2001『特別史跡 登呂遺跡発掘調査概要報告書II』



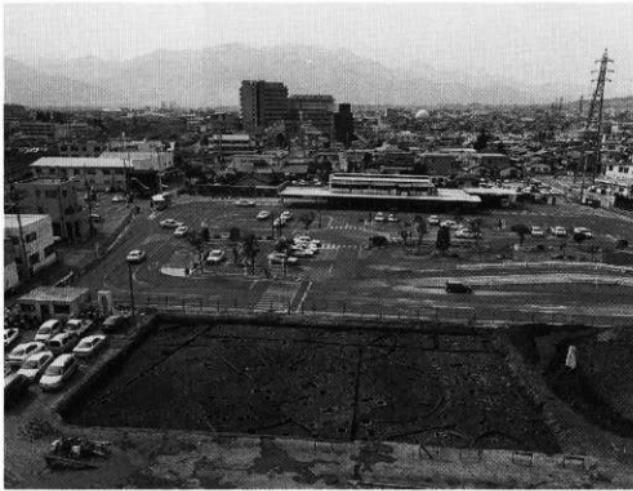
調査区全景



I区全景
(俯瞰)



I区全景



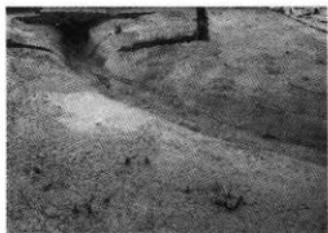
II区全景
(俯瞰)



II区全景



1号溝跡
全景



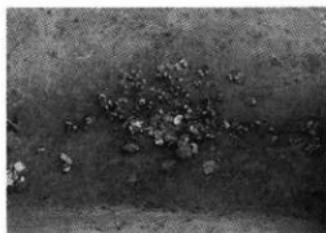
1号溝跡
全景



1号溝跡
北壁セクション



1号溝跡
下層遺物
出土状況



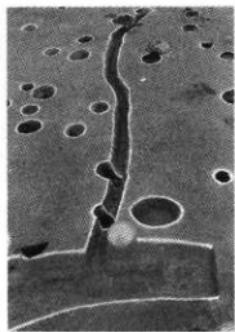
1号溝跡
下層遺物
出土状況



1号溝跡
中間セクション



2号溝跡



5号溝跡



8号溝跡



16号溝跡



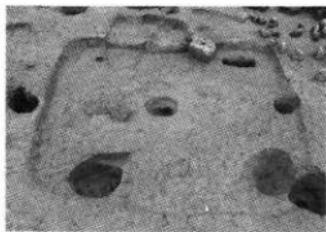
1号周溝付
平地建物跡



2・3号周溝付
平地建物跡



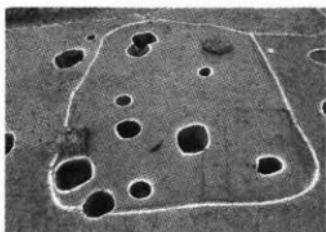
1号豎穴
建物跡
セクション



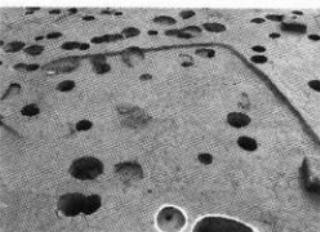
1号豎穴
建物跡



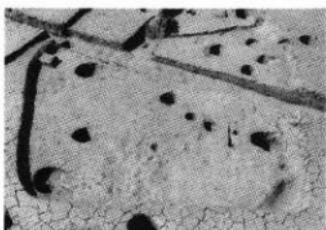
2号豎穴
建物跡
セクション



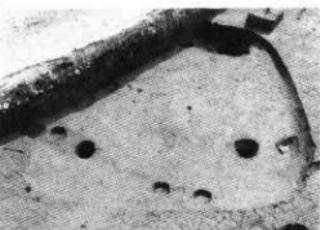
2号豎穴
建物跡



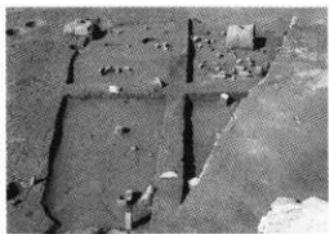
3号豎穴
建物跡



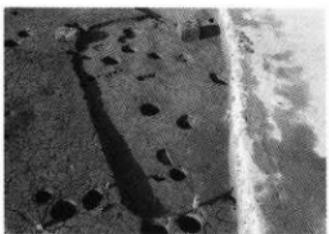
4号豎穴
建物跡



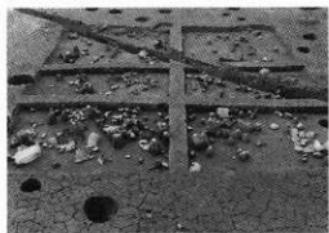
5号豎穴
建物跡



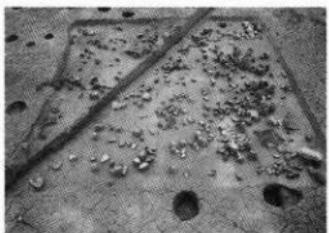
6号竪穴
建物跡
セクション



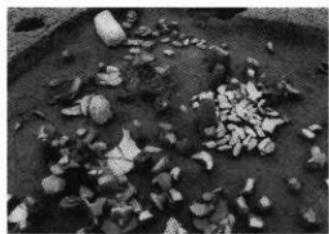
6号竪穴
建物跡



7号竪穴
建物跡
セクション



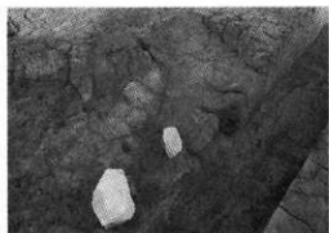
7号竪穴
建物跡
遺物状況



7号竪穴
建物跡
繩物用石
錐検出



7号竪穴
建物跡



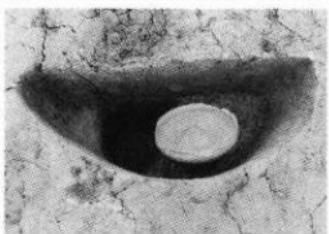
7号竪穴
建物跡



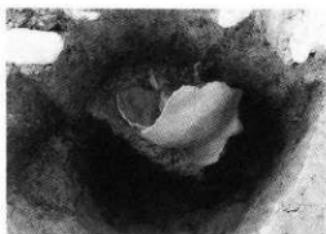
7号竪穴
建物跡



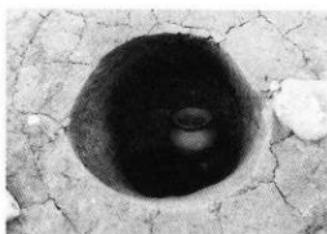
7号竪穴
建物跡
掘り方



553号
ピット



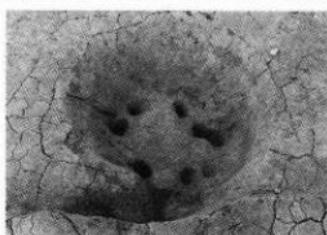
559号
ピット



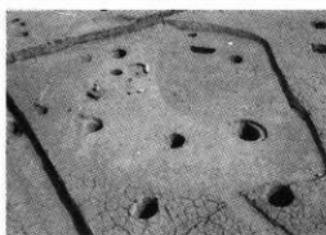
558号
ピット



4号土壤
遺物状況



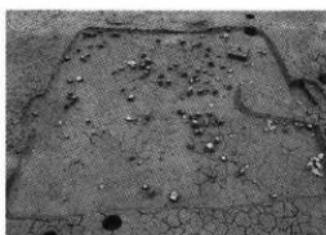
4号土壤



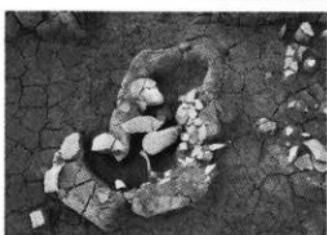
8号竪穴
建物跡



543号
ピット



9号竪穴
建物跡



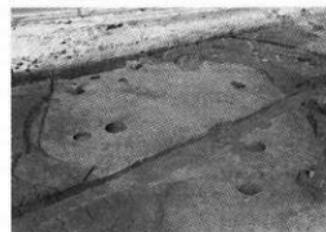
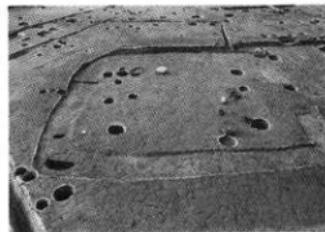
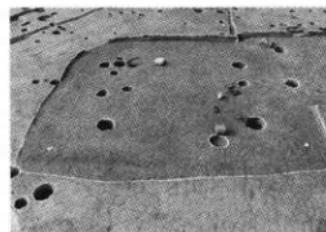
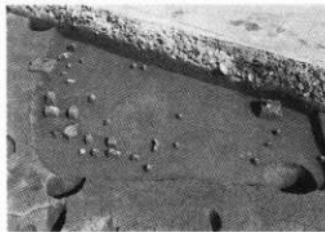
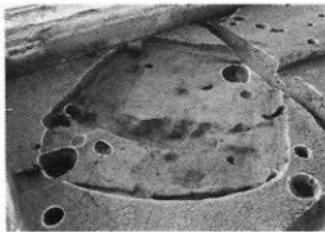
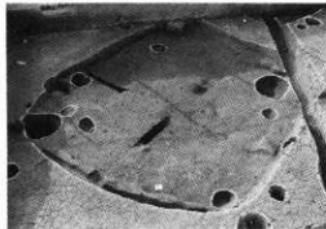
9号竪穴
建物跡遺

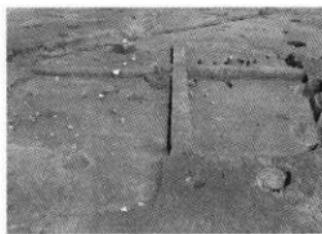


9号竪穴
建物跡

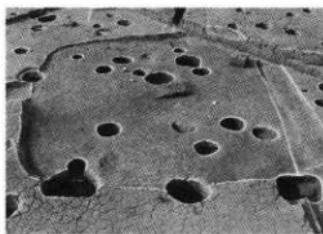


10号竪穴
建物跡
セクション





16号竪穴
建物跡
セクション



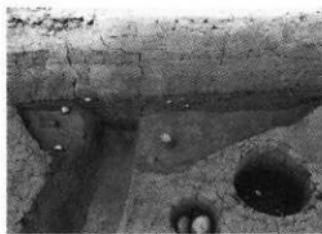
16号竪穴
建物跡



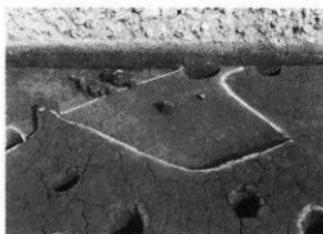
17号竪穴
建物跡



17号竪穴
建物跡



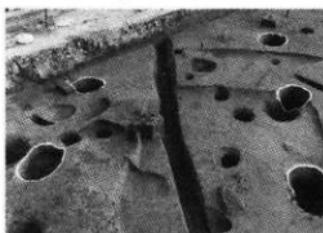
18号竪穴
建物跡



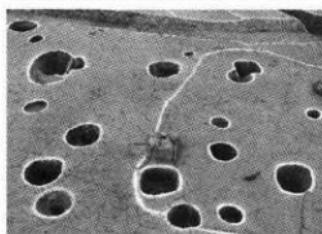
19号竪穴
建物跡



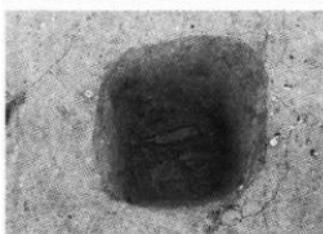
20号竪穴
建物跡



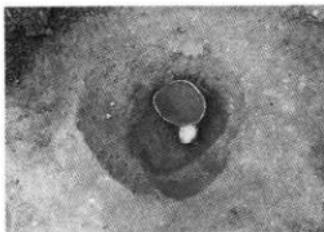
1号据立柱
建物跡



3号据立柱
建物跡



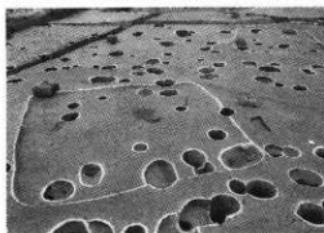
226号
ピット



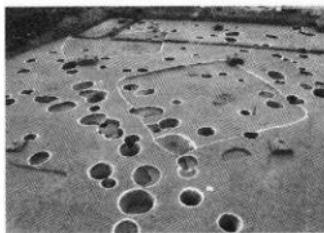
8号土壌



I 区全景



3号竪穴
建物跡周辺



3号竪穴
建物跡周辺



II区全景
(富士山方面)



II区全景
(湯村山方向)



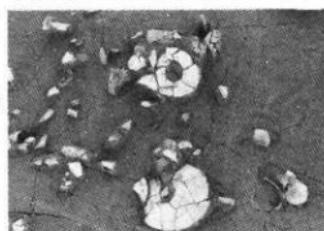
12-17号竪穴
建物跡周辺



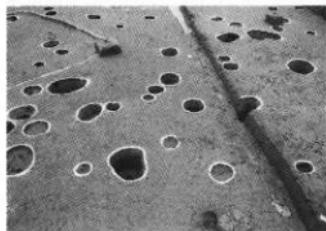
9-13号竪穴
建物跡周辺



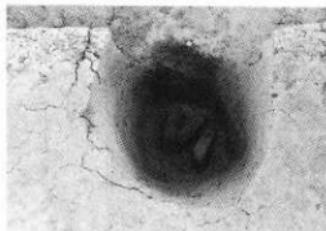
8-14-16号
竪穴建物跡
周辺



H-7グリッド内
遺物出土状況



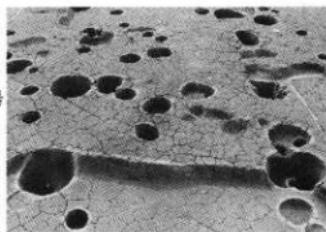
6号掘立柱
建物跡周辺



111号
ピット



18・19・20・21号
掘立柱建物跡
周辺



14号掘立柱
建物跡



22号堀立柱
建物跡



7号掘立
柱建物跡
2号柱穴
列周辺



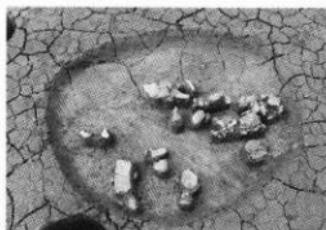
1号方形
周溝墓



1号方形
周溝墓
セクション



2号方形
周溝墓



3号土壤



掘削状況



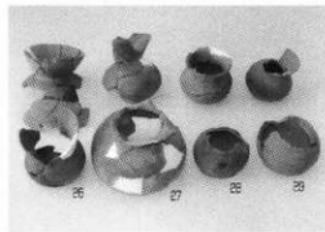
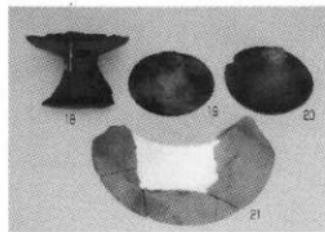
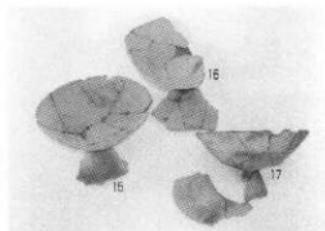
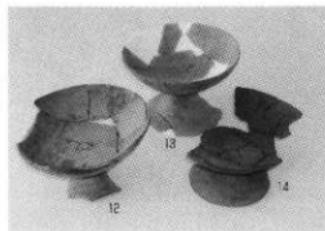
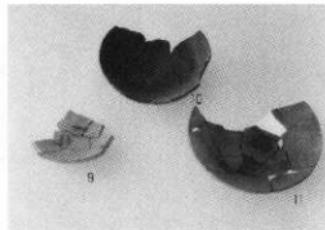
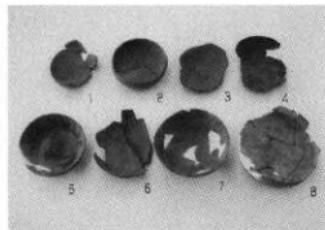
調査風景

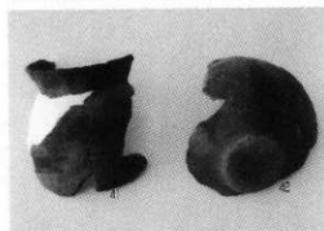
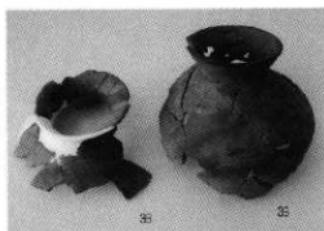
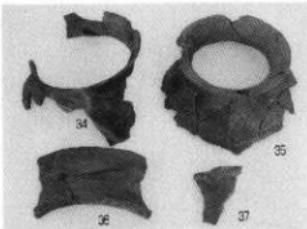
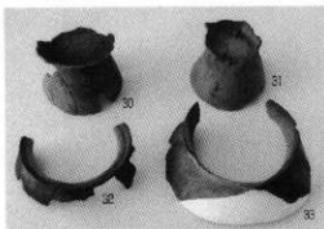


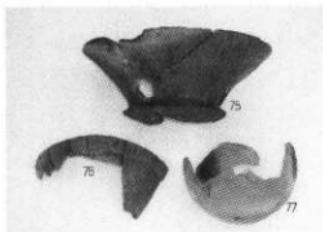
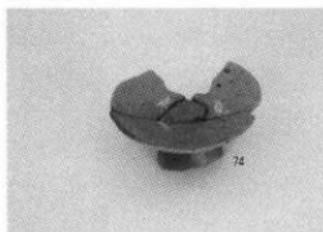
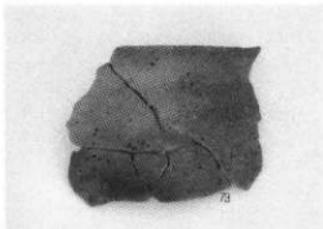
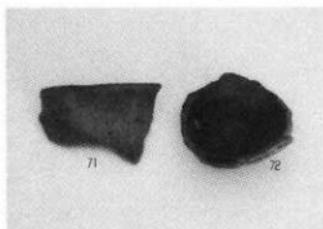
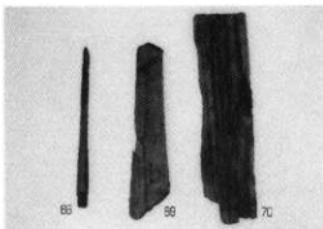
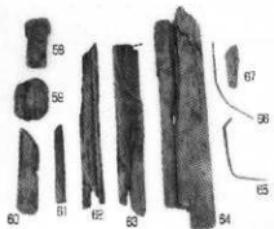
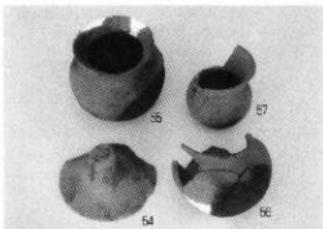
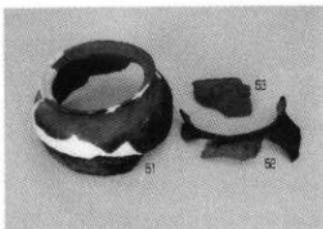
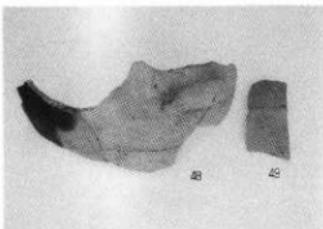
調査参加者

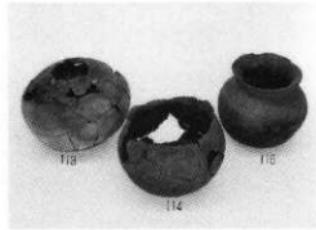
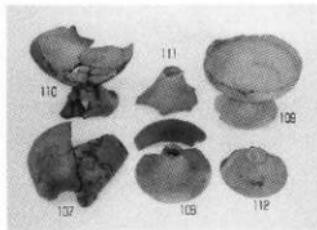
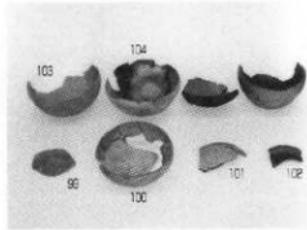
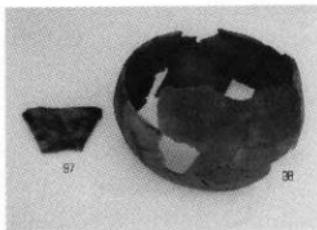
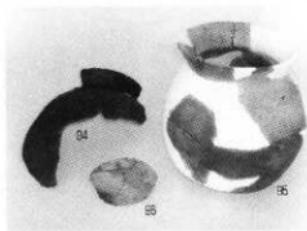
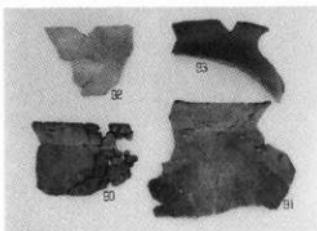
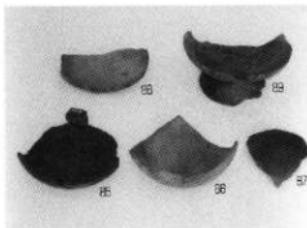
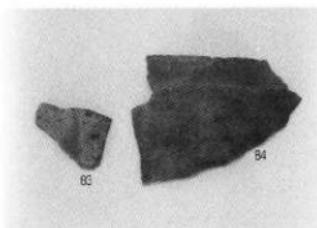
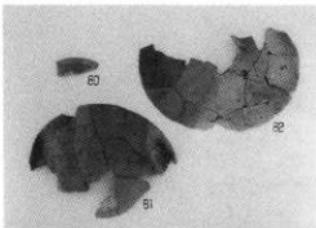
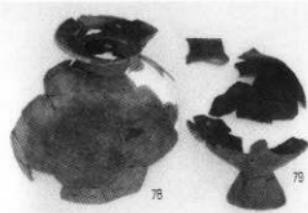


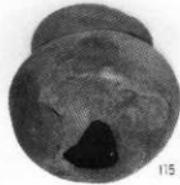
調査参加者



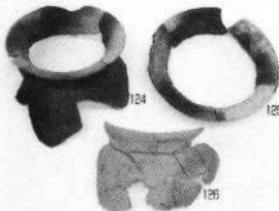
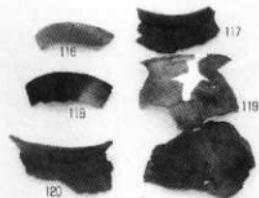








115



127



128

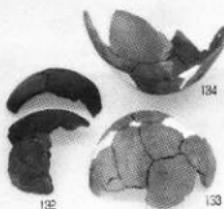
129



130



131

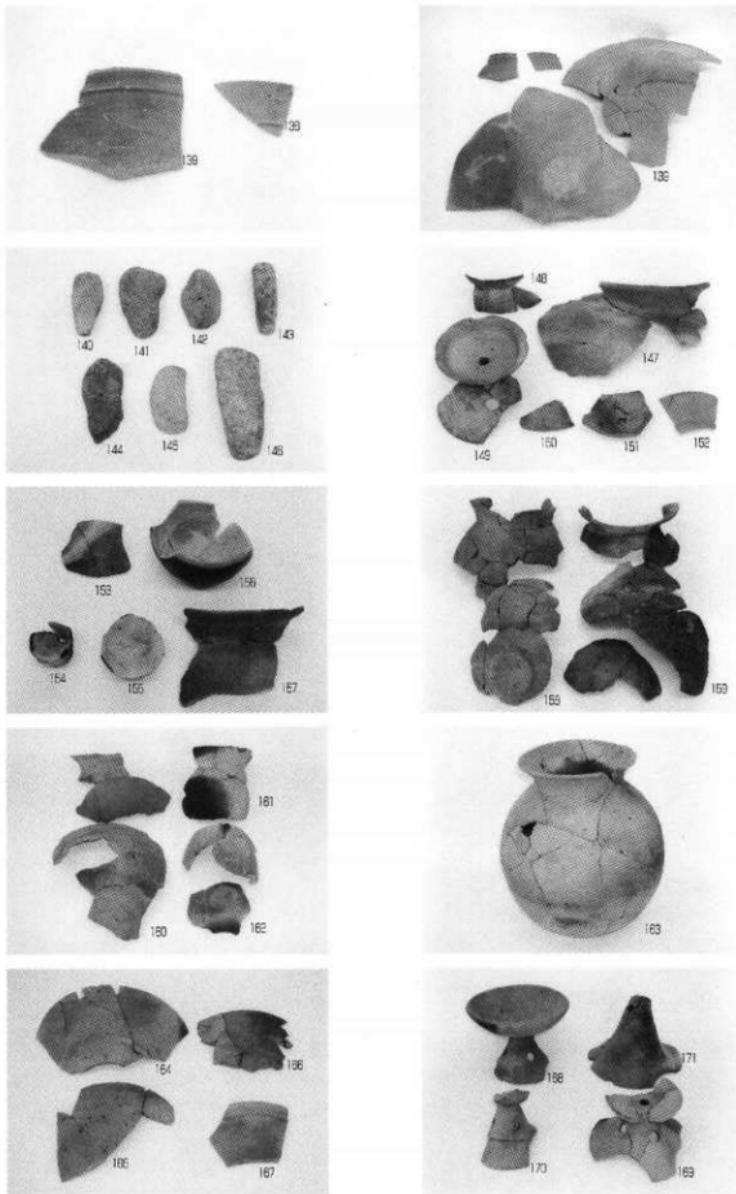


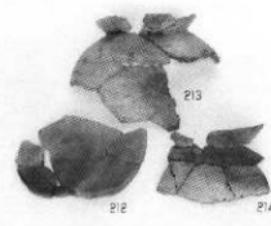
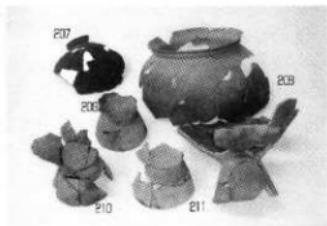
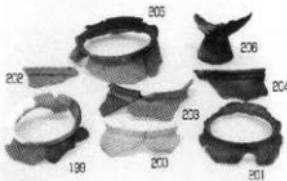
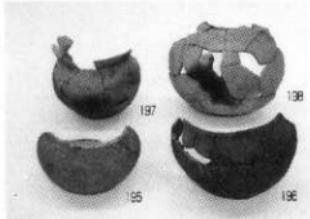
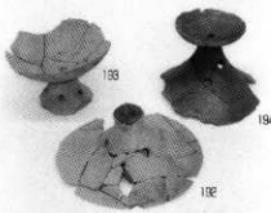
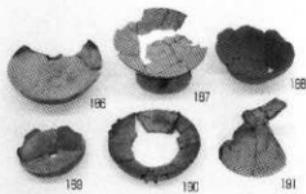
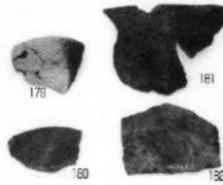
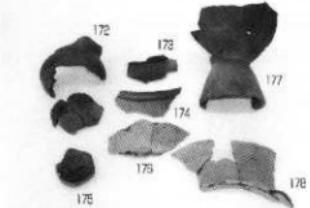
132

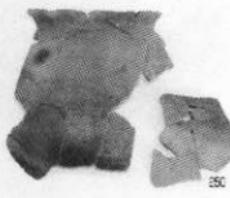
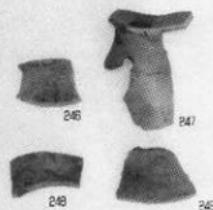
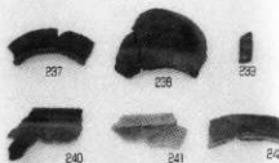
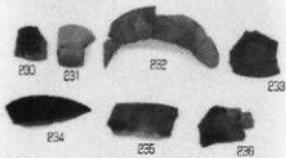
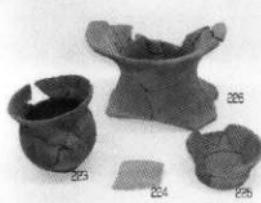
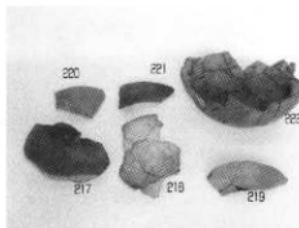
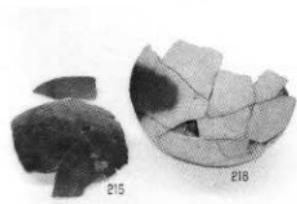
133

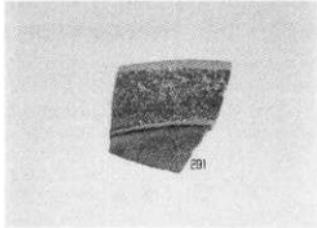
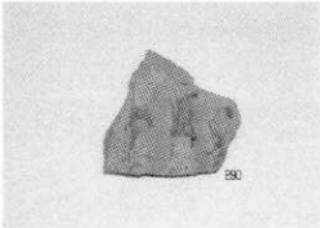
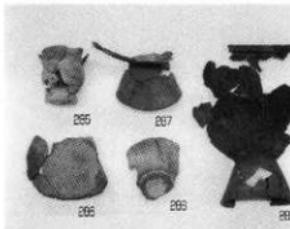
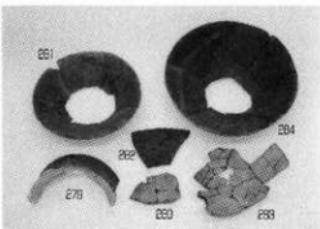
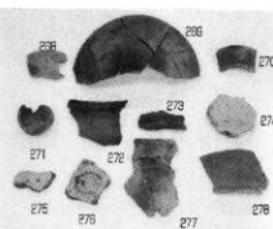
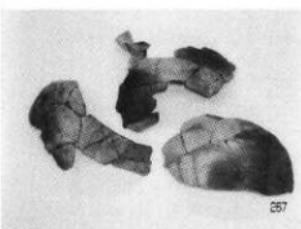
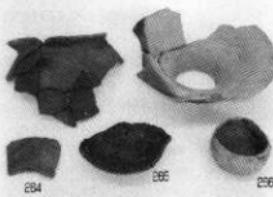
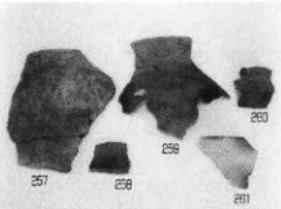
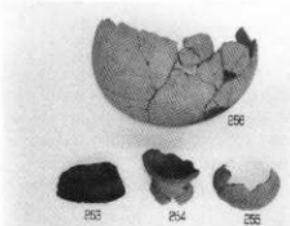
134











報告書抄録

ふりがな	しおべいせき						
書名	塩部遺跡						
副書名	山梨県都市計画道路「塩部町開国橋線」道路改良工事に伴う発掘調査報告書						
卷次							
シリーズ名	甲府市文化財調査報告書						
シリーズ番号	24						
編集機関	甲府市教育委員会						
所在地	〒400-8585 山梨県甲府市丸の内一丁目18番1号 電話 055 (223) 7324						
発行年月日	平成16年1月30日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査原因
	市町村	遺跡番号		度分秒	度分秒		
しおべいせき 塩部遺跡	山梨県甲府市 塩部二丁目	19201	74	35° 40' 14"	138° 33' 20"	20011107 ～ 20020331	県道改良 工事に伴う 発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
塩部遺跡	包蔵地	弥生～古墳	竪穴建物跡・周溝付 平地建物跡・掘立柱 埴物跡・方形周溝墓・ 土壤・溝跡		縄文・弥生・ 古墳時代の 土器・石器・ 木製品		

甲府市文化財調査報告書24

塩 部 遺 跡

—山梨県都市計画道路塩部町開国橋線道路改良工事に伴う発掘調査報告書—

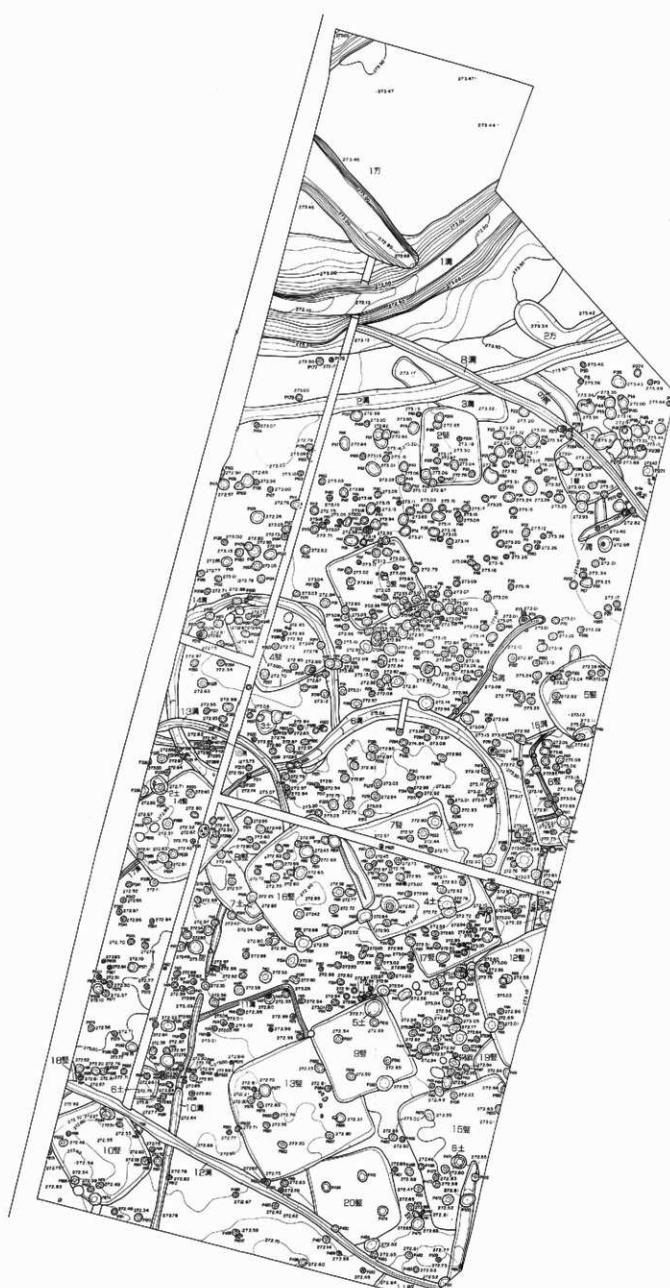
平成16年1月30日

発行 山梨県岐阜地域振興局・甲府市教育委員会
 〒400-8585 山梨県甲府市丸の内一丁目18番1号
 TEL 055 (223) 7324
 FAX 055 (226) 4889

印刷 梶内山印刷所
 〒400-0032 山梨県甲府市中央二丁目10-18

A B C D E F G H I J -34.35000

塩部遺跡



0 1 2 Km

